



好著紹介

「演劇をすべての人のために」  
—演劇の普及と創造— ￥1100  
道井直次 著

〔内容〕

- 1 新劇の多様性とその創造姿勢  
新劇の壁を破るための試論・松竹新喜劇の脚本を上演する理由・多くの実作にそくした演出ノート
- 2 児童演劇の歴史と課題
- 3 こども・おやお戯れ運動と演劇教育運動  
あるお母さんへの手紙・こどもをとりまく状況
- 4 演劇入門  
観客について・戯曲について・演出について「寒鴨」をテキストに首尾をつくした演出入門・「セールスマンの死」で戯曲研究

発行所 文 理 閣  
(600 京都市下京区七条河原町西南角)  
TEL 075 (351) 7 5 5 3

東り演第16回総会

と き 1978年9月22日～24日  
ところ 大宮市・八重垣荘(国鉄集会所)

〔内容〕

北海道、奥羽合同、東北、関東、甲府、中部の縦断ブロックセミナーの成果と劇団実態調査を資料として東り演の今後の課題を追求する3日間の白熱討論。

〔時間程・費用等詳細は追って事務局より通達〕

西り演第17回総会

と き 1978年8月19日～20日  
ところ 神戸市・北野天満神社

〔内容〕

基調報告、各劇団報告、交流会  
当面する西り演の諸問題についての討議。

作間雄二戯曲集

苦節15年、劇団弘演をきづき上げた全仕事。かえらぬ作間雄二をしのんで多くの働く仲間におくる—

〔収録作品〕

津軽ばか塗り 浅草象潟あたり  
津軽謀叛人始末 正・統おりん口伝  
秘密 喪の季節 雪夜  
西津軽郡車力村 八戸無産者診療所

好評発売中 ￥3,000

申込先 「作間雄二戯曲集」刊行委員会  
036 弘前市品川町1(奥茶ラジル内)  
TEL 0172 (35) 4 6 7 0

第8回北海道演劇祭

(第4回オホーツク演劇祭)

日程 9月16日 P.M 5.30 開会集會

上演 オホーツクブロック

「オホーツクに生きる」

(作・石上 慎 演出・扇谷国男)

9月17日 AM.10.00より

上演 釧路ブロック

「花咲くチェリイ」

(作・ロバートポルト 演出・永田秀郎)

上演 札幌ブロック

「放浪記」

(作・渋谷健一 演出・山根義昭)

会場 北見市民会館

(北見市ときわ町2-1-10)

申込先 劇団河童内 演劇祭事務局

(北見市幸町8-3-4 扇谷方)

TEL 0157 (24) 3 3 5 7

序論のまた序論

△生活者の演劇論のための▽

黒 沢 参 吉

前々から書きたいことはあった。ところが、いざスペースを買って書きはじめたら、途中で立往生してしまい、どう足掻いても先へすすまなくなった。予定枚数の三倍もヤレを書いたのはいいとして、胃潰瘍の症状が濃厚にでてきたのには閉口した。

と言って、このまま打棄ててしまったり、触れずに迂回したりというわけにいかない、ぼくにとってはそんな中味のことなので、糸口だけでもひきだしておきたいのだ。

書きたいのは、自分流の演劇論である。その序論というか、レジメの如きものを書こうとした。

入っている。ドしろうとでも、生活者でも、中味は同じで要するにアマチュアということだ。アマチュアの演劇論が書きたい。どうして、そんなものが書きたいのか。実はその答えをならべるのもそう容易ではなく、この辺から胃がキリキリしはじめるのだが、割にアッケラカンと出していくと、次のようになる。

まず、ぼくじしんがズッとアマチュアだったという。ひよんなことから舞台にのって芝居の魔力にとりつかれた少年の日からかぞえて四五年、途中貧乏や戦争や兵隊生活や散戦やらにとぎれとぎれながらだが、しがみついていたのはアマチュアの世界だった。くろうとにならなかつたのは、才能と条件とチャンスがなかつたから、なれなかつただけだが、三〇年前ぐらいからは自分の選択でアマチュアになった。もつとも、加藤衛さんたちのアマチュア演劇の概念には、なじめないものがある。これ反発したし、そこからアマチュアという呼名も使用を避けた。しかし、業余と言っても働く者といつても、あるいは生活者といふふうによんでも言葉の本来の意味でのアマチュアであることにちがいはない。

それから、ぼくのごく暫らくの作業が、そういう関心を培う内容だった。それを並べると次のようになる。

- 一九七三年春→京浜協同劇団20期生担当
- 七四年春→
- 七五年春→高津演劇教室担当
- 七六年秋→川崎演劇教室担当
- 京浜と高津の担当期間はそれぞれ一年、さ

いこの川崎演劇教室は一年半余で、つまりここ五年間アマチュア中のアマチュアたちと一緒にすごしてきた経緯がある。

また、このうち七四年から四年間、川崎市の社会教育委員というものになり、委員会議動とは別にじぶんのしごととして、川崎の勤労青年の文化活動をテーマとしてたてたことや、川崎市高津区で昭和のはじめから一〇余年故上田久七さんによってやられた村落劇場―溝ノ口青年演劇部の活動の影響などが、右の作業のシャフトになってもいる。

故郷をはなれて川崎へ働きにきている若い人たちの精神的支えとしての演劇活動、自治をそだてる権利としての社会教育と結びあった演劇活動、そういうものが広いアマチュアを基盤に成立する筈だ、というおもしろい五年の実践の中で少しづつ固まってきた。

さらに、現在の東リ演のすすんでいる方向への、ぼくの疑問がある。

ぼくにも十分整理できていないことだし、だいいちつい先頃までぼくじしんも、東リ演をその方向へ積極的にすすめる役割をになっていたのだから、この辺になると気楽には書けないのだが、多少単純化しても疑点をだし

ておこう。

戦後の、主に労働者によっておこされた演劇活動は、実質的にはアマチュアの創造活動だったけれど、労働運動や専門演劇のいちはやいテコ入れの中で、アマチュア性をおくられた自然的なものとして切りすて、自立演劇―働く者の演劇というように衣がえした。そのため取得したプラスは、むろん少くないが、頭でっかちでセツカチで狭小な面もあるわね、その最たる特徴は、新劇の垂流に一本化されてしまったところにある。

東リ演は、職場自立演劇の崩壊後地域中心に活動をすすめてきた、はぐるま、演集、静芸、京浜の四劇団のイニシアティブで生まれた。これらの劇団は形は業余だが、創造課題はアマチュアのそれを超えるいわゆる第三の道を志向していたから、それがおのずから東リ演の主流になり、後から加わってくる非専門の劇団につよい影響をあたえた。

ここでもアマチュア性は、克服されなければならぬ尻尾として扱われ、個々の劇団が成立から一定期迎ったサークル的な要素ともども、否定されてしまっている。

ぼくらの劇団は地域で市民権を得るため、何よりいい芝居をつくって市民観客の支持を

えなければならぬ、という反論がたいテ一ゼがそびえ立って、足手まといになる幼稚な遅れた部分を鬼眼視する風潮が、ぼくには感じられる。それはまちがっていないか、というのがぼくの疑問だ。

業余の専門劇団と表現されるような第三の道を、ぼくは否定しない。

ある劇団がそういう道をめざすには、それなりの内からの要求と基盤である地域の外からの要請があるだろう、と理解する。

しかし、この道は劇団の頭株がめざしたかどらといって、到達が約束されるような簡単な道ではない。危険を承知で言わせてもらえば、東リ演の地域劇団でそういう質の仕事がみられるのは、はぐるまと演集と京浜ぐらいでしかない。京浜といっても「金冠のイエス」と「星の牧場」は同列におけない。ぼくの観ることのできた芝居は多くないし、観られなかったなかにズバぬけたものがあつたら謝まるしかないが、観た範囲でいえば、それはアマチュアの芝居だということだ。

どうして、アマチュアか。作業が完了していないからだ。つくり手と

してのピリオドがうってない、やらなければならぬことが残っているからだ。

ぼくはそのことにこだわっていない。アマチュアでいっこう構わないとおもっている。ところが、それらの芝居の多くには、アマチュアとしての魅力があまり発揮されていない。つくることへの初心のひたむきさ、念の入った誠実さ、いきいきとしたのしき、そういう質のものがみえてこない。つくられる無台はぼくサマになっているが、つくっている人間のみずみずしさが伝わってこない。そのことに、ぼくはこだわる。

観客の支持をえるにはいい芝居をつくらなければならぬ、というテーゼは、前にも言ったが反論したい。

しかし、どういう芝居がいい芝居かは、そう単純に図式化できない。いわゆるうまい芝居だけがいい芝居なわけではない。うまくなくとも観客の心をとらまえる芝居は十分ある。そうでなかったら、アマチュアが芝居をやることなど愚の骨頂だろう。芝居の魅力と観客の心とは千差万別だ。やる側、ぼくら観客の心とそこにあるし、あっていい。

観客にとっていい芝居とは何かを考えるの

は必要なことだ。だが、観客の要求という言葉でそれを先行させるのは、奇妙ではないか。まず、ぼくらにやりたい芝居があるのが本当だ。それが、いい芝居の種子だ。

やりたい芝居をやりたいのあるやり方をつくりあげていく、それが稽古のプロセスであり、観客は舞台から進行する芝居とあわせてぼくらの作業の全工程を感じとる。いい芝居かどうかを観客はこの複眼的判断でできる。つくられた舞台がサマになっているても、ぼくらのやりたさがひ弱く、やりようがいきいきしていなければ、観客は満足しない。

ぼくらの芝居が専門劇団の芝居より面白いと言われることは、そう珍らしくない。奇蹟のようにだが、ぼくには右のようなことが秘密とよく鍵におもえる。

舞台上人間が出てくると、犬には見えないで人間に見える、という言葉は芝居にある隠し穴を比喩している。

楽器を演奏できない人間がシンフォニーのメンバーになることは考えられないのに、日本語もまともに喋れない人間が芝居には登場する、という辛辣な言葉も同義のことだ。

気の小さい人だったら、手足がすくんでま

われ右したくなる。

だが、さいきんぼくはこんな風に考える。どんな芸術分野でも基礎技術ゼロでやれるというものはない。それは確かだ。それで芸術の神さまはぼくらを憐れんで、基礎技術のいらない、人間が出てくると犬には見えないで、人間に見える芝居という分野を与えてくれたのではなからうか。

とくに、くろうと志願でないアマチュアのぼくらには、「真夏の夜の夢」の職人たちのように熱烈な好奇心とたのしみの期待で、芝居に對した。

東リ演の劇団の現状についてぼくの知っていることは確かだし、断片的だ。だから思いすこしやひとり合点もあるだろう。それを承知で、もう少し書く。

いくつかの劇団がここ暫らくの間に活動を停止したり、低迷に苦しんでいる。新しいメンバーが増えない、絶対数の不足になやむ声もきく。舞台の印象も、くりかえすようだが、発潮とした若さに乏しい。

いわゆる不況風のおおりをうけて、劇団の運営も苦しくなったし、若い人たちの参加も以前より減っている。一般的にいつて、演劇

活動のやりにくい季節である。

こういふ苦しい中で活動をすすめるとき、殊更に第三の道への志向がよくなるのではないか。とくに長く活動して高年令になつた指導メンバーにあせりが出てくるのではないか。そのいい仕事へのあせりが、若い新しいメンバーを引きまわす傾向を生み、劇団の民主主義を損うことになつてはいないか。五年間若い人たちと一緒にやつたぼくの判断では、集団をつよとする原理は民主主義をつらぬくしかない。いい仕事というものが、特定の誰かの手腕にたよるのでなく集団全体の發揮する力量でしとげるものなら、やはり民主主義が基盤になる。

劇団の民主主義は一般的な民主主義ではなく、創造的民主主義などと議論されたこともあるが、民主主義とは元来人間の創造性を掘りおこす原理だから、そんな注釈は蛇足だろう。

民主主義はいま、埃をかぶっている。粗末にはできないが毎日使うわけでもない、という感じである。

アマチュアということ、サークルということ、これなどもっと冷遇されて本棚の隅に逆

さにつっこまれている。

みんなわかかってしまつて、卒業してしまつたということだろうが、本当にそうか。芝居をやる、劇団をつくる、その原点としてこの三つのことに目をむける必要がありはしないか。急がばまわれ、である。

たとえば前記の期生、教室でぼくら担当者はいっさいの委員会をおかなかつた。すべて全員の直討議でことを決める。ひどく手間ヒマはかかるが浸透は一〇〇%だから、実践にうつされると速いし効率もたかい。

稽古も演出者を中心ではない。問題にぶつかる全員がチエをかりる。オレなら私ならこうやるというものをさせる。初めはじれつたいが、それが稽古場に活気をもたらした、芝居をおもしろくする。

ひとりの問題を必ず皆の問題にする。お互いよつたかたつて裸にしあう。本人がわづらわしがつてもお節介をやめない。人間まるごとこのつきあひがないところで、芝居づくりなどできないという論理をおす。

怠けることを許さない。ただし、許さないのは担当者ではなく、全員。なぜか、怠けることで創造活動のたのしさを破損する権利はだれにもないから。

こうした状況は、民主主義を原則にしたアマチュアのサークルであるため、つくりだしやすかつたとぼくは考える。

質より量というつもりはないが、多くの青年をぼくらの芝居の世界にひき入れることが大切な時代だともう。

それは、ぼくらの芝居のためにも大切なだけだ、全く同等に日本の青年のためにも大切なのだ。

高津の教室をはじめ三ヶ月、生徒が五人ほどで経営がなりたつた中止の声がでたとき、私はここで生きがいをつかんだのです、絶対やめないでください、と訴えられ、そのあとかれらが自主的に募集活動をやつて一五人に増やしたいきさつがあるが、この訴えをぼくは肝に銘じたい。

生活者であるぼくらが、そういう自覚にたつて芝居をやりはじめてから何年たつたらう。戦後からでも三〇年、東リ演結成を元年とすればたつた一五年、あせらなければならぬ程の年月か。

いい芝居をつくるのも結構だが、いい芝居を生みだす種子と土壤をしたくすることを、忘れてはならない。

レポート

劇団の実態調査を整理しながら

こぼやし・ひろし

私は猛暑にうだりながら、みなさんに御迷惑をおかけした東リ演の劇団実態調査の整理に当っている最中です。西リ演でも行われた

ようですが、非常に細かい調査項目があり、書き入れる方も大へんだったと思いますが、整理する方はさらに大へんなのです。

仕事は遅々として進まずいらいらするばかりです。このいらいらは仕事の量にもよりますが、どこの劇団も展望が見出せないで苦しんでいるのが調べれば調べるほどはつきりしてくるからなのです。

東リ演の事務局長なんて、仕事をしなかつたら何もなくてもいゝのです。しかし、何かしなければ事務局長の存在意義がなくなるというところは東リ演の存在意義もなくならないということもあるわけですね。だから受け

らいらしてくるのです。

こういうことは、この二・三年のことのよう

な気がしてなりません。ここで私は実態調査の報告をしようと思つているわけではないのです。これはいづれ、まとまった段階で報告したいと思つていますが、思いついたことをグチのように並べてみるのも、と思ひペンをとつたわけです。

毎度のことですが、こんどの場合も「こんな面倒な仕事は劇団が忙しいから協力しかねる」といつてくる所もあり、また「何のための調査か、意味があるのか」と叱つてくる所もある。事務局長なんてガタガタせずじつと

しておれという暖いお叱りかも知れません。まだ、そういつてくる所はいゝ方で、ウンともスンともいつて来ない所があるのです。手紙で催促する。

何もいつて来ない。

電話を入れる。

「わかりました」という声を聞いただけ。しびれをきらし、わざわざ黒沢議長から直筆のおハガキで協力を丁寧に頼む。

それでもウンともスンとも。

やむえず議長より再度懇願。

それでも。まさに音なしの構えである。無駄な抵抗はやめなさいということかも知れません。

私は劇団ではよく動く方だと思つている。装置の紙張りから校門のピラマキまで、劇団代表でこれだけ動くのは私くらいだと思つている。何も劇団がやってくれというわけではないが、公演が近づくと劇団代表としてやらねばならん気分になるから面白い。

実態調査の方も、これだけ抵抗されても、事務局長としてやらねばならなくさせているとしたら、東リ演もまだまだ健在という所かも知れない。因果なことです。調査というのは一つの基準がなければ調査の意味をなしません。ところがまじめに正確に答えてくれる劇団もあれば、不まじめな回答をつらねてくる劇団もあるのです。ちようど、この原稿をかいている最中に中

部プロック会議の報告が入り、劇団つむぎ座が解散したからという訳ではないのですが、つむぎ座の回答は後者に属すると思うのです。

「創立より定期公演 回、多幕もの 本、一幕もの 本」という設問があったが、回答がふるっている。多幕もの十本ぐらいい、一幕もの十本ぐらいい、ぐらいいは参った。

また「創作劇が成功した場合、その成果、失敗した場合、その理由」を問うているが、これも見事である。「成功か、失敗かは観客一人一人がきめることである」と突はねています。成功不成功を自分で判断できないのですから、全く無責任な集団だと思ふのです。

こういう集団は割に多いのです。芝居にうんざりしてロビーへ出てくると「ありがたうございます、ありがたうございます」と幸せそうに頭を下げてくれる。こういう集団にあらうと無邪気と考えていゝのか、小馬鹿にされています。少くとも観客に責任を負う集団でないといわねばなりません。

しかし、数字というものは実に正直なものです。不正直も正直に表わすのです。

ある集団の公演会計報告です。

収入 ▲チケット売上げ 二〇〇〇〇〇  
力が必要ならば生きのびることはできないと思ふのです。  
そういう努力もせずに「新人が入って来ない」と劇団の問題点にあげ、聞きなおってはいない」と劇団の問題点にあげ、聞きなおってはいない

また、団員の減少を訴える劇団が非常に多いのもこんどの調査に現れた特徴です。かつて何人いたのが何人になったというデータがないので具体的にどのよう減少したかはわかりませんが、専門劇団を除き、五十人以上の集団は一集団しかなく、四十人以上に下げても二集団しかないのです。かつては少くとも七集団はあった筈ですから、全体的に衰弱が進んでいることを示していると思ふのです。非専門劇団二八集団中七集団が退団者の調査欄を埋めてないので正確ではないが、一年未満でやめたのは男十四人、女四人であり、一年から三年でやめているのは男二十人、女四人に達しています。

また未結集を訴える集団も多くなっています。これが稽古場の確保の問題とつながってくるでしょう。石るつのように区の公民館を借りているので八時に集まり、九時に追

(でたらめ) ▲助成金四七〇〇〇 (正確) 計二四七〇〇〇

支出 ▲会場費一五〇〇〇〇(?) ▲装  
置八〇〇〇〇(?) ▲照明一〇〇〇〇〇 ▲衣裳  
一〇〇〇〇〇……等、全く端数のない公演の会計決算です。そんなことは考えられません。ということとは正確な会計のない集団ということにもなるのです。

正確な会計のない集団が信頼される筈がない、それがわからない組織者はすでにその瞬間に資格を失ったものといわねばなりません。芸術にたずさわる者は細かい金の事なんか、と思いついていたとしたらとんでもないことです。

また、個人別のチケット売上実績表の欄に「何のために必要か」とかいて斜線がひいてある集団がありました。この集団では普及と創造の関係をどう考えているのでしょうか。創造にもえる度合が普及に反映し、それがまた創造にはねかえらるという当然の理屈がわからない等が筈がありません。それだけではない、普及に自信のない集団や、バラツキが多い集団は集団の停滞・空洞化がはじまっているわけですから、つねに点検しなければならぬデータなのです。それがわからない集団

す。だから稽古場さえ自分たちの本場の拠点になればということ稽古場ブームを起しているのです。だがそれだけで解決がつくのでしょうか。

これでは演劇で世界を表現できるかでもっとレベルを下げて、演劇で若者を捕えることができるかを論じなければならぬようです。それとも東り演舞下の集団に魅力がなくなつたかのどちらかかと思ふのです。

これは共に観客の減少ともつながり、ひいては公演の赤字の慢性化ともつながってくるからです。

構成員二十人以上の十五集団の公演を財政面からみると、二五公演中、十一公演が赤字公演になっています。最高は京浜の「金冠のイエス」の四一―一六四円ですが、これはそれだけの成果をえたので問題はなしでしょう。しかし数万円から数十万に上る赤字は当然劇団財政を圧迫し、縮少再生産になって行くわけですね。

公演の財政規模も四百万以上かけているのはぐるまの「昆虫記」と京浜の「金冠のイエス」です。あと百万円代は「かあちゃん」明日「(演集)」ロミオとジュリエット「(名

がまだあるということは情けないことといえましよう。

しかし、そういう集団は別にして全体的に苦になることは沢山あります。まず、どの集団も中堅不在に苦しんでいるということであらわれています。

A劇団、男十七人女二二人中、十年以上が男十一人女八人と半数以上しめ、一年未満が男一人女七人でその中間が極めて少ないのです。

B劇団は男二三人女二〇人中、十年以上男十三人女七人。

C劇団は男六人女五人中、十年以上はなんと男五人女三人となっているのです。

またD劇団は男十九人女十一人中、十年以上は男十二人女六人とこれも半数以上をしめています。これは一つの例にすぎません。

いずれいゝんなデータ報告しますが、三年から五年の劇団経験者が一番少ないのです。生活の矛盾が出てくる年齢だから当然ですが、裏を返せば、それをのりこえさせる魅力が集団にないということです。

とくに新人の定着の悪い古い集団は、集団の体質改善と、若者の創造要求を吸収する努力がなければならぬと、

芸)「金冠のイエス」(名古屋)「日本の幽霊」(埼玉)「ひしめきあふ不毛の季節から」(仙小)「浮標」(弘演)「オホソツクの女」(新劇場)となっています。

その中弘演と新劇場は収支きつちりゼロ、(これも不思議なことですが)名芸は助成金で赤字決算、あとはぐるまを除き全部赤字公演なのです。

大型公演で勝負し、何とか観客を吸引しようと思ふのですが、それに失敗し、息切れがすると縮少再生産に入っていくのです。これは一つの悪循環ともいえると思ふます。これはどこかでたち切らねばならないようです。

それどころか、縮少再生産に入ると創造費がどんどんけずられて行くようになるのです。

少くとも予算の半分以上を創造費にかける余裕をもちたい所ですが、三〇%代から、なんと一〇%代に落ちこむ集団があるのです。金額にして四万円ぐらいいですが、今時、四万円でも何ができるでしょう。金をかけずにいゝものをなんて負け惜しみとしかいゝようがありません。

まだ、一ぱい云いたいことが実態調査から出て来ますが、また。

# 梅雨あけまで

— 観劇雑感 —

萩坂桃彦

### たのしきについて

「てんでん満の南瓜姐ちゃん」というのが、大阪からやって来た。

「やって来た」というのが適切な感じで、

好奇心もあってか、その日（7月1日）池袋小劇場は超満員である。

この集団には、ぼくは全く通じていないので、以下いくらか物珍しげに書くことは許して載かなければならない。

その人達は「プレヒト勉強会」と名告っていた。この芝居にも「ひようせつ・プレヒトのセチュアンの善人」より」とサブタイトがある。

森田博士のひようせつ本は面白いといえは面白い。

時代を明治十八年にとり、場所は大阪、背景に洪水、飢饉による民衆の窮乏、そして自由党士の救国蹴起という革命の動乱なども綱

いませで、ソングも、多く当時はやり唄、俗語、民謡などに置き換え、（林光氏の「セチュアンの善人」の四曲などもあるにはあるが）、おおむね意識的に猥雑、ユーモアを狙った趣向盛沢山のしるものである。

作り方も一人何役という振分けや、切絵で表わした人物なども使い、声色、鳴物と、大変な賑やかさだ。

どうして、ひようせつとは云え、なかなかオリジナルであり、大阪的地の本として整っているかには思えた。何故これがプレヒトからの劇物でなければならなかったのかと返って気になるほどである。

結論からいうと、観劇後、全くプレヒトを感じないのである。ひようせつという手の込んだ労力の割合に、そこにひようせつの原本の本質が消えているのでは「ひようせつ」は借りものではないかという気がしてくる。

なかったと、ぼくには思える。

プロレスの空手チョップ粉いの立廻りや、やたらに出てくる「あぶな絵」的趣向や、一人何役と忙しく入れ替る時のアドリブのおもしろさ、とにかくゴタゴタと活気にとんだ舞台は珍しいほどのものであって、それが、どこか生活としても浮いて見えぬというのが不思議である。「大阪的、バイタリティ」を感じたとする云い方が許されるか、どうか。

香代の足立厚子、お新のはじかきこ、市太郎の市田真一、髭を蓄えっぱなしで、建具屋・乞食・中年男の弟・家主・「一方の旦那」・壮士をやりまくる早乙女鬼太郎といった役者の持味は東京には見当らない。

香代には、近松の女にでも出てきそうな哀れさがある。ぼくはこの南瓜姐ちゃんをおもしろく感じたが、それもぼくだけの好みではないかもしれない。

似たような？面白さで云えば、黒沢教室とでも名附けた川崎演劇教室の期生卒業公演「ゴキ博士の残酷なビリオド」というのがあった。演出は団のぼる氏。京浜協同劇団から「金冠のイエス」のコンビ、護柔一と山口あきおの両君の支援があり、教室から演劇集団

プレヒトを勉強するということは、プレヒトの後塵をなめることではない筈で、ましてやこのような換骨奪胎は、さる二月、大阪での初演の際の「明治十八年の大阪を舞台にしたわたしたちのプレヒト劇は、未熟ではあるが、それなりに今日的リアリティを示した舞台だと好意的評価をうけた」（プレヒト勉強会・代表小松威夫氏のことば）公演パンフより）というのは、果して観客はこれをプレヒト劇として迎えたのだろうか、好意的にぼくは気になってくる。

「セチュアンの善人」のシェンテと大阪天満の娼婦南瓜姐ちゃんこと香代は、かたちは似てはいるが違ふと思う。シェンテが矛盾の中にさいなまされて生きてゆく姿は、三人の神との対決において、読者に、或は観者に怒りを醸成させるが、香代は、心やさしい娼婦の哀話として沈んでゆく。プレヒトの神は峻烈に告発されるが、ひようせつ本の神は切紙細工のように他愛ない。結果としての滑稽さから云えば似てはいるが、ぼくの裡にはこの二つは交差しないのである。むしろ、プレヒト劇などと云わないで、大阪世話物的な興味でみれば、結構娯楽性がふんだんであり、事実、興味はそのようなものでしか

に脱皮した「高津」や解散した劇団労芸の残党も見え、数人の卒業生がどこに在るのか判別しかねるほど、ふくれ上っている。

ゴリブリのエキスマ、うなぎ・どじょうの「ぬめり」などを化合して新業「ゴキロンV」を發明、それをわが子アミーノに投棄して超天才児を仕上げる。この少年と武耳太郎博士の公開討論で武耳をノックアウト。ジャーナリズム、国家機構、製薬会社が、ゴキ博士の争奪に暗躍する。

果しないエスカレートの本、博士とアミーノに残酷なビリオドが来る。

博士の女助手が国家機構のスパイだったりに残さず、厭しみが若者向きだ。

これは黒沢参吉氏を中心とした期生たちの集団創作ということであったが、其趣に一つの発想があり、それに文珠の知恵どころか、寄ってたかって、場面やセリフ、加えて本番当日のアドリブや偶発性で、影らみにふくらむ。だから、結果的には、舞台でいかにもたのしそうなこの人たちが、客席でもたのしからぬ筈がないということになる。

もはやこの若者たちの楽しさ、発刺さを隠しめる余地はない。ただ、こういう仕事を通して、どんなかたちで、この人たちの中に、芝居というものが定着するだろうかという老婆心は残った。

客席にいて、どうしたわけか、40年以上も昔の、浅草オペラ館の木の椅子の記憶が甦えてきた。愉しむためにあつまる切ない悲しさである。ラインダンスの尻尾から二人目の踊り子に見惚れて、何回か通ったが、その子もいつのまにか消えていた。

**石るつ小劇場**

「石るつ」と「世仁下乃一座」の、競合というより、相互扶助的なこの企画は好感が持てた。

「或る朝」（勝又芳子）「日本経済の会」（境野エリ子）「飢渴」（境野修次）の三本が「石るつ」、トりに「みつつ、三途の川の守り唄」（岡安伸治）が「世仁下」である。この構成で「ああ日本は……」となっている。こういうタイトルは一九七六年の「日本警察学入門」の影響が生んだと云えたかもしれない。

ここでは「飢渴」と「みつつ、三途の川の守り唄」を紹介しよう。あとの二つは一寸ふ

れにくい。芝居以前の要素が多すぎて、ぼくは呆気にとられてしまった。

「飢渴」は男(金井慎吾)がいて、女をせめたてている。女(斎藤幸子)は友人の妻である。男は、友人に貸した金が返してもらえず、彼自身破滅に傾いている。芝居は、殆んどこの男のセリフで蔽われ、友人の妻は終始にこやかに、あの人もうすぐお金を作って戻って来ます、と応待している。この妻君の夢を見ているような表情がむしろ、終りになつて、あら、あの人が帰って来たわ、といそいそと舞台奥手のカーテンを引くと、そこに夫が首を吊ってぶら下がっている。「あなたこんなところにいらしたの」。

男は仰天して逃げてゆく。つまり彼女は正常な精神ではなかったのである。

これは、芳地隆介氏の「核人間」や展望の林陽子さんの「セイタカアワダチソウ」を連想しながらも、おもしろいと思った。仮りにこれらの影響が「飢渴」の作者境野修次氏にあったとしても、責めるほどのことではなさそうだ。「木場の鉄太郎」にもどこかとおぼけたユーモラスな太い線があったが、こういう屈託のない太さが境野氏の持味だとすると、それが労働者であるだけにたのしみになつてくる。

殺され、気持は歪み切っている。この渡辺役の里見孝雄、同僚川口の糸賀遼一が、サジズムとニヒルで、体制腐敗の極限の状況を見せるのが、この芝居の見所ではないかと思える程である。

鈴木、鈴木の妻のり子も連れられてくる。鈴木のり子、山崎の三角関係は、痴話喧嘩の域を出ないが、この三人ののしり合いも作者の意図にあったか。破滅への道行としては前作「別れが辻」と同工異曲だ。

三人は、射殺の場を送られる。寸前まで釈放ととりちがえて喜んで取調室を出てゆく後ろ姿がおもしろい。

幕切れは、川口が自宅に電話をかけるみじめなしあわせ、「あすの朝帰るよ」と云って毛布にくるまって、小さくなって横になる哀れさ。

ところがこのエピソードを、コインロッカーに棄てられた山崎(鈴木との間の)の赤ん坊? が語るといのがこの戯曲のアタマである。

先日、川崎駅のコインロッカーにも、晒の緒のついた赤ん坊が出て来た。

岡安戯曲はこうしたりアリティに執拗に喰い下るようだが、どうも事象に捉われすぎる

てくる。しかし、思いつきや発想だけに終始したらダメであつて、「飢渴」がどうにかセリフの芝居に仕上がったのは演出(芦刈宣夫)の功績かもしれない。

岡安伸治氏のもの、これでぼくは三つ目である。「賽の河原の舟遊び」「別れが辻」そしてこの「三途の川の子守唄」。

いまのところ、彼は作者というよりも彼自身のがり出さねばどうにもならぬといった関係はすっかり定着してきたが、かと云つて彼を「演出家」と見てしまうと無理がある。三つとも、彼の思想や芝居づくりの手際が彼自身の作品によることで発揮されるところをみると、どうやらこの人は演劇頭脳家とでも云うにふさわしい。

岡安劇のたのしさは爆死にも似た壮烈な舞台での討死である。何か云わんとして一向に成功しないもどかしさが、それ自体劇的なカオスをかもし出す。

今度の「三途の川の子守唄」も構想はバラバラに破れたとみるしかない。

登場人物の名で日本ということに解るが、時は戦前でもよし、或はこの先何年か未来に起きる状況としても想定できるし、チリや韓

気がするのである。  
△附記・ひとつ、人の世の薄情け。ふたつ不思議なことだらけ。みつつ、三途の川の子守唄。よつつ、世去れと唄いつつ。いつつ、いつも地像様が。むつつ、むかえに来てくれる。ななつ、泣く泣く石をつみや。やつつ、やさしい声がして。このつ、こつちと手をふるは。とうは、遠くで母の声。一三途の川の子守唄の頭に「みつつ」とあるのは、このお手玉子守唄かららしいが、出典のほどはぼくにはわからない。▽

名古屋ふたつ  
名古屋の芝居については、丸子さんの劇評があるので敢て煩わしく云う必要はないのであるが、劇団名古屋も劇団名芸もぼくには初対面なので、それなりに感懐が湧いた。両劇団からは行き届いた配慮も載って云いにくいめんもあるけれど、それはそれである。川崎に飯つて、確か早速といつたぐあい感懐めいたものを書いて送ったのであるが、それが両劇団にどんな風にとどいたか。

たしかに、ぼくはその日はエトランゼだった。端っこを見て全部をおしはかる乱暴をしているにちがいない。だから劇団名古屋の「祭り」は雨だった。(作・熊谷昭吾、演出・

国の状態もここには意識裡に入っている。クーデターを目論んだ革命分子の叛乱が起きていた。その街に、軍事戒厳令が布かれた。

鈴木という男が取調べられている。容疑はこの男、実は佐々木安男、党歴20年、統一戦線の理論家となつて居るが、これは取調べの手違いらしい。鈴木は平凡な地方公務員、42才、妻のり子との二人ぐらし。

取調べているのは川口という特高。そこへもう一人の特高渡辺というのが、女を一人連れてあらわれる。女は山崎。キャバレー勤めの女で、鈴木的情婦らしい。

実はこの二人の取調の担当は渡辺だったのに川口が取つ違えて調べるといった混乱を覗かせる。

渡辺の、鈴木と山崎に対する取調べは凄惨である。渡辺「首をふるだけじゃ解らないよ。△はい▽とはっきりいえばいいんだ。△いいえ▽なんていうのはここにはない」といった調子である。突きとばし、椅子にもたれるとその椅子を足払いして床にのけぞらせる。

渡辺は、クーデター騒ぎで、彼の妻と子供がうっかり街に出て、パトロール兵士に射

久保田明)を最近の劇団名古屋の意欲的な仕事の一系譜とみる知恵がない。この一つを涌して劇団を見るわけである。

その限りでいえば、劇団名古屋の姿勢は可成解りにくい。作品が異色であり、演出演技がシリアスであるということでの混淆は、観客にいかにもタイズめいた厄介な問題を提起している。

「祭りは雨だった」の祭りはメーデーである。そこには、かつては紡績工女だった彼女たちが、今では街娼にまで落ちて一人一人の佻しい形の、かなしい抵抗を奏でている。その一人だったトメ子はヒモ(彼女の情夫)に首を絞られて、ここには居ない。小さな胸をふくらませて都会に出て、紡績工場に入り、かたわら定時制高校に通い勉学にはげんでいるが人員整理で工場を追われて以来、飲食店の接待婦から街娼に転落した。それでもひたすら金を蓄めて、再び高校に復学するという清純な娼婦である。かの女の到来は学校でも混乱を起す。ここでの教育問題の提起が一つ。

もう一つはトメ子の父親が、洗い浚い田畑を売払って大金を抱えて、さらに一億円を夢見て都会に現れるという戯曲がある。彼の名はどういう訳か、西郷タカモリ。娘トメ子

のアパートを訪ねるとそこにトメ子の朋輩ツル子と知り合い、意気投合して、父娘ほどちがう仲で、結ばれる。というも実は、ツル子の黒幕が糸をひいてタカモリの持金を狙った罠。無一文になったタカモリ、しかしタカモリの子を宿し、女の情にめざめたツル子。この異形な夫婦が、雨のメーデーの広場で、殺されているとも知らないトメ子の来るのを待っている。

作者はこれを「現代漫画風景」と名づけている。たしかにトメ子の復讐にまつわるエピソードやトメ子ツル子のシチュエーション、西郷の形象などもそれなりに面白いけれど、もう一つ衝いて来ぬ。むしろ、作者の余裕のある、健康な傍観者のゲスタスが感じられてならなかった。

作者と作品の諧謔的な空間を、演出と演技は埋める手だてをとりがちがえてるとはよく思えた。演出者が作品の諷刺を重味としてとらえるのはいいとしても、その重苦しさをそのまま客席に落したのでは、作品の趣旨そのものに添わぬだろう。首をかき上げて、ぼくは戸外に出た。

これを名演小劇場の昼の部に見て、同じ日

「いい本だなア」と今更に感心した。そう思わせるものがやまなみの舞台にあつたかどうかは厄介な問題だが、布引けいが堤家の当主しすに言い含められて長男伸太郎の嫁になることを承引するところが、実にいい。かの女の意中の人は次男栄二なのだが、豊に顔をしりつけて、それを耐えている。からだ小刻みにふるえている(答だ)。

ぼくは迂闊だった。これはまさに「愛のドラマ」だったのである。

布引けいを受けた山岸英子さんは、今年二月の東り演大でこぼやし氏から、可成りきびしい指摘をうけている。

それが念頭にあり、かの女のセリフ言い方をきいてみると、成程、これは足りぬものの方が多いなと思う。あれだけの屈折、長い歳月を歩きながら、けい、の音色はいかにも単調だ。ただ救われたのは、瞬時も気を弛めず、懸命に立ちむかっているということである。勿論、一所懸命であることで、それだけで、何かが解決するということは芝居には余りないけれど、ただ何に向かつて、あんなに苦しんでいるのかということだけはよくわかる。

やまなみの舞台に出たころした気質は、演者梅津幸三さんにびつたしである。

(5月20日)に、地下鉄を乗り次いで、名古屋でも下町というのかどうか知らぬけれど、いかにも下町風に見える南図書館ホール夜の部、劇団名芸「娘たちの明日」に入る。案内役は名芸の谷辺康浩氏、ここでお礼を云っておきたい。

丸子さんは、名芸の舞台をジュニア小説ならぬジュニア演劇と呼んだが、わかり易さと素材さと舞台と客席との交流は、それに加え、ては松竹新喜劇的であると思つた。俳優などもすっきり馴染になつていらしく登場しただけで、客席から笑声や拍手が起きる。「地域演劇を地でゆく」という、これも丸子さんの言葉だが適切である。

問題は、六〇〇なり八〇〇なりの、いわば定着した観客に対して、時には「娘たちの明日」のようなホームドラマ、時には落語ダネ、時にはシェイクスピアまで、器用に見せてゆく劇団名芸の「薄め方」にある。ぼくは「娘たちの明日」一つしか見ていないので、この断言は無礼であるが、演技のキメ手にしてもムードに流れ、演出の処理にしても切れば血が出るような厳しさの一步手前に、仕事があると思う。

長らく、栗木英章という才能ある書き手の

しかし、梅津さんのこの粘っこい質実な特有の創り方は、実ははかならぬ、梅津さんが役者になつた時に、もう一つ殻を破つて、ひらけたのであつた。それは少数だったが、梅津さんに立ちむかえる役者がいることで可能だったが、いまはその部分が大きく欠落してまた、振出しに戻っている感が深い。

「女の一生」といううつつ蒼とした「愛のドラマ」はたしかに荷はかちすぎているが、後味は悪くない。

中堅というか、上のところですかかり根の坐つた役者を何人か揃えているのが、劇団埼玉である。役者こぼれの無い、どこかしっかりした「アンネの日記」を見てみると、この実力はぼくらの間では稀少と云える気がしてくる。

塚田恒夫氏(演出)の人物デッサンにも異論は鈍めず、オットーフランク夫妻(沢沢洋俊・永井洋子)、ファンダイン夫妻(川村武夫・平林多恵子)、途中から同居人になるデューセル(津村雪雄)などの可成ハイトーンでしかも隙間のない演技には感心した。もう一つとり立てて云えば、永井洋子さんにはこれまででの硬さがとれ、平林多恵子という人に

凝滞している堂々めぐりが奇怪であつたが、なにか、彼を斯くあらしめている土壌を知つた思いである。

あれだけの固定した観客が貴重であるとするならば、それに凭れるのではなく、それを核として飛翔をこころみる方が、より観客に対して親切な筈である。

「娘たちの明日」は姉妹三人いるというところだけが、チエホフの「三人姉妹」に似ているが、チエホフには人生があり、栗木作品には人生らしさはあつたが人生は無かつたとはいふは断ずる。しかしこのことは彼にとつて困ることだろうか。芝居の妙諦を拒むならばそれがかまわぬけれど、あの、赤提灯のお玉ちゃん(馬場三千代)、喫茶ルノワールの女主人(坂野加納子)、近所のお婆ちゃん(栗木慶子)そして、作者自身で見た開業医小倉などのかもし出したのしさが、あのあたりで流れてゆくのは惜しいのである。

ふっきれる手前まで来ているが、ふっきれないでいるというのが、名芸に対するぼくの印象だつた。

#### 愛のドラマ

甲府やまなみの「女の一生」の客席にいて(6月15日)時々ぼくは舞台をはなれて、

もこの人力量一杯の魅力が出たようである。気になつたのはアンネであつた。猪野真理子という人は「日本の幽霊」でゆうれいの歌をうたつた少女だつたような気もするが、どこか、カッキリと浮び出る個性の持主だつたようだ。それが、演出の要請もあつたのか、アンネでは明るさの強調が過ぎて、可憐な少女の匂いというより蓮々葉に見えてくる。勿論これには人それぞれの好みもあるもので、一概には云えないが、意味づけを人一倍大切にしながらの演出の意図が裏目に出たと云えなくない。もっとも控え目の味で保ったベーター(岡本清)とは好対照にはなつた。

もう一つは、かくもポピュラーになつた名作は原点での押え方がむつかしいということだ。意外なほど、ナチ・ファシズムのむごさが、冷たく背筋を走るようなものとしては伝わって来ない。観客にも、馴れからくる感覚の鈍磨があるのかもしれないが、それ故にこそ、この戯曲はそれを抜きにしては、いま、上演の意義はうすれると思う。これは「アンネの日記」を創る上での研ぎ澄まさないければならぬ新しい課題だと、ぼくは考える。

#### おわりに、秀作ふたつ

この退屈な説物は、ほぼ五月以降梅雨あけ



までの、観劇の印象をうろろと書いているので、読者の迷惑も承知であるが今号に限り、ウメ草として寛容を願わねばならない。それにしてもこのへんで筆を折る。

最後に殆んど取巻ともいえる二つの舞台についてふれておきたい。

岐阜・劇団はぐるまの「かさぶた式部考」(秋元松代作)はこれも丸子さんの劇評があるので重複は避けたいが、消し難い自分の印象もとどめておきたいのである。

二つの点で、ぼくは感心した。一つは決して容易しいとはいえないこの戯曲を、何をどう見せるか、伝えるかということで明晰な答えを出していること。もう一つは、これに限ったことではないが、舞台づくりの見事なはぐるまのアンサンブルである。

知られるように、この戯曲を、衆生を救う生き仏の智修尼の、生身に果喰う女の性の無常感から切り込む方法もあり、劇団民芸の奈良岡朋子の智修尼に托した作り方はそれであったし、またそれはこの作品の大きな魅力でもあるが、もう一つは、豊市の母親伊佐を通してこの戯曲の基本構造になっている衆生の悲しみそのものをと詰める作り方である。

こばやしひろし氏の演出は後者をとった。その、くつきりとした演出線上に浮び上った伊佐(近藤康子)は実に印象ぶかい。

アンサンブルでいえば智修尼(汲田正子)一行のお巡りの行き先さざさでの、描写の多様性、躍動するいろいろな人物の面白さ(藤沢伸二、大場垂矢子、大塚鏡子、加納美千子や西野富司子、山口和紀と粒が揃っている)それが決して附随的でなく主題にきっかりと組みこまれているのである。

それと何と云ってもはぐるまの裏の仕事の密度。

芝居の情景や間をとらえた音の繊細さには脱帽した。一つの擬音が、舞台の俳優の心理にかかわる深さ、当然といえば当然であるけれども、まだまだ、照明、効果、音響など附属物としか扱われていない例が多いのだ。その意味で、この生きた、はぐるまの実証は教訓的であった。

青年劇場の「夜の笑い」(飯沢匡・作並演出)も、近時、快哉をさげふに足る作品だった。観劇後、アンケートはがきにぼくはこんな風に書いている。(青年劇場団内ニュースより)

「春の軍隊」。自分だけは幸福であると御満悦の男に訪れる戦争の脅威は、見ていて怖い。笑ってばかりも居られなくなつた。マイホーム成れりの得意然とした前半と破滅にうちめされる後半をうまく使いわけた後藤藤吉が達者。村人では農協組合長の森三平太が面白い。大道具壊しの仕掛にも感心した。

「接触」。おごそかにも畏くも侵すべからざる尊厳さを、最後のドンデン返しを秘めつつ、堂々と演じ切った小竹伊津子の貫禄。かの女と渡り合う細川いよ役の藤木久美子のさわやかな演技がゆかいだ。学校職員では教頭の青木力弥を褒める。

以上の二本で見せた「夜の笑い」はシリアスドラマではなしえぬ鋭い諷刺と痛烈な警告を観客に与えた。

ここでは「夜の笑い」の内容は一切省き、独りのみこみの短評にとどめるけれど、「多すぎた札束」「偽原始人」「夜の笑い」などでこのところ拓かれて来た青年劇場の新境地は見逃せない。

(J)

## 劇団通信

### 通信依頼の要領

その後とも忙しくご活動のことと思えます。さて八月中旬発行予定で39号の編集に入りました。西リ演説会の延期などあり、誌面が些か淋しくなりますので、活発な劇団通信で補いたいと思います。ふるって御返信下さい。

- ①近況・公演などありましたらその成果を
- ②秋までのスケジュール
- ③わが集団の問題点
- ④その他

〆切七月十日を守って下さい、  
(通信はほぼこれに準じて答えてある)

### 演劇サークルやき

編集部の皆様、本当にご苦勞様です。いつまなごらのご連絡ありがとうございます。

さて、私達演劇サークルやきは、今秋(十一月二四・二五日)伊丹市立文化会館大ホールで、初めての本格的創作時代劇「俳人鬼貫

伝・伊丹の秋」(作・佐坂茂男、演出・宇間太朗・村川直(ヘキニブルト))に取り組みます。俳人鬼貫は、江戸時代「東の芭蕉、西の鬼貫」と云われて「まことの外に俳諧無し」「本来無一物」等、武人として俳人として元禄期に活躍した、私達の郷土伊丹の生んだ一大俳諧師です。大正時代に岡本綺堂の戯曲「俳諧師」で世間に発表されております。

初めての本格的な時代劇ですので、サークル員一同、大変な仕事と、不安とやる気の交錯している昨今です。全国の仲間への暖かい御支援をお願い致します。(宇間太朗)

(伊丹市千代字船原20-19 坂上方)

### 劇団どろ

①新稽古場を無事確保することが出来ました。従来12坪の稽古場から30坪の大稽古場にすることが出来、大開通り「どろ」の芝居小屋として、空間の活用をして行きたく思います。

どろん子劇場も2年目を迎え、劇団員書き下し児童劇「ロロの冒険」十場(作・杉原まこと)四十分の稽古場開き公演・外部移動公演に向けて奮闘中です。

- ②スケジュール

7月2日どろん子劇場(どろの芝居小屋公演・2ステージ)

7月23日どろん子劇場(団地移動公演・2ステージ)

8月19日県民土曜劇場「ゆき」再演(2ステージ)

11月18・19日第二期演劇研究所卒業公演(4ステージ)「木かげの家の小人たち」(原作・いぬいとみこ・脚色広渡常敏)

③2ヶ月に一回の公演活動(どろん子劇場移動公演が本公演の合い間に入ります)しんどく、イライラが、疲れが蓄積されて居ます。頑張ります。

(神戸市兵庫区大開通7の4の7)

谷垣ビル4F)

### 人間座

◇昨年(昭和五十二年)は、瀬戸内海の、水島石油コンビナートによる汚染状況を告発する創作劇「笛よ、たかなれ」(原作・右達俊郎、脚色・草川八重子、演出・芦田鉄雄)を上演しましたが、今年は九月に、府文化芸術劇場として、座の田畑実が二年ぶりに書き下ろした「東洋民権百家伝はこのように書かれた」を座創立二〇周年記念公演として上演し

ます。

自由民権の大運動が澎湃と湧き起った明治の十年代。彗星の如くに現れて、名著『東洋民権百家伝』(『岩波文庫』所収)と、他にも『自由艶舌女文章』などの夥しい政治小説を書き、己れの青春を駆け抜けて三十四才の若さで夭折した、丹後宮津の生んだ不世出の民権家小室信介の生涯を史実に基づいて描いた芝居です。(九月二十二日・二十三日・府立文化芸術会館、入場料千七百円)。

◇創作劇『カルメンになりたい』は、中学生のための朗読教室と付け合せて、各学校の国語科・生活指導・視聴覚の先生方の御指導と御援助を頂きながら、昨年春から二年つづきに府下・市内の各中学校を巡回中です。すでに約三〇校を回りました。

(京都市左京区下鴨東高木町十一)

#### 劇団北芸 (北方芸術集団)

① 5月18・19日2回、カミユの「誤解」をやりました。実母実妹の肉親殺しという筋だけに、整理したり、開幕前に解説したり、色々と理解されやすい様な上演方法もあるのですが、ほんの一部分に手を加えただけで殆んど原作通りやりました。過去の上演の失敗

点問題点を学び、いろいろと知恵を絞ってやりましたが、やはり難かしいとか消化不足の感は免れませんでした。

でも新人女優二人の必死の演技が今後に業しみを残して呉れ、舞台美術と音楽の方はいろんな人々の協力でよくできたと思っています。

(北山)

② 鋼路小劇場No.10への取組みを柱に、二つの地元合唱団公演の演出、照明とビクトリア合唱団の照明と一つのバレエ団の舞監と照明の仕事で、5月公演の時の赤字埋合せ資金作り。

③ (1)、就職、受験などで折角の初舞台で得たものを、その先活かせぬまま若い団員が退団団体せざるを得ない事。(2)、時々誌代を遅らせさいそくされる事。(木田)

(鋼路市宮本町一〇)

#### 劇団生活舞台

御無沙汰しております。福岡市は40数日にわたる制限給水さきわき、おまけにむし暑い中での稽古も大変です。昨年十一月、「海の沈黙」公演以来、今年はまだホール公演をまとめておりません。10月には公演予定ですが、少ない団員、仕事の忙しさなどからまって仲々

思う様に行かないのが現状です。

それでも新しい人が何人か入ってきて基礎の勉強を週一回やっていること、地元の劇団道化の公演(7・13・17・18 8ステージ)大橋喜一・作『銀河鉄道の恋人たち』に、高尾が演出として参加、団員も協力して現在最後の追い込みに入っています。(モロガ)

(福岡市中央区天神町三丁目三の四  
福岡市民劇場内松尾せつ子気付)

#### 劇団支木

秋の公演のけいこに入っています。10月29日(むつ市)11月2・3日(青森市)。上演するのは、きしだみつお作・演出「北のうた」青森の生んだ口語歌人・鳴海要吉の半生を描いたものです。

青森2ステージで二千五百、むつ市は八百を目標に制作の方でも頑張っています。

この脚本、一七〇枚の大作で、演劇会議には登場しません。一部六百円で販売しています。部数に限りがあります。申込みに笑顔でお応えします。

15周年をむかえて、劇団員一同熱っぽくいこ場をつくっています。

(青森市本町一丁目六の一四ふじビル)

#### 劇団名芸

名芸は去る五月に第十六回公演「娘たちの明日」を終え、六月には第八期研究生卒公「笛」を無事終了して、八人の新しい仲間を迎えることができました。この新人たちを中心に、来る7月22・23日に第十回みなみ子供劇場で児童劇「よしおくとテレビゴン」(日置順子・作、高村真一・演出)を上演します。

8月26・27日には中部ブロックセミナーを五劇団位のモデル上演をふくめて是非成功させようとみんなで準備しています。

秋は11月下旬に大作「ベニスの商人」(谷辺康浩・演出)を私たちなりに取り組んで舞台化しようと話し合いを進めているところで、集団としては人数もふえ、盛り上っていますが、創造的な力量を高めるといふ点で、今後にかかっていると思います。暑さに負けずがんばります。

(名古屋市南区汐田町三の四〇)

#### 演劇集団わだち

① 5月12・13日大阪春の演劇祭参加公演。

芳地隆介・作「幽霊はどっちだ」又川邦義

演出。3ステージ、450名の観客。作者も来阪して観劇されました。現在、団員全体を対象に演劇教室を開催中。

② 7月中に演劇教室を終了し、秋のセンター公演を予定。奥村和己・作「チェイン」。

(奥村は団員で、創作劇です)

③ 5月の公演後、団員の結果が極めて悪く、実働団員総力をあげて結果を呼びかけています。又拡大を計画をたてて取組んでいます。団員が減少すると稽古場の維持もむづかしくなり、深刻な問題となっています。

(大阪市福島区福島6-12-17川村ビル)

#### 劇団四日市

「河」の公演は専属けい古場が確保できた第一作で、劇団全体が燃えに燃えた舞台となりました。

現地広島で、作者土屋さんと月曜会の仲間より懇切丁寧なアドバイスを頂き、多くを学んで来ました。劇団員の一人は、土屋さんたちと別れてのち、声をあげて泣いていました。

又もここで、東リ演へ加盟して本当に良かったと、しみじみした思いで胸いっぱい。

定期総会を終えて、こども向け小劇場公演レポートに取り組んでいます。「なかよ

し劇場」と銘うった指人形、紙芝居、手品、ペープサートなどと、別に一時間前後の移動用レポート用二本をつくり変えており、当分の間、地域のすみずみへ、根を張る小公演をつづけます。

来年六月に、三年越しの懸案であった桑名の「劇団すがお」との合同公演を、実現します。それぞれのけい古場にて合同の交流会を積み重ね、実行委員会では、演出を私にと決定しましたが、目下上演作品の選考に、両劇団とも大奮闘です。

地理的に、車で三十分の距離にある両劇団の合同公演は、この地域の演劇運動に輝やかなる希望をもたらすものと確信します。

余談ですが、けい古場の一部屋は、冷暖房完備です。仲間の皆さん、近くにお越しの際はぜひ宿泊に利用して下さい。費用は無料です。

(四日市市北沢町九一〇)

(森賢郎)

#### 劇団湖

暑中お見舞申し上げます。

① 六月二十五日、市民文化祭に「人を喰った話」をやりました。この日はいろんな行事がぶつかった為、観客は多くありませんでし

たが、合唱、太鼓、民謡、舞踊などの交流もあり、ある程度の成果があったのではないかと思います。

② 十一月五日に「雪んこゆき」の公演をもちます。六日と十三日には中学校、高校公演の計画です。会員が少ないために芝居削りの苦勞は大変ですが、がんばりたいと思います。

④ ♪嫁さんがしムコさがし♪じゃありませんが、どこかに若い男いいかなあ！どこかに若い女の子いいかなあ！これ実感。

(三笠市幌内住吉町九 加藤方)

#### 劇団あまんじゃく

先日の宮城県沖地震で皆様より色々々と御心配載き有難うございました。私たち劇団員や家族にはたいした被害もなく、又稽古場も無事でしたので御安心下さい。

①② 地元作家仲間謙二郎氏の新作で「嫌もつなら」を九月二十八日仙台市民会館小ホールにて上演します。作問喜劇に再度挑戦、全員張切って稽古に励んでおります。

③ 劇団員が現在十一名で、今回の公演でも人数が少く、ただそれだけの理由で客演を迎えての公演を行うという現状が残念です。今回の公演で劇団員の拡大が出来るような芝居

を作りたいと思っております。

(仙台市遠見塚2丁目30-10佐藤一良方)

#### 演劇集団響

私たちの近況を報告します。

「若者たち」の公演を八月二十五日夜、米子市公会堂ホールで行います。演出には神戸四紀会の梶武史氏が往復十時間の米子まで休日を利用して足を運んでいただいています。何分新人も多く、大作でもあるために稽古も大変ですが、地域に演劇サークルの灯をたやさないためにも、少しでも良い舞台をと頑張っています。

秋には十月二十九日、岡山での国鉄演劇祭に創作劇で参加します。十二月二日の米子市民演劇祭にも同作品での参加を決めています。

わがサークルの問題点は、良い指導者がいないため新入者の期待にそえないことであり演劇活動と共に、仲間づくりを合せて行っているのが現状です。

(米子市昭和町23-2 宮倉義文方)

#### 劇団若者座

① 六月二十五日、昨年に続いて「ちびっ子

フェスティバル、78」を、合唱団、マンドリン、オケ、人形劇団、映サと若者座が共催。無料公演ということもあって、朝から三千名の児童と父兄が押しかけ、超満員の盛況。若者座は多田徹・作、天羽新平・演出で「陽気なハンス」を上演。最近相次いで入団した新人たちが舞台と裏方で活躍。特に2ステージをダブル・キャストという貴重な体験を致しました。そして会場の多額のカンパと同時に来年への要望も多く出され、確かな手応えを感じることが出来ました。劇団の総括でも「創造上の新しい発見があった」「稽古が楽しかった、充実していた」等の発言が多く出されました。この成果を市当局も遂に無視出来なくなり、冷房つきの会場費を全額負担することにになりました。そして来年は市と共催でという話が当局から持ち上っています。

② 「奇蹟の人」を松本サキ代演出で秋に上演を決定。

③ 古い団員の結果が弱く、新しい団員との交流ははかられない。(天)

#### 劇団東風

① 5月14日(日)第16回公演下斗米謹一作

(宇部市松山町四の10の24東洋針灸科内)

#### 劇団徳島

旗上げ公演、宮本研作「人を喰った話」、三好十郎作「おさの音」五月二十九日(月)郷土文化会館ホール、キャバ八〇〇がほぼ満員になりました。旗揚げ公演ということと地元劇団の再建が久しぶりに実現したということで、前人氣も上り、マスコミ関係も相当動きました。地元紙、全国紙などで可成記事にしてくれました。元こじか座の上村さんの御協力でNHKが20分番組でとりあげてくれた他、第一ラジオで全国に流すなどもあり、前人氣に大いにプラスしました。これも西リ演存在のありがたさです。

各地域公演を予定。  
○附属研究所、専攻科卒業公演、九月二十四日、郵便貯金ホールにて、ボリス・ワシリエフ作、仲武司演出「夜明けは静かだ」を上演予定。  
(大阪市阿倍野文の里四一八一六)

#### 劇団徳島

「八幡馬の家」・高橋丈雄作「ボンチ絵」2ステージを八戸市公民館ホールで行いました。入場者は四〇〇名余。「良かった」という声と「全くダメ」という声。後者の方に耳を傾け深く反省、団内としては、スタッフ面の組織的弱点が再び表出。進歩のなさにあきられるやら、悲しいやら……  
② 秋の公演は11月25日に決定。創造委員会から二本の脚本が提出され、現在選考中。決定次第、上演許可願いを申請する予定。  
③ a 稽古場の問題、b 団員拡大の問題、c 団内組織の問題。現在実働9名。結婚や仕事の関係で活動が難しくなった人が数人。脚本決定や団内組織の面で重大な支障を来している。二年後が10周年。それに向けて、東風の量的拡充を意志統一しているのだが……  
④ 7月29・30日の奥羽ブロック、十和田湖キャンプ楽しみだ。団内では7月9日に高山植物を訪ねて「南八甲田登山」を予定。  
(八戸市鯉町無島町 梶谷伸夫方)

#### 関西芸術座

○夢にまで見た「稽古場」が三月末完成。三日間の披露宴に各界より三百名が出席。建坪一五〇坪、二階建、鉄筋。東リ演よりも、こ

ばやし・ひろし氏が来団。目下倉庫、三十坪三階建を建設中で七月末完成予定。

建物を「関芸スタジオ」と命名。稽古場の公演(二二〇名収容)を「関西芸術座スタジオ公演」と呼称。  
○スタジオ公演No.1を五月二十七日～三十一日。中村吉蔵作・山村弘三演出「剃刀」を上演。スタジオ公演No.2、八月九日～十三日、ダム・ウエイター(料理昇降機)を新人公演として上演予定。

○一般公演第49回、九月十九日～二十一日、郵便貯金ホールにおいて佐々木博子作、上利勇三演出「化石の街」を上演予定。  
○こども・おやこ劇場、全国公演、四月～五月十四年七月、松谷みよ子原作、新屋英子脚色道井直次演出、「竜の子太郎」を上演中。  
○中・高校生観賞公演、ウィリアム・キプソン作、富田悦史演出「奇蹟の人」はさらに五十四年七月まで、三年目へのロングラン。

○全見演関西ブロックによる合同公演(大阪府助成)、野坂昭如原作、柴崎卓三脚色、「戦争童話集」より「小さな潜水艦に恋をしたでかすぎるクジラの話」を道井直次演出で目下稽古中。七月二〇日～二三日まで、府下

劇団員15名、実働12～13人での取り組みでしたが、二本建公演のやりにくさなどもありましたが、当日の舞台成果はアンケートなど見ましても一応好評、地元劇団の成果として

は一定の到達点と評価されています。劇団での総括も、成果と欠陥をふまえた上で一応の成功としました。

財政的にも何とか黒字ですが、この成果におおごることなく今後が問題と身をひきしめておきます。勿論、成功してもしなくても問題は多く連合劇団だけに内部の意志統一は、次の八月二十七日郷文の県民まつりへの出演レバなどでも難航中という問題もあります。今後とも御助力下さい。(さいとうさとし)

(徳島市南佐古八十五一六斎藤方)  
(編集部・附記) これは斎藤さとしさんからの私信ですが、掲載させてもらいました。資料として、朝日、毎日、読売、毎朝、赤旗、徳島などの写真入り四段抜きからコラム欄にいたるまでのコピーもいただきました。読んだかぎりでも殆んど理想に近いスタートぶりです。御奮闘を祈ります。

(もも)

### 劇団道化

6月28日やっと、77の総会、これまでにないきびしい総会でした。

7月2日、この民話の地元、嘉徳郡柱川町にて、青年団、子供会の主催で、多田徹脚色

内山昇演出「一銀ほり」公演、一万三千人の町で一五〇〇名動員、主催者のすごいエネルギーに熱い連帯を感じました。7月13日、18日(8ステージ)、「銀河鉄道の恋人たち」(大橋喜一作、高尾豊演出)2年ぶりのホール公演、劇団生活舞台の協力を得て、動員目標三千名、目下けいこ大詰めです。

8月6日、子供芸術劇場「はかた・にわか」公演予定。

8月の始めより10月にかけて「奇蹟の人」につづく中学校公演作品を仕込む予定です。作品はまだ決定していません。

(福岡市中央区一七一一八)

### 名古屋演劇集団

① 四月に第2回創作劇場おたけ子作、若尾正也演出で「UFOの来た町」がまず好評におわり、五月に年度総会、(私達の劇団は四月が年度始め)をやり、現在は7月25・26日、名古屋市民会館ホールで公演する、大橋喜一作、浦はじめ演出「銀河鉄道の恋人たち」の追込み猛練習中です。一〇〇〇人入る会場の3ステージなので普及が大変。

② 久しぶりに名古屋芸術祭の演劇部門に、演集の創立30年、松原英治没後15年の記

念公演がとりあげられることになり(補助金

一〇〇万円/有料)プレヒトの「コーカサスの白黒の輪」を上演します。演出は若尾正也で、初めてプレヒトに取組む決意をし、31年目の新しい出発公演にしようと思えています。演集名物の移動公演ラッシュも10月だけはおさえないと……。

③ 毎度のことながら悩みは、若手男性不足です。何か、けい古場がバレエ団のような雰囲気になって来て、いろいろ対策は考えてはいるのですが……。

④ 中部ブロックゼミは8月26・27日、モデル上演というより、一幕物を5劇団が持ち寄りお互いにたたき合おうという計画です。演集では、「三家福」を出すことに決定。(昭和37年初演という長命レバです)

(名古屋西区庄内通四一六三三)

### 劇団同胞

第二回公演「河童証文」(作・栗原省)を去る5月26日、旭川市民文化会館小ホールにて行いました。公演後のアンケートにありました中に、これからの希望として民話を観たいという意見が多くあります。効果、照明が良かったという感想も出ており、更に学ば

ねばの感を強くしております。

(旭川市末広四条八丁目 高桑修一気付)

### 劇団やまなみ

① 六月十四・十五日、「女の一生」の再演(五〇〇名)を終りました。萩坂さんや、劇団つくし、四日市の仲間も来てくれて、萩さんや森さんたちの問題提起を中心に、いま、自分自身が「女の一生」にどうかかわったか創造論議が始まっています。

七月二十五日一期生の卒業公演、井関義久作「学校」が行われました。

懸案のけい古場建設が七月二日の臨時総会で決定され、八月着工、十月完成の予定です。建坪60坪の平屋建て、けい古場、会議室、事務室、保育室などをそなえて、予算は一〇〇〇万円。募金活動が開始されました。

② 秋には集団創作をという当初の計画がなかなか軌道にのらず秋の創作劇公演は難しい状況です。

③ 「女の一生」の論議の中で、新しい人たちから、「大役を与えられるのは一面では嬉しいし、ファイトも湧くが、いきなりこんな役をやらなければならぬ劇団の現状についてどう考えたらいいか」という意見が出さ

れています。劇団二十三年の歴史にふさわしい創造力量の積み重ねが、舞台創造に生かされた公演が望まれています。

(甲府市青沼一八一五梅津方)

### 鋼路演劇集団

仲間のみなさん こんにちは、  
① 六月23・24日、第七回公演「車椅子の王女とその騎士」(中村おがわ・大橋喜一作)を上演しました。入場者数は二回公演で四百二〇名でした。市内の各劇団の公演と度重なったのですが、どこも観客組織は低調でした。  
② 七月十五、十六日は友の会を混えての劇団キャンプを予定しています。

九月十五、十六日北見市での道演集の演劇祭へ参加します。

秋の公演は十一月頃予定しています。創作劇の予定。

③ 実働劇団員の不足。観客組織の問題。公演の決算の最中ですが、多少の赤字が出そうです。

(鋼路市鶴ヶ谷二一十一十五 東野方)

### 世仁下乃一座

④ 6月7・8日と江東区の木材健保会館にて

「石るつ創作小劇場」に岡安伸治・作、演出「みつ・三途の川の子守唄」で参加上演致しました。世仁下としては、第三回研究公演となり、石るつの女優2名の客演を得て無事終了しました。観客動員は座員の減少に伴ない停滞気味で、今後の大きな課題となりました。総括的に云って、作者と演技者の勝負は役者が台本の文字面以上の飛躍ができず、演技者の判定負けです。

④ 代表者の岡安伸治が、6月17日から7月8日まで、東働演の代表として、東ドイツの「労働者演劇フェスティバル」に参加しております。西ドイツ、フランス等も廻ってくる予定の為、帰国次第「演劇会議」の誌上を借りて、内容の報告が出来ると思っています。

④ 秋公演の予定は、日程的には11月下旬、場所未定、作品は岡安伸治創作劇で、東働演に参加致します。(里村)

(東京都練馬区沢沢二二三第一美好荘)

劇団群馬中芸

№14 こども劇場

中村欽一・作

＃ちいさいクラスとおおきいクラス＃

④ 中3

斎藤瑞穂・作「象の死」9月より公演  
(前橋市昭和町三一五一二)

### 劇団ヘルソナ

○公演予定

第一回試演会、サマセット・モーム作、秋元博行演出「聖火」の稽古に6月26日から入りました。(稽古日76日間の予定) 於北海道文化芸術センター。十一月十一日。

劇団創立以来始めての公演です。3名の客演と共に、俳優ひとりひとりが、とことん自分を掘り起し、演出とぶつかり合える稽古とは？ 一からやり直すつもりで勉強し合いたいと思います。

又、劇団にこれを退団し、ベルソナを創った5名の人間ひとりひとりが自分たちの目ざす劇団を作り、芝居作りの理想と現実のはざまをどう受けとめ、どうそれを乗り越えようとするのか？ 更に、5名の新入団員を稽古過程の中で、どのように教え、勉強してもらうのか課題は山のようにあります。

○新劇場と統一座の合同公演「放浪記」に数名客演。又基礎訓練のひとつとして日本舞踊の稽古を週一回したりして皆大忙しですが、十一月めざしてがんばります。今後ともよろ

しくお願い致します。(長谷記)

(札幌市豊平区平岸四条12丁目八の四)

秋元博行方)

### 劇団新芸

4月8・9日の新劇場との合同公演による本山節弥作「オホソックの女」を無事打ち上げました。勉強になりました。この中で、着実に力をつけてきた新人達と共に、いよいよ第5回公演にふみ切ることとなりました。10月13日(金)、秋元松代作「アディオス号の歌」です。演出に北海道演劇集団札幌プロックで推薦していただいた太田明彦氏を迎えました。

小劇団(13名)の悩みは団員が少なくて役者も不足、スタッフも制作も人手不足ということ。更に、その中でも仕事の都合で遅刻や欠席が多く、けい古密度が薄いのが心配でたまりません。その中で一二〇万の予算で制作もとりに組むわけです。昨年は矢代静一作「悲しき恋泥棒」を読合せ終了時に中止しています。今年迄、そんな事には決してしないぞという覚悟でやります。この作品となら心中してもかまわないという女性陣に男性側や押され気味のこの頃です。

(小樽市銭函2-47-16 鹿角優一方)

### 劇団2月

全国の仲間皆さん!! 暑中お見舞い申し上げます。この7月8月は劇団の創造期間です。新作は、さねとうあきら作・坪井敦演出「つるのおんがえし他」(日本昔話シリーズ2)を5名編成でつくります。

全児演子どもまつりへは6名が参加。8月の初旬は研究生の第一期発表会。

9月中旬にはアトリエ(仮称)公演を、新稽古場で予定。

54年度新劇フェスティバルは、大阪むかし語り第3段目「大阪鳥獣戯画劇」(おおさかはけものたわむれ)四景を、かたおかしろう作で予定しております。

あとは続演に備えて、この期間再稽古を予定しております。

続演作品  
「ウメコがふたり」(中・高校、おやこ高学年例會作品)  
「かしの笛・雷おやじと肝玉ばあちゃん」(小学校作品)

「日本昔ばなし1春夏秋冬」(小学校、おやこ例會作品)

「月夜のはちどう山・どろぼう学校」(おやこA例會作品)

(大阪市東住吉区今川町三七八)

(編集部・註)劇団名が逸しておりました、2月と判断しました。

### 劇団展望

① 七月の中ば過ぎから、沖縄県八重山諸島の中にある石垣島に出かけます。二年前に八重山のある離島を舞台にした最初の集団創作劇「離り島風土記」を上演した際、御指導・御協力いただいた「東京八重山文化研究会」に随行し、石垣島の豊年祭などを見学するかわら、芝居も座興のひとつとしてやれるよう「ま昼のちようちん」(前篇、後篇合わせて二十五本のエピソードからなる集団創作劇)の中から、七本を選んで準備しています。

② 今年の秋は、矢野龍作「なまねこさま」をもって東演(東京勤くもの演劇祭)に初参加の予定です。この作品は、以前「土の会」でやられ、立派な舞台装置とともに話題になったのですが、今回また新たに、現在の視点から捉え直し、私達の阿佐ヶ谷小劇場という、観客のすぐ目と鼻の先で演ずることになる小屋の特色も生かしていただけるよう

矢野さんには、暑い夏の中、改稿をお願いしているところです。劇団員は(研究生も含め)統一「ま昼のちようちん」をめざし、夏の間各自一、二本の執筆予定。

③ 「ま昼のちようちん」の上演活動を通じてあらわれてきた、生活者の視点からの生活の場でおこっていることの再発見、それを皮的にでなく、広く深く現代につなげて捉えるための感じ方や考え方、舞台化するための想像力のアップなどの課題を、一歩一歩押し進め、創作劇活動を続けたいと思っています。

④ 最近、多くの劇団で、個人による又は集団による創作劇がかかれていますが、それらを是非読ませていただきたいと思っています。具体的提案としては、台本の交換をしませんか。郵送していただければ、私達としては「ま昼のちようちん」をお送りしたいと思っています。

(東京都杉並区阿佐ヶ谷南3の3の32)

### 演劇集団未踏

暑中お見舞い申し上げます。

10月9日小金井公会堂、10月7・8日中野文化センター、10月15日江東公会堂、そして来年1月20日社会教育会館で上演で決っている

第21回公演「幸福の設計」に意欲的に取り組んでいます。各地で、教育、非行を考える各種の集いを企画して、地域のお母さんたち、先生たちとこの問題を深めています。こうした集いが舞台創造の跳躍力になることを期待して奮闘しています。

去る7月8日には、この公演の主役、女子高校生役のオーディションを行い、若い女性が40数名、劇団に来て、狭い稽古場は熱気ムンムン!

7月15日第二次審査を行い、新鮮な魅力を持った主役が決定しそうです。乞う御期待!

(東京都新宿区新宿一〇一〇一五  
新宿御苑ビル内)

### 青年劇場

① 最近の公演活動

第22回公演「夜の笑い」2幕、飯沢匡作・演出(鳥尾敏雄「接触」、小松左京「春の軍隊」より)は、5月9日から16日まで俳優座劇場、5月17日厚生年金会館小ホールで上演された。5月末から7月末まで、「かげの誓」

(小寺隆留作、堀口始演出)は関東、北陸、東海地方、「偽原始人」(井上ひさし原作・爪生正美脚本・堀口始演出)は東北、北海道

を巡河。

② 今年度後半スケジュール  
第23回公演「風の橋」(勝山俊介作・千田是也演出)は、7月28日稽古初日、9月9日府中市民会館、10日九段会館、11日から14日まで厚生年金会館小ホール、16日豊島公会堂、18日再び九段会館、19日小金井公会堂の子定です。

「かげの砦」「偽原始人」は9月末から12月下旬まで、上半期に引続き廉公演に出る予定。

③ その他の予定

7月25・26日劇団海水浴、7月末〜8月各地労演、市民劇場交流キャンプ参加。8月7・8日新劇人会議主催野球大会、8月12日、劇団「友の会」主催納涼の夕、8月19・20日東リ演劇東プロクゼミ参加、9月1日新劇人会議総会参加など。

(東京都渋谷区千駄谷五―三三―一六)

### 劇団河童

第8回北海道演劇祭が開催されます。

これは、2年に一度、北海道各地で地域に根ざした演劇活動を目指している劇団の成果を発表し合い、より一層演劇活動を発展させ

るため、行われるものです。

日時 一九七八年九月一六・一七(土日)  
場所 北見市 北見市民会館

北見市常盤町二―一―一〇

電〇一五七―二三―一六二六六

上演作品

鋼路ブロック

ロバート・ポルト「花咲くチェリイ」

札幌ブロック

渋谷健一・作「放浪記」

オホーツクブロック

石上慎・作「オホーツクに生きる」

事務局劇団「河童」内 布施茂

(北見市幸町八―三―四扇谷園雄方)

### 劇団静芸

◇五月二〇・二一日、静岡市民文化祭として

秋元松代作「アディオス号の歌」を上演、

(演出・西園太) 劇団創立三〇周年の記念公演としてとりくみ、八〇〇名の観客に観て

もらうことが出来た。安定した舞台として又装置も回転舞台をつくり、思い切った試みも行い、一応の成功をおさめたといえると思う。

◇七月八日劇団総会をもち、新しい運営委員も選出され、新しい活動に入る。

公演予定は、9月9日高橋健演出による本

下順二作「彦市ばなし」をもって中部演劇祭

に参加。11月9日、永田明夫演出、さねとう

あきら作「ゆきと鬼んべ」をもって新しく完

成する静岡市民文化会館にこけら落しに参

加。11月19日、「ゆきと鬼んべ」をもって、

県芸術祭公演として、浜岡町民センターでの

公演を企画している。来年は、「アディオス

号の歌」の県下巡演及び来年五月に、小島貞

木創作による公演を予定して準備に入った。

◇東海甲信越ブロックゼミは8月26・27日甲

府において実施される。(鎌田三郎)

(静岡市昭府町二八九―二)

### 演劇集団土の会

① 六月二三・二四・二五日と清水邦夫作「栗

屋」4ステージを終了。観客約三百余人

に、中年層からはそれなりに可成良い評価

を得ることが出来たが、劇の側からは多くの

問題提起もされており、これらが勝負である

といえる。収獲はこの間に3名の新入団者

を得たことである。

② 秋は斎藤瑞穂作「ガス」を予定している

が再検討中。

③ ハードスケジュールのためか、病人が続出、又結婚、出産と数量と質の確保に苦慮している。(倉多)

(東京都練馬区大学園町四七四―八)

### 演劇サークル・トラム

前略。近況をお知らせします。昨年は七月

子供劇場「ゆきと鬼んべ」、十一月公民館祭

「結婚の申込」、今年に入って六月四日、子

供劇場として仮面劇「イワンのもらった金貨

を生むやぎの話」を上演しております。

今年に入って若い人が4人入団し、今秋は

一般公演をやりたいと思っております。

(藤原民子)

(山口市吉敷流河内二〇二五藤原方)

編集部・註 これも一年ぶりの藤原さんか

らの私信であるが紹介させていただいた。

### 劇団名古屋

今日は、暑さにめげず皆さん御活躍のこと

と思います。

① 5月19・20・21日(5ステージ)に、名演小劇場にて、劇団創立20周年記念公演第3弾として、創作劇「祭りは雨だった」(作・熊谷昭吾、演出・久保田明)を上演しました。

等しくその任務を負わなければならないのではないだろうか?

④ 今ここに、余儀なくその地域を離れなくてはならない者がいるとすれば、彼はどうすればその地域に責任をもち、仲間の責任をもち観客に責任をもち解決が得られるだろうか?

(歩)

(名古屋市熱田区新尾頭町五〇)

### 劇団弘演

① 四月、五月と新しい仲間を、八名迎え、

平均年令をグッと下げました。職場で、学園

で次々と活動の範囲が拡がり、劇団員集団が

困難になったり、長く休んでいた人が復帰し

たりで、今年もまた「ねぶたの季節」夏のま

つ盛り。

11月の本公演「津軽謀叛人始末」の台本製

作、現地調査、歴史学習など、劇団さっぽろ

の飯田信之氏(演出担当)を交えて、連日活

動の手を休めていません。地元津軽の話だけ

に成功させる決意です。

② 7月中旬、台本完成。(本読みはすでに

5月から)、7月29・30日東羽ブロックゼミ

(十和田湖キャンプ)参加。8月、「ねぶた

祭」を見る会。10月立ち稽古。

③ 財政危機、独身男性の確保。

④ 自らの仕事、密度が濃くなればなる程、周囲の劇団の動きにも敏感になり、観劇交流も意欲的になっていきます。劇団レオ「11匹のネコ」、秋田二ツ井「走れメロス」など、更に青森県母親大会、全体集金の綜合司会など「弘演の出演」が要求されているこの頃です。

(弘前市品川町一 ブラジル内)

劇団十年実

大阪地方は梅雨もそっけなく明けけるや、猛暑の連続で、冷房のきかない稽古場はウダッています。

◆現在、瀬戸洋が書き下し中ですが、劇団員の構成ともならみ合わせての創作に苦戦!! 劇団員の中に職場の問題で稽古に出られなくなった者もいるからだ。

◆少数の構成員になると、ひたすら公演が持てるかどうかのみ考えがちだが、こういう時こそ、運動に力を入れてその中から公演の必然性をみつけ出そうとして悩んでいる昨今です。

◆秋に創作劇が出せたら再起スタートが成るか!!

(大阪市平野区喜連東三六一三二一〇)

題点。

石るつプラス世仁下、更にフォーク歌手横井久美子さん、地域の詩人永井和子さんらの参加、創造交流による小劇場を豊かにした。この企画の発想は楽しく、すばらしいものだと感じています。

しかし、演出、役者、あるいは作品と、一人で何役を背負う人がかなりいたためか、背負い切れず、力足りないような状況をあらわした。

舞台成果としては、作品の練り上げが必要であることが問題になった。また作品の弱さを創造的にどうふくらませるか、が足りなかったようだ。演技の問題では、役者主体の創造がもっと確かな方法をみつける努力が必要である。

創造普及と合せて、今回は成功したといえなかつた。

(2) 秋までのスケジュール。

秋は第十六回東京働くものの演劇祭に参加する。11月8〜9日、労音会館。作品は境野修次作「秋雨に散るは悲しき血吹雪かな」(仮題)二幕。演出は秋山昇。

この作品は女剣戟一座をあつかっており、劇中劇、歌謡、舞踊シヨウを入れた賑やかな

京浜協同劇団

① 東京新聞労組と劇団との共同企画で、西尾頭兩作「牙白く」(「赤旗」)「文化評論」一九七五年文学作品入選作)を上演することになり、夏休み返上でとくりんでいます。このような形で企画は初めてですが、状況を打ち破るために全力をあげて「実験」を成功させたいと思います。九月十一、十二、十三日東京労音会館、十八、十九日、川崎労働会館毎夕六時半。演出I中沢研郎。一五〇〇円。

② 十一月十二月には創立20周年記念。第34回公演として、集団創作劇を予定しています。半年間の準備期間を経て、黒沢参吉、城谷護、蔭村こずえ、岡部豊の四人がそれぞれ一本ずつ書いたところで、これから一本の上演台本づくりに入るところです。南朝鮮で労働者の覚醒を呼びかけて、焼身自殺した青年とその母の生き方を題材にしたものです。

④ 数年前、劇団未来の指導を受けてスタートした太鼓班(責任者原科清)は、年間を通して大奮闘。第24期研究生(8名)は八月十日、プレヒト作「例外と原則」の卒業公演で、晴れて劇団員へ。

(川崎市幸区古市場二一〇九)

舞台になると思います。

合宿は八月四、五、六日と九月一五、一六、一七日と二回行う予定。

また、地域のコンサート(横井久美子コンサート)等との創造的交流が9月頃の予定。

(3) 集団の問題点。

1 演技の問題。  
演技・芝居というものを知らないのではないか? とくに中核をどうつくるか、が肝心であります。

自分たちの感動を確かな創造で、確かな感動として伝えるエネルギー、努力を最も必要とされている。その確かな創造とは? 方法とは?

2 若い集団員が増えない。とくに男性が増えない。

(4) その他。

国立の、横井久美子コンサートに参加。小劇場の中より「お稱荷さん」(作・野田篤、演出・境野修次)を上演しました。

小さなフロアに、四十人位の人がぎっしり横井さんと私たちは、小劇場の中で生まれた歌を歌い、芝居をやった。初めて、芝居入りコンサートで、国立の横井ファンの人たちはとまどっていたが、楽しんでくれたようだ。

演劇集団石るつ

(1) 近況・公演のレポート。  
六月五日から十三日(十一日を除く)の八日間、江東区木村健康会館ホール(劇場ではない、照明、舞台を設置、キャパ一〇〇位)で第四回江東演劇祭を行いました。

江東演劇祭とは、江東区内の演劇集団、演劇サークルが四年間にわたって創ってききました。(毎年、五月/六月公演)。その間、合同公演、競演と企画をかえてきました。

今回は演劇集団「石るつ」(地域集団)、演劇研究会「ちるる」(職場サークル)、演劇サークル「あすなろう」(亀戸)ともしびから生れたサークル)と世仁下乃一座の四集団で競演(石るつプラス世仁下の「石るつ小劇場」は4ステージ、ちるる「若者たち」2ステージ、あすなろう「煙突のあるオアシス」2ステージ)で行いました。

八日間の動員数は七七三名。石るつプラス世仁下は三七七名。江東演全体で約二〇万の赤字。

江東演としては総括中なので、石るつの総括を記します。

先ず、石るつ創作小劇場の企画とその間

この催しにも世仁下乃一座の協力がありました。

(東京都江東区東陽四七一七一二七 四田秋子方)

劇団さっぽろ

北海道もようやく本格的に夏らしくなりました。連日の本番を暑さの中で奮闘しています。

① 「狐とぶどう」の全道巡演をやりました。一般は劇団の力が足りず、観客組織面で四苦八苦しましたが、中・高校公演は、熱心に子供達が観てくれて、又、適確な意見の感想文ももらってホッとしているところです。中・高校公演の面では大きな足がかりができたと思っています。

② 小学校公演「チポリーノの冒険」と小劇場公演を続けます。小劇場は夏休みに、新作として、チエホフ作「中二階のある家」「長い舌」を仕込みます。

③ 財政面で今年から大きな過渡期に来ていいると思えます。健全財政を一日も早くというのが念願です。

④ 九月十六日、十七日に北見市で北海道演劇集団の演劇祭が開かれます。

(札幌市西区手稲宮の沢四八五一四一)

## 劇団大阪

東西リ演の皆様、元気で活躍の事とおもいます。

私達劇団大阪は、先号で報告しましたが、J・M・シング作「西の国の人気者」を劇団けいこ場で、谷町劇場No.5として三月十二日と二十日夜、中二日を休み、九日間8ステージで公演しました。特に、外部より小松徹氏を演出として招いての公演で、はじめての試みでもあり色々ありました。その中で特徴的な成果等を報告します。

まず、小松氏よりこの作品を創るには、三ヶ月の期間と毎日三時間の練習が必要と提案され、従来の私達のPM七・〇〇/九・〇〇という体制を六・三〇/九・三〇に変えるということから出発しました。いつもスケジュールに追われ、バタバタと芝居割りをする事の多かった私達の考え方を改めて変えさせられました。第二に、今までのけいこ劇場公演は、ややもすれば本公演より一ランク下に見勝ちで取り組みも今一つという感が強かったので、制作面での目標超過達成(目標動員六百人が六百七十名)、スタッフを全て劇団内の

力でやり、今までより一回り大きな成果をあげ得た。けいこ劇場を最大限に活用した芝居割りとなされる中で、役者も従来より素直に熱心に緊張感を持って創造し、新しい面の発見や可能性を引き出してもらうなど、演出の熱意や創造に対する要求に劇団の持てる全ての力で答えた事が長期間の公演を安定した舞台で持て、好評の中に幕を下すことが出来たのは本当に良かった。

反面ケイコが十時や十時半までになったりする中で、団員の疲労や劇団運営面での支障も出て来ました。この公演で得た中味を今後どう定着させ生かして行くかが、今私達の課題と云えます。

引き続きいて創作劇「電信柱に花が咲く」作・長谷川真字を五月二六・二七日3ステージに取り組みました。その中で、作品や舞台の出来上りが、本来の創作劇の在り方である劇団員が作品や作家と戯曲が出来上って行く過程、芝居が出来上がる過程で、真剣に関りあっている中で「より良い芝居」に創り上げるといふ作業が、演出と作家、二、三の団員までせになり、他の人達の関心が弱くなって来ている事が指摘され、今後、創作劇を創る上で課題となって来ました。背景には、「慣れ」

や、しんどさ、当初燃えるようなおもいで創作劇を創った人達が、それ程燃えられなくな

った。新しい劇団員が増える中で、古い人達の創作劇をとらまえるキヤップや、既製の作品との間に差を感じない事があったりする中で、の現象かとおもいます。

秋の公演は、次の作品に変更しました。

第七回新劇フェスティバル・大阪文化祭参加作品、寺島アキ子作「かあちゃんたちの明日」演出・熊木一。

十月十七、十八日 於大阪郵便貯金ホール、府下での移動公演も計画中です。

(A・T)  
(大阪市南区谷町七二二一新谷町ビル)

## 劇団ふくしま

どのように、今のぼくらの劇団の実情を報告したらよいのやら。

実働劇団員は四名(男一、女三)です。他に、諸々の事情から最近団活動ができなくなったというものが、男二人。(公演日などには協力することのこと)。

目下、四人で「夜の来訪者」ブリーストーリイ作」の脚本印刷をしているところですが公演日など決めるところまでいっていない。

例の「実情報告」も出せないでいる所です。

団員の拡大の成功を何とか取りたいと四者は確認し合っているのですが、とにかくきびしいです。

(福島市笹木野末堂下一四一三嘉藤方)

## 劇団すがお

◇大変苦しくなってきましたが頑張っております。

去る4月30日、「狐とぶどう」を上演しました。本当に久々の一般公演で大変でしたが創造に、創作に、何とか成功裡のうちに終えました。動員四五〇名。創造的には、役者に余裕がなく前半は特にテンポがなかったこと、セリフが不明瞭だったことがあったが、半数あまりが市民ホール初舞台でありながら、立体的な大道具を使いこなし、イソップの自由と愛の苦悩を表現しえたり、また各々のキャラクターをこえた創造もできたと内部では評価しています。この作品では、後半二週間ほど松竹歌舞伎俳優(休団帰郷中)に演出の援助をうけたいに参考になりました。

◇恒例のミニミニ劇場準備中です。

7月30日(土) 夜5時・7時の2回

木下順二・作「彦市ばなし」一幕

演出・加藤武夫 於けいこ劇場

そのあと移動ミニミニ劇場の予定です。中部ブロックゼミナールにも出演予定!

◇劇団四日市との合同公演準備始まる。来年6月に決定/8月中に台本選定完了の予定。

演出に森賢郎氏(四日市)。実行委員長に加藤武夫(すがお)を決めて、すでに実行委員会2回、交流会2回を持ち順調にスタートです。

(桑名市森忠上野一〇五八)

## 岡崎演劇集団

① 6月11日(日) 於岡崎勤労会館

本田英郎・作「五月の人々」

偶然にも突開島問題がクローズアップされていた時期ですので、それなりの反響はありましたが、観客が三〇〇人余と低調でした。

② 12月10日(日) 於岡崎勤労会館

創作劇、黒野錦一・作

「ああコロベット」

私たちの身近かなある町の自動車工場の問題をとりあげました。目下、本の改訂に全力をあげています。

(岡崎市元欠町三二一〇一三)

## 劇研さっは

前回通信を送れませんでしたこと、おわびいたします。七年目を迎えたさっはは、具体的な方針を打ちだしたにもかかわらず、その上半期は絵に描いた餅をながめながら、いら、あせりに終始してしまいました。

メンバーに退団者を見たり、結婚、妊娠が続いたり、仕事が厳しくなったり、等、実働人員も激減しました。

その間、稽古場の移転を余儀なくされ、引越に一月を費してしまっても様々な劇団の仕事が遅らせてしまっています。しかし厳しい条件下、数名の母親組が奮起しはじめ三名の新人団を迎え、活気をつくりはじめます。

七月十六日、小山市内のお祭りとお新会館での市民音楽芸能祭に無言劇「うりぬすび」と「八丈島太鼓」で出演、稽古に熱が入っています。十月十四日、県芸術祭に「嵐」を、十一月十一日、第十二回公演、モリエール作「いやいやながら医者になれ」を予定しています。

住所が新しくなりました。

(小山市宮本町二二一一六)

(鈴木)



### 仙台小劇場

#### ◇近況

宮城県沖地震に際しては、お見舞いの電話、電報などいただきましたことに有難うございました。けい古場、劇団員の個々の生活も、大した被害がなく、日々の業務にはげんでおります。

#### ◇最近の公演

七月十一、十二日、郷土の作家仲間謙二郎作「人形異聞」(演出・石垣政裕)を2ステージ、観客数六五六名で、公演しました。東リ演黒沢議長に観ていただき、一応の評価を得たようです。この公演の中で、けい古場の在る町内に、商店会、長命会、町内会を中心とした劇団後援会が作られました。

①寄附金をしてくれる、②芝居を観てくれる、③春の子ども会、夏の盆おどり、秋の長命会の旅行に(謝礼つきで)劇団が参加する、④劇団の運営には口を出さないこと、が内容です。「地域に根ざす」という意味で喜んで実感できる近況かと思えます。

#### ◇秋までのスケジュール

八月五日、原爆詩の朗読会(けいこ場)、九月二・三日、東リ演Bゼミ(於山形市)が決っております。秋のホールがとれていない

ので、移動や団地での公演を追求中です。

#### ◇その他

けい古場への集合が遅くなっており、厳密に調査してみると職場での残業などが加重されているため、構造不況がこうした形で、青年や勤労者への労働の量と質の強化としてのしかかっているといえましよう。直接には劇団員を、本質的には文化自身を守り育てるための対策と方針が、東リ演として必要なのではないでしようか。

(仙台市連坊小路一六八西ビル2F)

#### 劇団はぐるま

「ジャックの豆の木」からはじまり、今年「ゆき」で七年目を迎えた親と子の劇場は、まさにあたりあたり、岐阜を中心に一万を越えて親と子の観客を定着させ、岐阜の夏休み恒例行事となったと云われるほど発展してきました。

それが今年の、齊藤隆介作「ゆき」では今まで順風満帆で来すぎたせいか、あるかげりが目立ちます。

公演を一週間にひかえた現在、チケット普及が六六〇〇(岐阜7ステージ)ですから一〇〇〇を越えないステージはまだ多いという

ような現状です。

仕入費が上って来ておりますし、劇団財政を大きくするおつてきた親と子の劇場もこのままでは予断は許されません。

その原因として、子供のためのいろんな行事企画が夏休みに集中し、余り多くなりすぎて、はぐるまの親と子の劇場も珍しくなくなったこと、「ゆき」は一部の親にしか知られていないし、子供たちにも思ったほど知られていないこと(教科書にのっている割に)などは考えられます。

これから名作ばかりやるというわけには行きませんし、頭の痛い問題です。

「ゆき」の作品については統一線線と神人(天皇制)の問題をどう処理するかが問題になりました。農民はできるだけ割愛し、ドラマの背景に近くし、ゆき、乞食集団を中心にドラマを展開する、神人は魔神という形です。ますという所で落ちつきました。

フブキと神人は私たちスタッフの力量では手に負えず、ひとみ座の協力をえて制作していただき、目下、どう使いこなすか、懸命に努力しております、さて本番はどうでしょう。

秋は小劇場(小林シアター)の完成とその

こけら落しの小劇場連続公演が待っております。場所は柳ヶ瀬に近い繁華街ということもあり、ビルが消防法に引っかかり、完成まで、大っぴらに劇場とうたえないところが悲しい所です。ビル工事はもう始まりましたが十一月完成予定で、ビルが検査終了次第、突貫工事で無断で劇場にしてしまおうしか手がないのです。その費用もバカになりませんので、今秋はできるだけ移動公演をやってその一部稼ごとと張切っております。(文責山口和紀)

(岐阜市西野町一丁目)

#### 劇団てまり座

出発してから半年余り、いま劇団てまり座子どもの劇場No.1公演として、ミハルコフ作川村美枝子演出「三匹の子ぶた」を地域の児童館で巡回上演をはじめたところです。

これからは夏は児童劇を地域の子どもたちに観てもらうために第一歩ふみ出した所です。

次は、今秋十一月を目途に、第一回公演を計画し、上演作品は劇団の態勢と団員の状況から流動的ですが、小劇場形式の公演となりそうです。四―五本候補作品が上がっていますが、七月中には決定します。

私たちがてまり座は組織的にも運動的にも一

年生ですが、当面の目標として三ヶ年計画を立て、息の長い活動にむけ、少しずつ確実に輪をひろげたいという夢を描いています。まず第一回公演の成功にむけて進行中というところです。

(剣路市貝塚一―六―一九加藤猛春方)

#### 劇団螺線館

① 劇団尼崎ファーベルは53年5月より劇団螺線館と名称変更しました。3年間のファーベル活動時の創造の上に立ち、更に新しい創造方法の発見と確立をと決意を、新たにしています。今後ともよろしく願います。

② 劇団員5名から9名に増えました。団員が創造によってしっかりと結びつき生き生きとした劇団活動を行いたいと思っています。

#### ③ 最近の公演

5月12・13日「飄想少女(ねむりびと)」

劇団螺線館集団創作

#### ④ 今後の公演

9月23・24日「飄想少女」再演

於県立青少年劇場(ビッコロシアター・

中ホール)

12月9・10日(予定)

「傀儡族縁起・お花ゆめ地獄」

(尼崎市杭瀬北新町三―四七

尾尻コーポ4F)

#### 演劇集団和歌山

① 私たちは今年で創立九周年目を迎えることとなりますが、この六月、ようやく稽古場をもつことができました。これを機会に、稽古場公演も定期化していくつもりですが、七月三十一日、八月一日には、すでに稽古場披露公演として「天狗裁判」を上演する予定です。

② 現在、新稽古場の資金繰りと、披露公演の準備に奔走しており、秋の公演レポートリイはまだ決定していません。

③ 新稽古場の経費(敷金65万・家賃月六万五千円)もさることながら、これだけの新稽古場(広さ36坪)にふさわしい創造的的力量を持つことが最大の課題といえます。住所は末尾に記しました。電話は未だです。郵便物はすべてこの宛先へお願いします。

尚、披露公演で上演する「天狗裁判」は、市内に住む柳谷新氏に新しく書き下ろしてもらったもので、上方落語を脚色したものです。三〇〇円切手を同封して申し込んでいただければどなたにでも郵送します。(幸)

(和歌山市和歌浦南一丁目十四号)



# 関西における戦前プロレタリア演劇の研究〔二六〕

大 岡 欽 治

京都地方のプロレタリア演劇(第三回)  
日本プロレタリア劇場(演劇)同盟  
プロット京都支部・京都青服劇場(三)

## (4) 一九三二(昭和六)年

この年は、いよいよ軍部ファシストが動き始め、「三月事件」が起り、九月には、大陸政策の第一歩として「満州事変」を起し、そのために八月頃から、全協弾圧の波が日本の各地で起ってきた。

青服劇場は、前年秋の「太陽のない街」の公演予定を実現出来ず、移動活動に追われていたが、新しい年を迎えて、ナツブ京都地域協議会主催の「労働者新年慰安会」に参加、映画、演劇、音楽のプログラムの企画に加わった。その時のピラによると、その内容は次の

の如くであった。

『一九三二年一月十五日・昼一時夜六時二回  
労働者新年慰安会  
主 催 ナツブ京地域協議会  
会 場 三條青年会館  
入場料 労働者一〇銭 一般五〇銭

### ◇映画(プロキノ)

アスファルトの道。海上労働者。新版こども。俺達の広告。アジ太プロ消費組合の巻。

### ◇芝居(京都青服劇場公演)

プロ床……その他

### ◇合唱(シユブレヒコール)

(その他)

ところが、この新春慰安会は延期されてし

まった。その経過については記録されていないが、前年六月の「演芸大会」(前号記事参照)の影響で、取締られたのではないかと思われる。

青服劇場の記録によると、一月十六日に劇団は「関西新興劇団協議会」の結成を決定し大阪戦旗座、関西小劇場との三劇団によって構成、その結成は二月に発表された。

〔註〕この大阪戦旗座との共同斗争並びに「関西新興劇団協議会」結成に至る事情については、本誌「演劇会議」第二十二号(一九七二年十二月号)に、「関西における戦前プロレタリア演劇の研究」第九回、「大阪戦旗座」の項において詳細に述べ、プロット常中委に「概」も掲載してあるので、参照願いたい。

さて、一月十五日の「労働者新年慰安会」は、姿を変えて、三月八日に「プロレタリア演劇映画大会」として行われることになった。

一月の時のピラが、そのまま日時、内容を赤色の文字によって訂正され撤かれた。

赤字で消されたのは「一九三二年一月十五日」「労働者新年慰安会」が大きく赤い×字となり、「三月八日、開場五日」「プロレタリア演劇映画大会」となっている。

映画は「山宣告別式」が加えられ、芝居は「坂・一幕」が加えられ、朝鮮劇は消され、合唱は抹殺となっている。

当日のプログラムは次の如くに行われた。  
『プロレタリア演劇映画大会』

三月八日 夜五時

三條青年会館

入場料 一般五〇銭 労働者一〇銭

主催 ナツブ京都地区協議会

後援 京都「戦旗座」支局

### 〔演 劇〕

「坂」 原作香川晋 演出多喜荘二

舞台装置 P.P.京都支部

百姓一酒井頤 女房一北野順子 貴婦人

### 〔映 画〕

「プロキノニュース」第二報、第四報「アジ太プロ消費組合の巻」「山本宣治告別式」「こども」「俺達の広告」「港灣労働者」「第十一回東京大阪メーデー」

さて、ここで一つのエピソードをはさんでみよう。

青服劇場の演技者名に「酒井頤」という名が出ています。

現在もTVで活躍して親しまれている吉田義夫は「語りもの、京都新劇史Ⅱ」の三二頁で次の如く述べている。

『昭和十年頃かな、僕の親父に非合法でエロンビタールの舞台に出たんです、酒井頤という名ですね。それが松本克平さんに、酒井って

誰だと聞かれて、さあ誰やったかなと最初は全然忘れてたんです。途中で思い出して、あああれは僕のことだと行って大笑いしたんです。(下略)』

又別に、吉田義夫の自筆の「ジグザクの履歴」(複写して「語りもの・京都新劇史Ⅱ」の資料編に掲載されている)の最後の処で、『註 克平さんの記事中、酒井頤と出ているのは、実は小生の仮の名で、任んでいた所が櫻町、親父の名が栄次郎なので、何んとなくそう称した、実は親父は青服劇場時代に懲りているので芝居は内密でやって居たからである』と書いている。

処で、吉田の「京都新劇史Ⅱ」には、次の如き箇所がある。

『先に言いました「太陽のない街」で応募していた時、始めの日は沢山の人が来てましたが、次の日に行ってみるとずいぶん人が減ってましてね。研究生として稽古法やタルコロイズなんか教わりましたが、人は減るばかりで、とても「太陽のない街」は出来そうにないんですね、それで結局移動演劇用の「プロ床」や「プロ裁判」というような「戦旗」に載っているやつを仕込むことになって、それ稽古ばかりやってました。』

だから芝居らしい芝居をやる程人が集まらなかつたんですな。(下略)』

こうして公演記録と、吉田自身の記憶によるものとを総合して判断してみると、吉田義夫は、「酒井道」という芸名で、青服劇場のこの公演に参加し、初出場したということになると思われる。

このように青服劇場は、移動用のアジプロ小戯曲を舞台にかけてきたが、公演としての第一歩を次の如く持つことになった。

プログラムには、「青服劇場第七回公演」と始めて回数を明示しているのだが、以上見てきた通りの劇団の過程では、どのようにして公演回数を決定したかは判つきりしない。

#### 『日本プロレタリア劇場同盟』

#### 京都青服劇場 第七回公演

一九三二年七月一日 夕六時半

会場 鳥丸夷川 日出会館

入場料 労働者三〇銭 一般七〇銭

後援 京都地区協議会「戦旗社」京都支局

助演 東京左翼劇場、新築地劇団、大阪戦旗座

当時のマスコミが、このプロットの活動をどう紹介したかを、会場の持ち主である京都の日出新聞の紙上でみてみよう。

京都日出新聞 昭和六年七月一日号

#### 『今夕本社日出会館で』

#### 青服劇場の公演

今一日午後六時半から鳥丸夷川上ル本社内日出会館で、京都プロレタリア劇団青服劇場の「戦列への道」が公演、度重なる弾圧の中で小公演や所謂移動劇場活動を続けていた同劇団の本領を広く労働大衆及び一般演劇愛好家に問うことになった。

「戦列への道」は徳永直氏原作、藤田満雄氏脚色で東京左翼劇場が上演して好評を博したものを、更に青服劇場は階級的見地から徹底的に改作したものである。例によって工場のストライキを背景に、虎と呼ぶ飲んだくれのルンペン労働者が次第に意識化し最後にプロレタリアの戦列に加わって行く過程を描いたものであるが、当局の嚴重な検閲の鉄をくぐって如何に演出されるか興味ある問題である。尚新築地の島田敬一を始め僚友劇団たる東京左翼劇場、大阪戦旗座の連中が精力的に応援することになってくる。(一般入場料七十銭 労働者三十銭)

「プロ裁判」 原作新城信一郎 演出中平英吉

見よ!! プロ弁護士の名裁判……日鮮労働者提携万才!

「戦列への道」 原作徳永直 脚色藤田満雄

改作青服劇場芸芸部 演出大島健吉 島田敬一 (新築地)

一度は酒と女に身を持ちくずした虎公も労働者の根性はチャンと持っていた、眼をさました虎公はついに俺達の仲間になった。

諸君らの工場にも虎公のやうな兄弟はいないか? いたらそいつらの眼をさまさせろ! そして俺達はみんなで行くんだ プロレタリアの戦列へ!!

これこそプロレタリアの芝居だ 俺達の芝居へドンドン押しかけろ!

労働者券申込みは、西の都圓町 医大グ ラウンド北、ナツプ事務所

#### 出演者

#### ①「プロ裁判」

プロ弁護士—多喜荘二 朝鮮人—吉田義夫 日本人—大島健吉 ダラ鴨—中平英吉

#### ②「戦列への道」

日清印刷社長—島田敬一(新築地) 専務—中平英吉 虎—吉田義夫 工長—赤木健(左翼) えぼ定—中平英吉 女工A—北野しづ子 同B—本郷しづ子 同C—白河礼子 同D—由利夏樹 黒木—島田敬一(新築地) 阿部—多喜荘二 船越—辻輝彦(辻井照夫—戦旗座) 暴力団A—小山通(杉村長之助) 工場長—赤木健(左翼劇場)

#### 舞台監督

浦路理一(戦旗座) 杉田謙一郎

東京のプロットからは、新築地劇団(五月プロット第三回大会でプロットに加盟)の島田敬一、東京左翼劇場から赤木健(誰の変名か不明) 大阪からは戦旗座から辻井輝夫と浦路理一(演出、後に青服劇場に転籍) 青服劇場は、多喜荘二(西條照太郎) 大島健吉、中平英吉、杉田謙一郎のスタッフに、吉田義夫、小山勇(杉村長之助) が出演、吉田は主役虎を演じた。

この公演において、青服劇場は創立以来始めての長篇物を上演するに至った。また自力による大劇場への進出の第一歩でもあった。

者文化団体協議会」(コップ)へと結果することが決定して、日本の文化運動は新しい、方針によって進展を期することになった。

このような状況の中にも、京都では東京のプロレタリア劇団を迎えていた。先づ東京左翼劇場をみると、九月十六日から廿一日まで、東京左翼劇場第三回関西公演が行われた。

九月十六、七日 大阪朝日会館  
九月十二日 神戸八千代座  
九月廿、廿一日 京都日の出会館

#### 演目

「勝利の記録」 村山知義作 佐野碩演出

上演禁止となり次の作品に代える。

「京漢工人流血記」 村山知義作 杉本良吉

矢口文吉(松尾哲次)演出

村山作「暴力団記」は改題され「全線」となったが、今回更に上記の如く改題させられた。

「生きた新聞」第一輯 村山知義作 杉本

良吉、矢口文吉演出

1 トルタンブ鉄道

2 五ヶ年計画

観客数 大阪二日二回 一、八三一人

神戸一日二回 八三四人

京都二日三回 一、〇九三人

このような記録を残している。

新築地劇団は、最も多くの回数を重ねている。

(1) 二月 日 「炭塵」 三好十郎作

京都岡崎公会堂

(2) 四月十七日 「アジアの嵐」ブドフキン

原作 高田保脚色 土方与

志演出 岡崎公会堂

(五月十七日 プロット第三回大会において、新築地劇団プロット加盟承認さる)

(3) 六月十六日 「東洋車輛工場」村山知義

作 土方与志演出

岡崎公会堂

(4) 十一月十六日 「土地・斗争」和田勝一

作 「生きた新聞」左翼劇

場文芸部作 「おまつり」

三好十郎作 岡崎公会堂

(「勤労学校」村山知義作

は検閲削除を受け、上演不可能となる)

劇場同盟から演劇同盟へ、ナツプからコッ

プへと大きく活動を展開する方針に沿って、

各地方においても、これに呼応する活動が開

始されることになった。

京都のプロレタリア演劇も、この時点にお

いて、大きな飛躍を示すことになった。

青服劇場は、プロットの一員となった東京

の新築地劇団と合同公演を滋賀県彦根市に

おいて持つ、という劇期的な企画を樹てた。

日本プロレタリア演劇同盟

東京 新築地劇団 大公演

京都 青服劇場

東京 左翼劇場 後援

一九三二年十一月廿二、廿三日

午後六時

会場 彦根市 帝国館

入場料 労働者三〇銭 一般五〇銭

主催 滋賀自動車従業員交友会

後援 彦根共生園

演目 「何が彼女をさうさせたか」藤森 成吉作

「プロ裁判」 新城信一郎作

「早鐘」 小野 宮吉作

ピラには出演者の顔振れが出ている。

### 名優

滝沢 修 嵯峨善兵 萩原三郎 阿部虎雄

大島健吉 小山勇 高橋豊年 細川ちか子

赤木蘭子 外男女優二十数名

青服劇場員に「名優」という肩書きがついたのも始めてであったらう。

その配役を見ると、

「何が彼女をさうさせたか」 藤森成吉作

すみ子(赤木蘭子(左翼)) 阪本佐平(嵯峨善兵(左翼)) 敬三(滝沢修(左翼)) 黒

助(小山勇(青服)) おせい(女中) 梅子

(細川ちか子(新築地)) 秋山秀子夫人、

おかく(高橋豊年(新築地)) 勇次(車夫)

(滝沢修(左翼)) 山下巡査部長(大島健

吉(青服)) 平沼(阿部虎雄(青服)) 原(

萩原三郎(青服)) お鈴(元女工) 白河礼

子(青服) その他

「プロ裁判」 新城信一郎作

弁護士(滝沢修(左翼)) 内地人(大島健

吉(青服)) 朝鮮人(萩原三郎(青服)) ダ

ラ幹(嵯峨善兵(左翼))

「早鐘」 小野宮吉作

仁吉(萩原三郎) 父(大島健吉) 村田(

### 月創刊号所載

ここに報告されている十一月廿九日から十二月までの「戦列への道」の京都府下巡演が実践されたかどうかは不明である。

青服劇場の北陸の福井市での初公演。それは青服劇場員のみ単独(東京左翼劇場のオクルグ嵯峨善兵一人だけが助演したが)舞台上によって出来たことは注目されるべき公演で、彦根公演に続いて、十二月に実現した。まづ、プログラムに発表された一文を紹介しよう。

### 『挨拶にかへて』

全福井の労働者諸君!

不景気や戦争で、俺たちの生活は益々苦し

くなるばかりだ。

それでは、どうにもやりきれん、東京で、

大阪で、神戸で、幾千幾万の労働者は、かた

く腕をくんで資本家を相手に戦っている。

ところが、福井の職工やオリコサンの中に

は、まだ自分が労働者であることに気がついて

いない人さへある。労働者とは自分らと違

った何かケガラはしいものであるやうに思い

こんでいる人が多い。そして労働組合なん

か、まるで赤の他人だと心得ている人が多い

### 演出スタッフ

演出(浦路理一、小山勇 舞台監督(杉

田渕一郎、同助手(村上健作 舞台装置

(P P 京都支部 照明(城山三郎 効果

(笠川純 小道具(藤村征彦 衣裳(白

河礼子

これも全員青服劇場員である。小山勇(杉

村長之助)が演出面にも参加し始めている。

と同時に、喜多荘二(西条照太郎)の名が見

出せない。演技者の方で「萩原三郎」という

ステージネームは、吉田義夫の使った芸名で

もあった。

しかし、とにかく青服劇場が東京左翼劇場

や新築地劇団の演技者と配役の上で一体とな

ったのはこの時が最初で、その点は特筆しな

ければならず、プロットの全体的組織活動が

あればこそであった。

この十、十一月時点におけるプロット活動の報告書(プロット常中委書記局発表)は、京都について次の如く報告している。

(プロット機関誌「プロット」一九三二年一

のだ。だが、そんなことではいつまで待っても俺たちが人間らしい生活の出来る時は来ないぞ。この理屈を面白く、わかりやすく芝居で見て貰うために、我が同志会は、今度青服劇場の同志諸君に来て貰ったのだ。

青服劇場は芝居を商売にしている劇団ではない。学生、会社員、職場労働者諸君が集って労働運動を助けるため、すべてをギセイにして戦っているのだ。

どうかこの芝居を見た諸君は、すぐさま同志会へ這入って来て、我が同志会を真に労働者のために戦う力強い組合に育て上げてほしい。

同志会はだれのものでもない、諸君のものだ。

同志会と諸君は一つのものであって、決して二つのものではないぞ。

諸君の鉄腕で同志会を守れ、

京都青服劇場万才ノ

福井県労働同志会万才ノ

一九三一年一月五日

福井県労働同志会

### 左翼劇団来る!!

これと前掲の「挨拶にかへて!!」と並べて見ると、その時代性が浮び上ってくるだろう。

(2) 落合二郎作「仁吉の一家」は、小野宮吉作「早鐘」を、このように作者、戯曲名を変えて検閲に出したものである。

(3) この公演について吉田義夫は「語りもの京都新劇史Ⅱ」において、次の如く述べている。

『(前略)八月二十六日、全協が弾圧された時、私は四十五日程留置場に入れられました。理由はわかりません。それで解放されたとき重症の脚気でフラフラでした。ところが年もせまった冬、この「戦列への道」が福井市の加賀屋座に一日だけ上演できることになりました。

私は、年を越えれば、現役兵で入隊ですから、何とかこの福井公演に参加したいと思いきや、家庭闘争をやって、やっと参加しました。もちろん持役の「虎」はできません。スキヤップの役で島田敬一さんも、嵯峨善兵さんも本部からオルグに来てたんです。この二人の

を掲げた。

このように京都青服劇場は、京都から彦根、そして更に北陸福井にと活動を展開して行ったのである。

### 「日本プロレタリア演劇同盟

### 京都青服劇場 北陸第一回公演

一九三一年十二月五、六日

夜六時半

会場 福井市 加賀屋座

主催 福井県労働同志会

入場料 A五〇銭 B三〇銭

### 演目

「仁吉の一家」 落合二郎作

仁吉一 萩原三郎 仁吉の父一 大島健吉

仁吉の娘お民一 本郷静子 仁吉の妻一 玉木鏡子

村田一 小山勇 茂助一 阿部虎雄

「戦列への道」 徳永直原作 藤田満雄脚

色 青服劇場文芸部改作

日清印刷社長一 小山勇 同専務一 佐藤義雄

同工長一 大島健吉 虎一 萩原三郎

原田一 阿部虎雄 お道一 玉木鏡子 えほ

定一 嵯峨善兵 女工A一 本郷しづ子 女

工B一 由利夏樹 暴力団一 小山勇 すし

やの亭主一 嵯峨善兵 タイピスト一 白河

礼子 スキヤップ一 大島健吉 東京印刷  
工場一 嵯峨善兵 阿部一 池谷信一 その  
他

### 演出スタッフ

演出浦路理一、小山勇 舞台監督杉田連

一郎 舞台装置PPP京都支部 照明城山

三郎 効果笠川純 小道具藤村植彦 衣

裳白河礼子

この公演に関連したことを記してみると、ビラには次の如く書かれている。

(1) 『京都 青服劇場北陸公演

徳永直原作

「戦列への道」 2幕10場

脚色 青服劇場文芸部

12月5日・6日 毎夕六時開演

「生活線ABC」や「何が彼の女」の如き

インテリヤ左翼にあらず、

これこそほんとうのプロレタリア演劇だ。

農村悲劇

「仁吉の一家」 1幕

殺到せよ!

諸君の演劇を諸君の手で守れ!

日本プロレタリア演劇同盟

人が青服劇場の技術的指導されて常駐してたんです。(下略)

(1) 公演日は十二月五、六日の二日間であること。

(2) この公演に嵯峨は出演しているが、島田敬一は、その前の七月一日の京都日出国館の「戦列への道」で演出と出演をしているので吉田の記憶違いである。

(3) 吉田義夫は、この年の青服劇場公演に出演し、三月の「叛」に酒井巖、七月の「戦列への道」で吉田義夫、十一月の彦根公演の「何が彼女をさうさせたか」と「プロ裁判」に萩原三郎、十二月の福井公演に「仁吉の一家」と「戦列への道」で萩原三郎という芸名で出演しているのである。

さて、この福井公演について、プロット常任中央委員会書記局の「十二月のプロット活動報告」(プロット機関誌「プロット」一九三二年二月号所載)に次の如く報告されている。

### 「青服劇場

十二月五、六日「戦列への道」「仁吉親子」を持って福井市加賀屋座に公演、入場

者九〇〇名。劇場内に活動部を設立した」また一方、プロット劇場同盟から演劇同盟への改組(支部組織の確立)は、各地において、この年十二月に確立の方針であったが、京都の状況については、同報告書に次の如くふれられている。

### 「京都地方

京都支部準備委員会は各専門部確立へと進み、創立総会は二月一日に持つ予定」となっている。

これは十一月から十二月にかけて、青服劇場の彦根、福井への地方公演に全力をかけたために、他地方に比較して準備活動が遅れたのであろう。

しかし、この年の青服劇場の活動は、劇団創立以来始めて一本立のプロレタリア劇団としての存在価値を示すことが出来た時期であったといえる。

(一九三一年の項 終り)

### 本稿に関する参考文献資料

### △文献▽

(1) 「昭和史・新版」遠山茂樹、今井清一、藤原彰著、岩波新書 一九五九年

- (2) 「日本共産党の五十年・増補版」 日本共産党中央委員会出版局 一九七七年
- (3) 「礎をきずいた人びと」 日本共産党京都府委員会編 京都民報社 一九七二年
- (4) 「京都府百年の資料・第九巻 芸術編」 京都府総合資料館編 一九七二年
- (5) 「新劇年代記・戦前篇」 倉林誠一郎著 白水社 一九七二年
- (6) 「中央劇場(左翼劇場)上演目録」ハ一 九二六・二―一九三四・四V一九三四年 「新築地劇団上演一覽表」ハ一九二九年―一九三六・一V 新築地パンフレット 一九三六年
- (8) 日本プロレタリア演劇同盟機関誌「プロット」一九三二年一月創刊号・二月号 プロット常任中央委員会書記局「プロット活動報告」一九三二年
- (9) 東西演劇合同機関誌「演劇会談」第二十二号、「関西における戦前プロレタリア演劇の研究・第九回」大岡欽治 一九七二年
- 00 「語りもの 京都新劇史 その二」 北川鉄夫、西条照太郎、吉田義夫 京都新劇団協議会 一九七六年
- △「青服劇場関係資料」(筆者所持) 一九三一(昭和六)年分
- (1) 一月十五日「労働者新年慰安会」(ピラ)
- (2) 三月八日「プロレタリア演劇映画大会」(ピラ・プログラム)
- (3) 七月一日「青服劇場第七回公演」(ピラ・プログラム)
- (4) 十一月廿二、廿三日「青服、新築地合同彦根公演」(ピラ・プログラム)
- (5) 十二月五、六日「青服劇場福井公演」(ピラ・プログラム)
- △「ナツプ関係文献」
- 今年(ナツプ創立五十周年に当り、本誌でも、このナツプの発展的解消とコップ創立の時点になっているので、関連した文献が次の二つの雑誌に出ているので参考のために書いておきます。
- 「民主文字」(三月号)「文化評論」(五月号)

京 都 新 劇 略 年 表 (Ⅲ) <1931>

年月日	劇 団 名	会 場	戯 曲 名	作 者	演 出 者	出 演 者	備 考
1/15	青 服 劇 場	三条青年 会 船	ノ 農 村 村 会 へ	床 島 公雄 (朝鮮語劇)			労働者新年慰安会主催 公演中止
2/	関西新劇団協議会結成	(京都青服劇場、大阪戦旗座、関西小劇場参加)					
2/11-13	新築地劇団	岡 公 堂 三 青 年 会 館	炭 葉 (ガス)	三好 十郎 香川 晋 島 公清	土方 与志 多喜 多幸 中平 英吉	酒井 謙、北野 朝子、多喜 幸 主権チツクノ地協	プロレタリア演劇、映画大会
3/8	青 服 劇 場	岡 公 堂	坂 ・ ノ ロ 床				
3/13-20	青 服 劇 場	演 劇 講 習 会					
3/17	劇 団 新 東 京	岡 公 堂	街 の ル ン ベ ン	下村 千秋 (脚)八住利雄 モリエール (脚)開口存男 ノブフキノ (脚)高田保	青山 杉作 青山 杉作	東山 千栄子 友田 恭助 田村 秋子	
4/20-21	新築地劇団	岡 公 堂	ア ジ ア の 嵐		土方 与志	丸山 定夫	
5/17	プロット第3回大会	(於東京築地小劇場)					新築地劇団プロット加盟
6/17	新築地劇団	船 岡 公 堂	東 洋 車 輛 工 場	村山 知義	土方 与志	吉田義夫、島 田 健	プロット加盟記念公演
7/1	青 服 劇 場	日 出 会 館	戦 列 へ の 道	徳木 直 (脚)藤村清雄	大島 健吉 島田 敬一	吉田 敬一、赤木 健	第7回公演 新築地、東京左翼、大阪戦旗 の各劇団応援
9/7	関西新劇団協議会再組織	(京都青服劇場、神戸全線座、大阪戦旗座、構成劇場、ナツプ、服劇団参加)					



のまま上演すれば四時間かかる。現在の新劇状況下では省略は止むを得ない制約がある。

問題は、筋の流れでは確かに原作と同じ方向をたどりながら個々のシーンにはかなり思い切った「調色」をしている点である。まずプロローグ。ガリレイ（藤本栄治）と学生たちがジョッキを手に、酔態で登場。地動説を「コペルニクス、ブルノーを称讃して叫びまくる」。いわば真理の解放感に酔っ払う扱いは、第二場（原作では第一場）以降の展開と対置されることで確かに一つの真理（何百年もたった現在ではごくあたり前になっている地動説など）が歴史の中で正当な座を勝ちとるまでのいばらの道や、そこに生きる意味を暗示するかのようならぬを感じさせはした。

しかしこれはこの戯曲全体の流れ、舞台と観客との間の緊張の連続線を計算して挿入したものと残念ながら思えない。暴発するような騒ぎで導入を作るやり方は歌舞伎劇などでは有効な場合も多い。しかし、科学的真理を論理展開でアンドレア（子供時代は実松美子、七場から浮田孝明）やフェデルツォニ（高橋政一）、下級僧侶（小林滝三）らに説

く「横糸」に、ローマ法王庁の宗教的權威、秩序の包圍や、ヴァンニ（假川浩）に代表される新興ブルジョアジの台頭など当時の社会の多様な断面を描く「縦糸」をからませた構成の中で、ガリレイの多面的な性格を観客にそのまま提供する。このような作劇の中ではプロローグは無駄なつけ足しではなかったか。その時間をむしろ「ベストにもひるまずガリレイは研究を続ける」（原作第五場）や「ある対話」（同第八場）などに回すよう努力してはしかなかったからである。特に、まずしい農夫の小伴だった下級僧侶が研究を離れ、法王庁の秩序の中へ戻って行く経過と、それにガリレイが対決する「ある対話」はそのガリレイの屈服ともまた違う戦線離脱のパターンだけに、削除したのはあまりにも惜しい。

原作の第十場「次の十年間にガリレイの学説は民衆の間に拡ってゆく……」に相当する部分は換骨奪胎した第八場となったが、カーニバルの行列を背にしたがら旧秩序の崩壊を揶揄し、ガリレイの成果を歌いまくる「パレード歌手の迫力にははるかに及ばない」。

大道商人夫婦（南部光男、池下雅子）が「天文対話」を叩き売りする演出でガリレイの科学が民衆の生活レベルまで浸透して行く様を

描いているのはわかるが、次元の低い駄洒落に終った。俳優の人数など制約が多い中での上演だけに苦しいことは理解しているつもりだ。しかしこの場でのパレード歌手の物語詩に限らず、ブレヒトが各場の冒頭に書き出した四行詩を全く無視して台本を作成し、上演してしまっただけのことか。まさか日本の観客がそのような知的思考には全くふさわしくないと判断したのではないと思うが、残念なことの一つである。

ヴィルジニア（児玉康子）を最終の十一場に登場させなかった扱いも意見の分れるところだろう。原作（十四場）では父・ガリレイの科学的業績は一向に理解しないが、動物的にもいえるいたわりで父を後見するヴィルジニアが登場する。

スタントだというわけではない。むしろ研究活動に限り、サルティのおかみさん（金子順子）ともどもガリレイにブレッキーをかける役割でもあった。権力側からの抑圧とは違う民衆内部の困難（民衆のたぐいましむの一面でもあるのだが）を凝縮したような設定だけに、ヴィルジニアは最終場にも出してはしかなかった。彼女については第九場（原作第十一場）の終結部——ガリレイが宗教裁判所への呼出命令を受ける直前に脱出を図ろうとする個所で、原作ではヴィルジニアが父に「ご存じだったんですね」と語り、ガリレイは「俺たちの後をつけている男を見ないようにしろ……」と答える。緊迫したシーンだが、潮流の上演ではヴィルジニアの台詞がカットされていた。

藤本ガリレイを核に、凝縮した演技が展開されていくだけにこの台詞の欠落は惜しい。

潮流の上演ではガリレイが全体の牽引車になり、演技者の力量の不均等さをうまくカバーした。全体としても確かにきれいにまとまっている。しかしブレヒトがこの作品に提示したがガリレイの多面的な性格を引き出すにはガリレイの演技に舞台を集中するだけではな

く、周辺演技をもう一步練り上げる必要があった。第九場（原作第十一場）でヴァンニがガリレイを訪問する個所もその一つ。新しい産業への科学、技術の適用を謳歌し、ヴェネツィアへの脱出を誘いかけるヴァンニにガリレイは「どうも金儲けをしたがる奴らばかりがわしのまわりに集まって来る。不平不満のある連中にかつぎ上げられるのはごめんだ……」とフィレンツェの大公を擁護する。ヴァンニが指摘する「敵と味方の見分け」もつかないガリレイの限界だが、これはガリレイの演技よりヴァンニによってもっと明確に引き出してはしかなかった。

新時代を担うヴァンニの先進性は反面、民衆の科学が、資本に従属する科学、戦争効率を最大限に追求する原子爆弾か、の二面性を包含しているだけにヴァンニの演技には輝きと重さが要求される。

最終場のガリレイを老いさらばえ、食うことだけに執念を燃やす姿に作った点も議論の分れるところだろう。確かに、権力に屈服した後の挫折感や依怙地、動物的に生きる証としての食慾を老醜の中に描きながら、土壇場で新科学対話のコピーをアンドレアに手渡す逆転はそれなりに効果的だった。しかし、

ここで提起される食慾も、ガリレイの屈服や科学それ自体も皆、二面性を持っている。人間として生きて行くための食慾は何とすばらしく映ることか。それに対し人間の尊厳性を捨て「権力に屈服して、ただ動物的に生きるにも食慾はついて回る。ガリレイの場合、しかしながら屈服することによって新科学対話は完成させることができた——アンドレアがガリレイの屈服が「敵から真理をかくまうため」のものであったのですね、と述べるのに対し「肉体的苦痛がこわかった、拷問器具を見せられたためだ」と、それを否定するガリレイは「一人の人間にしか書けないという科学の本はない」と語ることで、民衆の広く深い海に息づく科学を展望している。

ここで展開する権力への「屈服」は単なる地動説の取り消しだけではなく、ブレヒトが一九三四年、ナチス支配下のドイツで配布する目的で書いた「真実を書く際の五つの困難」にも通じる問題提起をばらみながら、同時に民衆との接点を必死に探索した訴えだと思ふ。それだけに、ガリレイは年代記的に老いた形象より、もっとしたたかな存在に描いた方がそれらの多面的な真理、性格は明確に



なり観客に投げかける効果もより強く出せたのではなからうか(藤本ガリレイもアンドレアに新科学対話のコピーを渡すあたりからはしたたかさが効果的に出ていたが)。

ここは前の第十場(原作第十三場)でアンドレアの「英雄を持たぬ国は不幸だ」の叫びに、ガリレイが「英雄を必要とする国が不幸なのだ」と叫び返したのを受けて展開している。ガリレイは「根をはった悪習」を逆手にとりて新科学対話を執筆する最終場へつないで行く展開法から見ても、明らかにファシズムとの闘いについての可能な限りのあらゆる局面を作り出すよう世界の民衆に呼びかけた場面だと考える。ほかならぬ、私の私たちが語りかけでもある。

現代ドイツの劇作家ハイナー・ミュラーはブレヒトの「第三帝国の恐怖と貧困」について、亡命中の報道記事などいわゆる二次的資料に頼ったが故に、一種の観念的なファシズム像しか生み出さなかったとそのリアリズムの限界を批判している(市川明「ハイナー・ミュラーの「フィロクテート」改作」参照)が、私はそのリアリズム論展開に大きな関心を抱きながらもブレヒトのリアリズムについて一言述べたい。それは事実限りなく

似せたディテールの集積でなく、その事実を生み出すメカニズムをしっかりとらえ、そのメカニズムをより明確に提示するためのディテールの選択であると理解する。

「第三帝国」同様、「ガリレイ」においても歴史の一面を現代との関連の中で解明する作業を観客と共同で進めることが上演の課題であったと思う。その面からガリレイとその周辺の演技にいくつかの願望を出してみたい次第である。

ここに提起した私の願望は、まず潮流が一定の、かなり高いレベルの演劇集団であることとを前提としたものだが、周辺の状況を考えると、かなりむりな注文という一面も持っている。現在の大阪の新劇状況では午後六時半以降の公演でないと観客はかけつけることができない。また終演を十時以後にするのと距離から通勤している観客は終電に間に合わない制約だつてある。ホール自体、九時以降に延びる公演などを嫌うところが多い。

このような貧困な環境の中で原作のニュアンスを損うな、とはなんと結構な要望であることか。さらに定期公演では赤字を避けることはできないのが実状だ(赤字を出さない公

演作りを試みている劇団もあるが)。一つの公演を維持するために学校移動公演が定期一般公演以上に重要な仕事になる。それ故の準備不十分、練習不足、とり組みの甘さを観客席から責めてどれだけの意味があろうか。

第一、劇団員は疲労感にとらえられているのではないか。厳しくなっていく一方の生活条件、それ以上に、めくるめく変革の時代はこれを速かに見てのぞむだけなのだろうか。「星をみつめて」で描かれた新劇団の困難はますますに増幅して襲いかかって来ている。

しかし、その中で演劇を創造して行くこと自体、一つの変革の事業ではないだろうか。それだからこそ、私はあえていくつかの願望を書き綴った。できることならばこの公演を踏台に、さらに一工夫こらした形での再上演を期待したい。

(5月17・18日、  
大阪郵便貯金会館ホール)

## 劇評

### 「あゝ八月の陽の如く」

劇団四代会・神戸演劇連合同公演

#### 阿部好一

内田昌夫のかつての「タービン工場」は、対象に向ってムキになって斬りこんでゆく情熱のようなものがあり、それは時に性急さに見えぬこともなかった。劇作家としての手練手管を知らぬわけではないが、そういうものが寄り道に見えてしまうような時期にこの作者はいたのだろうか。

関西芸術座の上演記録によると、「タービン工場」の上演は一九六五年である。当時私は毎日新聞学芸部(大阪)の演劇担当記者として新劇の地方公演をテーマに関芸の四国公演に同行、取材したときの舞台がたまたまこの作品であった。従って私は舞台をただ客席からだけでなく、舞台ソデや照明室などさまざまな角度から見るようになったわけである。「タービン工場」よりも評判の良かった

らしい「ディーゼル工場」などの作品を私は見ていないので、この作家の成熟の過程を精細に跡づける資格は私にないわけだが、ともかくも十三年前の内田の旧作とこんどの「あゝ八月の陽の如く」を比較的に見る視点が私のなかにある。

一口に言ってしまうと、この作者の人間を見る眼はかつてのそれよりもはるかに深まり豊かになっている。旧作に見られた一枚の薄板のような人間像は確実に厚みを増した。セリフも格段にうまくなっている。例えば、組合役員をしている中年男が仲間を助けるために自分の妻に金を出させようとする場面の会話――

オヤジ (トリに) ちょっと来い。  
トリ 何でよ。

オヤジ 二十円程ちょっといらや。  
トリ 二十円。何ぞえ、急にそんな大金。  
オヤジ お前、今何ぼ持ったら。  
トリ 私しゃ一文もないぞよ。  
オヤジ おらも都合つかんぞ。  
トリ ほんなら銭使えんわの。  
オヤジ どうでも要る金よ。  
トリ 私しゃ知らんぞよ、そんな話。  
オヤジ 十円ぐらいなら、なんとかならうがえ。

トリ 二十円ちゆうたり、十円ちゆうたり  
の。もう十円違わや。  
オヤジ 何ぬかしや。  
トリ 言わいでかいな。  
オヤジ 可愛いげないの。  
トリ あるかえ、そんなもん。貧乏世帯で  
とうにのうなつたら。  
オヤジ 男を男と思わんの、お前は。

ここには二人の性格から夫婦関係のありようまでを一気にとらえるうまさがあり、短かいセリフの間髪を入れぬやりとりがユーモアさえ生んでいる。これなどは「タービン工場」には全く見られなかったものだ。そういう箇所には私は瞠目した。

だが、始めから細部に入り過ぎた。話をもどそう。

「あゝ八月の陽の如く」は大正十年の神戸川崎・三菱両造船所の大争議を描いた劇である。ただし、争議そのものを直接的に扱っているのではなく、川崎の労組委員であるオヤジの一家とその隣家の平三郎の家族の視点を通して争議の経過を描いている。平三郎の一人息子平八もまた川崎の職工であり、はじめ病弱の父を思ってスト参加には慎重であった平八もやがて次第に積極化しストの先頭に立つようになる。だが神戸で「一旗あげる」ために郷里を出てきた父平三郎は敗残の身であるが故に息子の立身を顧みず執念にとりつかれており、当然ストには反対である。父の家を出て争議に献身する平八のためにオヤジの一家では娘のサキが西洋料理店に働きに出て平八の独立のための資金をつくる。

そういう市井の人々の感情や心理をとらえる作者の筆には全く無理がなく、極めて自然に納得のゆくように描かれている。とくにオヤジの妻であるトリの、リアリストでありながら一面楽天的でたくましい性格が、舞台の形象化の問題は別として、よく描かれていたと思う。両家の対立から和解にいたる運びに

も、作者が筆の走りを抑えながら緻密に跡づけていこうとしていることがよくわかる。

だが、それでいて私がこの作品にある種の不満を抱かざるを得ないのはなぜであろうか。それはどこから由来するのだろうか。

いきなりアリストテレスを持ち出すのも気が恥かしいが、彼の「詩学」には、ドラマには「発見」と「急転」が必要だ、とある。「発見」と「急転」が少々大仰なら、単純に「変化」と言いかえてもいい。この作品の主要人物のうち、ドラマの中で「変化」を遂げたものはだれであろうか。

例えばオヤジは、開幕のところすでに労組の役員の一入であり、第一幕一場で引越しの荷車を引いて出てくるのも会社側が社員私宅にまで監視の目を光らせはじめたため転居せざるを得なくなったからである。そういう彼がそれ以後に歩む道はほぼ一直線であり、ジグザグ・コースをたどったりはしない。

その妻トリはどうか。彼女はたしかに後半になって争議への認識を深めはするけれども、もともと夫やその同僚の行動に疑義や不満があったわけではなく、従って対立していたわけではさらさない。では、隣家の息子の立場からしかとらえていない。彼は社会に目を開く前に死んだ。いわば状況の本質をとらえる一歩手前でもどまったのだ。彼の「変化」は未遂に終わったのだと言ってよい。

このように主要人物たちは余り大きく「変化」しないのである。警察が争議に介入する終幕では、平三郎や労働者と警察隊とのたたかいが舞台上に描かれ表面は明確なクライマックスを形づくっているようだが、その実、人物たちの「変化」は小さく、その劇行動のカリブはいかにも微弱だ。いまさらアリストテレスにこだわる気はないが、一本のドラマのなかで人物たちが「変化」しない劇はどこか迫力に欠けることを私たちは経験的に知っているはずだ。私がこの作品の随所にうまさを感じながらも一方で欲求不満になったのもたぶん同じ理由だと思う。

演出（梶武史）が後半、息子の組合集会で演説を聞く平三郎の顔をクローズ・アップするなど、平三郎の「変化」を強調しようとしていたのは右に述べた理由によってそれなりに正しい方法である。舞台を堅固なものにしたのも演出の功績だろう。場面転換のときに職工・記者ら数人が記事や声明文を読みあ

平八はどうだろうか。彼は当初争議に対しても慎重な態度をとるが、会社側の雇った暴力団によって負傷させられ、その記事が新聞に出てから否応なく争議に深くかかわってゆく。それはたしかに一つの「変化」には違いない。しかし、彼のその「変化」は全三幕十

四場のうち早くも第一幕第四場で行われるのである。彼が会社側の真の意図を「発見」し自身の姿勢を「急転」させてゆくのは、この劇の構成でいえばはじめの三分の一ほどのところであり、それをこの劇のクライマックスとするには劇構成から見ても早過ぎるだろう。また彼の「変化」の振幅もそれほど大きくとはいえない。なぜなら、彼が最初争議に対して慎重であるのは病弱の父をかかえた一家の行末を案じるからであり、それは彼個人の生活上の重大関心事であることは間違いないが、彼が争議に対して真っ向から反対していたわけではない。そのことは争議に参加するよう説得する同僚に向かって「もう二、三日待ってくれ」というセリフによっても明らかだ。観客はその一言によって平八が間もなく争議のために立ち上るだろうことを確実に予感する。それならば、彼の「変化」は少なくとも「急転」と呼ばれるほどの激しい「変

化」ではない。

ひとり平三郎だけが「変化」したように見える。「一旗あげる」夢を息子に託した彼はかたくなに争議に反対し、組合役員である隣家のオヤジを憎んでいるが、隣家の温情を知り自身もまた警官の暴力を受けて、やっと息子の争議参加を心情的に容認する。それはたしかに大きな「変化」であるように見える。

だが、その後もなお彼は争議に参加している息子を探しに行こうとして隣家のトリに「平八さんの事ばかり言いよってじゃが、そんな事言うてどうなら」と、その「自己中心主義」を批判される男である。息子を探しに行く目的にしてもただ警官の暴力を警戒するよう忠告するためなのだが、労働者と権力との全面衝突の直前に労働者の先頭に立とうとする息子にそういう忠告をすることにどれほどの意味があるだろうか。息子の足を引く結果になる、とまでは言わないにしても、彼のそういう態度は一体どこまで本気で争議を肯定しているのか、という無意識の疑念を観客に抱かせることになる。簡単に言ってしまうと、観客は心情的には平三郎の執念をあわれむと思いつつ、知的には毅然としない感じを持つだろう。結局、彼はこの大争議をも自己

げることによって争議の模様を観客に伝える。これで登場人物をとりまく状況の推移が明らかになるだけでなく、舞台をきりりと引締める効果もあった。やり方によっては市井の人情劇に唯しかねないドラマを視野の広い社会劇に仕上げたと言えよう。ただその演出を以てしても、三万人が加わったこの大争議の全容はとらえきれなかったが、それはあるいは演劇そのものの限界と考えるべきかも知れない。

演技陣は特筆すべき好演もなかった。どこといて隙のない立派なアンサンブルを示した。所属の異なる演技者群をここまでまとめ上げたのもやはり演出であろう。オヤジの妻、トリ（神代マリヤ）にやや若さが露呈したのと職工たちのセリフが一本調子の怒号になりがちで性格描写も単調になったのが難点。オヤジ（菊地照一）が特異なキャラクターで注目された。出色だったのは装置（三村昌三）だ。とくにオヤジと平三郎の家が並ぶ長屋の場面は簡素化を写実のそれぞれ相反する方向をバランスよくまとめて破綻がなかった。

四月二十八日―三十日神戸文化小ホール。

## 新しく生み出す苦闘

— 劇団未来「日本のふるさと」 —

## 仲 武 司

劇団未来が創立15周年を記念して、一昨年  
から今年にかけて、三つの作品を上演した。  
第一弾「どん底」森本景文演出。第二弾に  
和田澄子の創作「ああその時の太陽は」寺下  
保演出。

第三弾が今回の「日本のふるさとNo.2」大  
鼓構成である。(七月七日—八日郵便貯金ホ  
ール)

劇団未来の活躍が、西日本はもちろん、東  
をもふくめたリアリズム演劇会議の仲間達に  
強い関心をもたれる様になって、久しい。

座付作者、和田澄子の創作戯曲を軸に、一  
連のシリアスな作品群に象徴されるように、  
主題、課題を通して、今日の状況に正面切っ  
て対決している姿勢が、いわば「未来」的骨

格を形づくっているとするれば、「大鼓」は、  
その轟きを通して、民族的な情調・感性の再  
発見と発展を願う、未来の血肉の部分といえ  
そうである。

この二つのオリジナルに、15周年記念を期  
して新しく「どん底」が加わった。

「どん底」は、演劇人が憧憬をもっている  
近代古典的名作といえるが、未来が取上げた  
意味あい、私には、作品の路線土の指向と  
いうより、演技者を中心に劇団の創造への関  
心によりウェイトがあったのではと思える。

いづれにしても、劇団未来の15周年を飾る  
にふさわしい企画として三作品が登場した。

さて、この稿は三作品の殿である「日本の  
ふるさとNo.2」の劇(?)評が目的であるが、

よく大鼓を打つ。「ごんべえ大鼓」。

一七年前の地方選挙に、未来が団地やター  
ミナルで、革新統一知事の実現のために打ち  
ならした「豊年大鼓」。

一能登の村民が、上杉謙信の進攻の前に知  
恵をしぼり、異様な衣装と大鼓の轟で軍勢を  
追い散らした「御陣太鼓」。

以上の六作品を、ナレーションでつなく構  
成(演出・寺下保)になっている。  
「鹿踊り」以外は、私にもなじみ深い作品  
である。

「未来の大鼓」といえば一定の高い評価を  
うけ、多くの仲間たちからは元祖・家元(?)  
的存在とされていただけに、今回は新作をも  
ふくめて、より高い水準への期待があったの  
は私だけではない。かつてのベテランに  
加えて、新人の抬頭もまた関心があった。

だが、残念ながら、太鼓のひびき。リズム  
など、その技法にも格差が見立ち、アンサン  
ブルや躍動感が出てこない。

もちろん、早打ち連打になると客席からは  
拍手は起る。しかしそれとて、かつてみた様  
な、思わず魂のゆさぶられる中から生じた感  
動とはいいがたかった。

とにかく書きづらいことおびたゞしい。

大鼓構成というジャンルのせいもある。だ  
が、それは予想されたことで、問題は、あま  
りによろしくない出来ばえから来る、筆の重  
さである。

結論をいってしまったが、以下にふれる諸  
点は、西日本でも屈指の創造水準をもつ未来  
の諸君には、すでに承知のことと思うと、そ  
の苦闘を含めて、さらに心重い。

第一部「日本の太鼓」は、今回、創作され  
た「鹿踊り」以外、未来のレパートリとして  
高い評価をうけていた作品群である。

一幕府の圧制の中で、権力によって閉じこ  
められた八丈島の流人が、肉親を思い、ふる  
さとを偲び、その幸、祭りへの思いなどをこ  
めた「八丈島太鼓」「八丈太鼓ばやし」。

一わらび座などで紹介された鹿踊りに、新  
たな工夫を加え、人間にみだてたかかしを前  
に、鹿たちが汗くさい手拭にたわむれる、群  
舞「鹿踊り」。

一油を買いに出た、ごんべえが、山路で大  
鼓をたゞく般若と天狗に出会う。天狗たちは  
ごんべえに大鼓をたゞけとさそう。始めは恐  
れおののくごんべえだが、やがて楽しげに仲

新作、「鹿踊り」は、群舞だけに動きや形  
がそろわないのが見立つ。振付に問題があっ  
たのではと思える。

未来が培った創造、伝統的な大鼓を、次  
代へ引きつぎ発展させる、という課題のむつ  
かしさ、困難さをひしひしと感じさせ、我々  
に共通した重要な教訓としてはねかえってく  
る思いが残る。

作品をつなぐナレーションが不評である。  
太鼓を打つ肉体的な条件や、衣裳の着がえな  
ど、物理的な時間かせぎから、急遽台本があ  
くられ、徹夜でおぼえたと聞いて、その苦闘  
はわかったが、セリフのとちり(最終三回  
目)は目をつむるとして、作品紹介をむりや  
りに唱いあげようとする発想がむしろ問題で  
ある。

薄手のアジテーションにもなり、太鼓のひ  
びきが感性に働きかけることに、信頼をおい  
ていないのでは、とすら思えて残念である。

第二部「河内十人斬音頭」は、今も大阪府  
下南河地方でうたわれる盆おどり、河内音  
頭の代表的外題の一つ「河内十人斬」の由来  
の舞台化である。

明治二十六年、夜半の雷雨の中で、十人が殺される事件があった。犯人は猟師で賭博者城戸熊太郎(36)、子分の谷弥五郎(26)。

警察、憲兵隊は金剛山城に逃亡した二人を包囲するが、一週間後、熊太郎は弥五郎を射殺。自らも自害し果てる。

新聞は、殺人の動機を、熊太郎が、相愛の女を村の有力者松永の息子にうばわれ、且貸金をふみたおされた恨みからと報道する。

だが、車夫、岩井梅吉は、それだけの理由でかわりもない多数の殺人をおかすはずがないと、真相追求にのり出す。

この岩井梅吉(初代)が後に「十人斬」の音頭の作詞者になる。

——と、ここまででは舞台の上からも理解でき

た。幕開き、雷雨の中で、十人の殺戮のシーンはショッキングであった。赤ん坊を臼に投げこみ、杵で打ちつぶす残忍さに、観客は惻然としながら舞台への関心を高める。この辺りはさすが秀逸である。

舞台の進行とともに、動機をさぐる梅吉の行動は、死者たちの登場によって同時進行し

つつ異化効果的で、面白い。

しかし、今この物語りの筋立てをここに紹介する筆力は私にない。

とにかく、煩雑で、なぜ熊太郎がうらむ人間以外にことさら多量殺人をおかすのか？ 狂気？ それとも……とにかく、さっぱりわからないのである。

実は、当夜西リ演運営委員が集った。話合いはまさに「戯の中」的である。誰れもが、推察しても、それが熊太郎の確かな動機の説明にはならない。

余談だが、台本の第一稿を読んだ未来の某さんが「私、頭が悪くなったのか」とその難解さにへきへきしたという。

私も、そのわからなさをはじめ納得してやや安心した。

とまれ、翌日森本さんから全員筋立てを聞いた。しかしそう思う様に努力はしたが、やはりわからなかった。「頭が悪くなったのか」と思わずつぶやいた。

台本に一切の問題があり、演出(寺下保)の苦闘が目につく。

作者にすれば、あるいはキャストレジーの

せいにするかも知れないが……。

十人も人を殺した熊太郎のことが、今も音頭になり、くどきという叙事詩として語られ「亭主もつなら……」とその行為を、心いきの様に歌われている限り、明治二十六年の農民の共感を、私たちは知りたいと思う。だが果せなかった。

幕切れ、六代目岩井梅吉氏の、やぐらの上での音頭は立派だった。かなりの御老体にもかかわらず、その明晰な口跡と、まわりを踊る群衆への呼びかけのリズムは、まさにギリシャ劇的であり、コーラスとの間のかげあいとうながす呼吸の見事さに、本物の本物の姿を見た。

今回の公演が、劇団未来にとって、かなりつらかった様に思えるのは、私の不明からだろうか。



## 劇評

# 観客の存在

〈中部プロダクツ78年前半の上演から〉

## 丸子 礼 二

### (一)

正直な話、この頃私は芝居を見に行つて暮が降りた時一番感じるのは「疲労」である。

……あ、やっと終つた、くたぶれたなあ……という気持が何よりも先行するのだ。年をとつて情熱と耐久力がなくなつて来たのだから。これから人生に立向うべく、舞台から何かを吸収しよう、興味と意欲にあふれている若い人々でないと、芝居の値打はわからないのかも知れない。幸いなことに、この所、私が見せて貰つた各劇団の公演は、それぞれに熱心に支持してくれる若い層の観客が多勢いることを感じさせてくれた。彼等が私と同じ様に「疲れ」を感じているのでなければよいのだが……。

### (二)

2月から6月までの上演は以下の通りである。

名古屋演劇集団 第2回創作劇場 4/12

14 於名演小劇場 おおた啓子作 若尾正也演出「UFOの来た町」第15期研究生卒業公演 2/4・5 於名演小劇場 J・ルンニール作 原千代海訳 浦はじめ演出「海抜三千二百米」

劇団四日市 第19回公演 4/15・16 於四日市市民ホール 土屋清作 森賢郎演出「河」

劇団はぐるま 第43回公演 4/29・30 於岐阜産業会館 秋元松代作 こばやしひろし演出「かさぶた式部考」第11期研究生卒業公演 3/19・21 於はぐるま小劇場 石上慎作 服部みつまさ演出「ある遅い出発」

劇団すがお 第19回公演 4/30 於桑名市民会館 G・フイゲレイド作 牧原純訳 石垣正司演出「狐とぶどう」

劇団つむぎ座 日時不明 於つむぎ座けい

古場 イヨネスコ作「椅子」

劇団名古屋 創立20周年記念公演 3/5

19/21 於名演小劇場 熊谷昭吾作 久保田明演出「祭りは雨だった」

劇団名芸 第16回公演 5/19/21 於南國書館ホール 栗本英章作 柘植洋演出「娘たちの明日」

岡崎演劇集団 第19回公演 6/11 於岡崎勤労会館 本田英郎作 平岩千尋演出「五月の人々―突圍群島―」

劇団上野市民劇場 上野市文化ホール開設記念公演 6/25 上野市産業会館文化ホール 儀間比呂志原作 道井直次脚色 福北弁演出「へこき三良」

つむぎ座のイヨネスコ劇のけい古場上演を

見に、プロダクツニュースに出ていた公演予定日に出かけて行った。探しあてた会場は真暗、鏡がかけられてあり、はり紙一つしてなかった。しばらく後で「変更になったようだ」と聞かされた。恐らく空振りさせられたのは私だけではないだろう。もっと観客を大切にしてもらいたいものである。

この他ははぐるま、名芸の研究所卒業公演以外は一応見て歩くことが出来た。

制作は、演集、名古屋、名芸の二本。

演集の「UFOの来た町」は田舎町に突然舞下りたUFOに市会議員候補がさらわれ、無事生還して人気が出るが、最後にてっ上げがバレて失脚する話。新人おた啓子の作品である。幕切れには本物のUFOらしきものが出て来る。果して宇宙人がホントに実在するか私にはよくわからない。(どっちかといえど) 見て来てくれた劇団名古屋の諸氏の感想からひろって見ると…… # 楽しく芝居づくりがまとまって、面白かった # 女優陣のリラックスした動きに対し、男優はぎこちなさが、小劇場で残酷に露呈した # 喜劇として正面から取組んだのはよかった # おかりやすい演出に感心 # 選挙批判は古いスタイルでしかない。トゲは思いの外鈍く、毒もたりにない # 等々であった。

「当世風俗漫画」と称して「祭り雨だつた」の作者熊谷昭吾は様々な人物達を私達の前に並べて見せる。農地を売った大金を持って都会へ家出して来る老人。娼婦となつてゐるその娘。学校へ戻る彼女を教えない教師達、老人をたぶらかして金を巻き上げる女、

和紀、なみ、近藤の迫力。豊市の一時的回復を「式部様」の奇蹟とする終幕は、やゝ冗長な感じがあったが、はぐるまのアンサンブルを見せられた思いがする。

底辺の庶民のうめきより、力演の圧力の方を感じたし、汲田は魔性の女としては品がよすぎる。等が疑問点として残る。そして何よりここにかなり大事な芝居があつて窮屈であつたこと、等が疑問点として残る。そして何よりこの作品を「疲勞」でなく「感銘」を与えるように作れるものか、作つてよいか、作れるとすればどうすべきかが疑問として一番私の中に残っている。

「河」に取組むには劇団四日市はまだまだ力量不足だった。熱意を持って皆一生懸命やっていることはよくわかっている。しかし、ほとんどのセリフ、表情、行動が底が浅い。生地のみやれる若い人々の役が、生き生きしているのに対し、峠三吉、春子、大下、見田、鈴木、せき、といった突っこんだ役づくりの必要な部分にその感がつよい。これからの四日市文化をなつて行くために、もっと勉強して欲しいと思う。しかし、原爆を投下した人間、そしてその体制をつぶけている人間達の罪は、舞台の稚拙さをこえて迫つて来

その女をあやつる男、等々。女は老人の子をばらみ、ルンペンとなつた彼とくらし、娘はヒモの手を借りて自殺。かつての職場の仲間が、娼婦達となつて雨のメーデーに行列をするまで、歌と踊りをまぜて進行する。皮肉っぽいこなれたセリフをまわしをうまいと思ひ、作者はこの程度で現代風俗を書いた気になつてゐるのかと不満にも感じた。舞台のベースは「漫画」とは程遠い重い感じ、役者諸君は歌はともかくせりふが表面的でたよりない。全体の進行もごたついた感じである。苦言を一つ、スポットを並べて客席へ向け、オートバイの感じを出したつもりなのだが、無法というもの。狭い客席で逃げもならず、正面から長々と目を射られる身にもなつて欲しい。

名芸の拠点南園書館ホールは、中学生又は中学を卒業したばかりの年齢層の観客で超満員。地元南区のおじさん、おばさんが適当に混つて「地域に根ざす」を地で行つた感がある。卒直に云つて、この所の名芸の創造面では私はかなりきびしい評価をしてしたが、観客数の伸びからは名芸の舞台は支持されているという結論になる。栗木英章は「名古屋のわかもの達を書きます」と云つていたが、登場人物から云えばチエホフの「三人姉妹」を

ていたことは云つておきたい。

桑名のすがおは六年振りに一般公演を「狐とぶどう」で迎えた。私もすがおが大人の芝居をやるのを見るのは初めてである。かなり練習を積んでいる感じで、全体の流れはよどみがなく、最後の自由か死かという所で一応の盛り上りを見せていた。イソップにもう一つ面白味がなく、クレリアに気品のあるゆたかさが欲しかった。クサントスは表現がわざとらしく不自然、アグノストスはまだ舞台なれしていない。メリタ役の綾瀬幸子とセリフはないがエチオピア役の早川順平が雰囲気がよく出していたと思う。四日市の場合と同じくまだ全体に演技は浅いように感じた。

岡崎演集の「五月の人々」尖閣群島の油田資源をめぐる米資本と対決する資本家牧達三の物語、美しい沖繩の海を見下す別荘(装置は見事)に集まる彼の一家、もと闘士でアメリカ石油会社の手先の長男の暗躍、入り組んだ人達を本田英郎が重厚に描く。殆どの演技が単調なため、見ていて大変疲れた。テンポの遅さ、演出のメリハリのなさがそれに輪をかけて。いつも演出をやっている浅井克彦が大資本の常務に扮して、サラッと要所をおさえて演じたのが印象的だった。

思わせる。喫茶店を経営する一家の三人姉妹のそれぞれの生き方、というより愛情の物語で、栗木自身が傍観者の町医者として登場するからである。長女が出世主義の恋人と別れる話、次女が活動家の青年を勇気づける話、末っ子が、好きになつた男の子のけんかに巻きこまれて自殺未遂をする話、いづれもTVドラマとそう変わらない単純な語り方。演技の方も一本調子で深みもうまみもない。小説の方でジュニア小説というのがあるが、これはいわばジュニア演劇であり、その意味でいえば大部分の観客は楽しく興味深く芝居の進行についていっていた様である。

#### (四)

# 女の業の芝居は楽に見ることはできない。まして秋元松代の「かさぶた式部考」ともなれば、はぐるまの力をもつてしても、どこまでやれるか、覚悟して客席に坐つた。炭鉱爆発の一酸化炭素中毒で脳神経を侵された豊市の絶叫、やり切れない妻と母の苦しみ、なみ吾朗、梶功子そして近藤康子の力演に強い印象を受けた。おめぐりの宿での智修尼と豊市の出会い、おめぐりの人々の集団演技もスキがない。そして山中、仏から魔性の女へ変身する汲田正子、そして夢之助の山口

営業用のボンゴツギヤランで往復二百キロ今年念願の上野訪問を果たすことが出来た。

「へこき三良」は沖繩の民話、巨大なへこき三良が、村人をしいたげる武士達をふつとばすお話、三良の山本一三ののんびりしたペースと、ガジマル樹の精で三良の友達キジムナーの水原要のキビキビした動きの取合せが面白い。しかし、村人は生活の苦しさの实感がどうも出ないし、役人のにくらしさもどうも弱い。エフエクトマシンやストロボ迄使う照明と、舞台転換のもたつきのアンプバランスが目立った。とくに残念なのは三良の最後の一発の効果が弱く、沖繩島民のうらみのこもつた暴風とはとてもならない。芝居のポイントもつと工夫が必要である——。それにしても、葉っぱをまとい顔を赤く塗り、白い歯をむき出してキッキと笑うキジムナーの面白く可愛かったこと、本音を云うと、今シーズに見せてもらった各役の中で一番気に入ってしまった。

所詮「創造委員」なんて云つても、お芝居の世界に何か楽しいもの、心うたれるものを求める単純な観客にすぎないと云うことか。

月曜会の「富島松五郎伝」

龜岡恭二

気性が荒く、頑固で一度言い出したら一歩も後へは引かない。それでいて、好きな人には「ス」の字も言えない、一途に想いをさせるだけ。子供のように純情で心のやさしい松五郎。そんな松五郎は十年前の小倉君とそっくりだ。(今はちがうかな)。今回の小倉君の演出、主演の「富島松五郎伝」の舞台は私の描いた通りの素晴らしい小倉無法松の舞台だった。傍を固めた虎吉、重蔵、良子、吉岡とアンサンブルのとれた演技も良く、紗幕を使っている荷車曳きの投影などの舞台装置、照明の素晴らしい加わって舞台を華やかにした。

私は「河」以来ずっと月曜会のファンだが、これ迄とは一味ちがった肩の凝らない素晴らしい舞台だった。

中でも第三幕が良い。意地悪な話だが小倉松五郎と良子夫人(実さいの小倉君の奥さん

でもある)とのからみをどう演じるかが大きな楽しみだった。

もう一つは、この劇の骨ともいえる小倉無法松と太鼓の出でくる場である。良子夫人への想いで、力一杯打ちならす松五郎の姿は淋しく、太鼓のひびきもどこか悲しかった。

良子夫人への想いを抱きながら、コッコツと貯金もし、良子夫人の名儀にまでして、ひたむきに生きた松五郎の生きざまが哀れだ。

今の人間、とくに若い者には個性がない。平均化されていると、よく聞く言葉であるが無法松の生きかたの中に私たちへの問いかけがあるとすれば、それは失われつつある個性の回復ということではないだろうか。また物に感動出来る純粋性、一途な心ではないだろうか。そんなことを考えさせられた舞台だった。

最後に注文を少し、それは無法松の中にもう少し迫力と荒々しさがほしかったこと、もう一つはラストの無法松の倒れ方は、客席に顔を向けない方が実感があって良かったと思えたこと。

太鼓もさらに活かし、荒々しい迫力のある

「無法松」の再演をのぞんでやまない。

編集部より——これは校正の余白の出る日までお預りしていた寄稿原稿です。しかも可成整理しました。一切をすぎましたので、お許しをいたたくゆとりもなく掲載しました。不悪。

テアトルハカタ

東京公演。十月六(金)七(土)日。

砂防会館ホール。

「綴方教室」(原作・豊田正子)

脚色・演出 野尻敏彦

問合せ 板橋区志村三六一八

丸宮運送有限公司

(03)1967-3331

(編集部・註 これは演劇集団鋼鑼からの紹介でけいさいしました。)

戯曲

カルメンになりたい

田畑実

人物

娘 中学生

父親

娘(中学生)が、制服のセーラー服姿で自転車に跨って登場。

効果——山の音。即ち、野鳥の囀りとか木木を渡る風の音とか、遠くの細流の音とか。

娘は自転車から降り、荷台の学生鞆を家の中へ抛り上げると、粗末な手製の畜舎の前へ駆けつけてゆき、中に飼育されている兎に餌を与えながら「対話」を始める。その調子は、人間が人間に話しかける場台のそれと寸分変わらない底のものではない。

やがて彼女は兎との対話を終えて家へ上がる。

私は、学校から帰るとまっさきに、ドン・ホセに餌をやります。ドン・ホセは今年二才の雄の兎で、とても私になついています。二才といえは、人間に直すといくつ位になるでしょう。私の考えではきつと筋骨逞しい頑丈な青年のような気がします。え？何故ドン・ホセというような変な名前をつけたかって？それにはわけがあるんです。私は、あのカルメンがとても好きなのです。世界でいちばん好きです。カルメンの本はもう何べんも読みました。む

ずかしい外国の言葉がいっぱい出てくるのでよくわからないところもありますが、それでもがまんしてまた読みたくなります。学校へも本を持って行って、きらいな数学や英語の授業中などこっそり読んでしまします。

此の間学校で、生徒会の主催で、みんなの目的で学校へ来ているのか、という討論がありました。殆んどの人がすぐには答えられませんでした。家に居ても仕方ないからとか、学校へ来れば友達がいるからというようなことをいう人もありましたし、また、中学は義務教育だからとか、勉強しておいて将来損にはならないだろうとか発言する男生徒も居ました。けれども私には友達も居ないし、また勉強してえらい人間になろうとも思わないので、つまらないから殆んどきいていませんでした。いくら勉強しても、中卒や高卒の者と大学卒業の人とは、職業的にも大きな差があります。うちのお父さんは、公立高校へ入れたら、高校だけはやってやるといつも言われていますが、高校を出てもまたこの田舎の家へ帰って来て何をしたらよいのかと考えると、高校なんか行っても仕方ないような気が

喧嘩をして、煙草の葉を刻む小刀でその相手の女を突き刺してしまいました。そしてまた、たまたま運悪く番兵に当たっていたドン・ホセが、カルメンを逮捕するよう命令されたのです。

ここで娘は立ち上がって、ひとり芝居を始める。

——ねえ兵隊さん。どこへ連れて行くんです？

——気の毒だけんど、監獄行きだ。

——ああ、どうしましょう。あたいはどうなるでしょう？ 兵隊さん。あたいをかわいそうだと思って下さい！ お若くって、親切な兵隊さん！……

——つべこべ言わねいで、早く牢屋に行くだ。命令だかな。今更どうなることねえい。

——あんれ！ まんずハア。兵隊さんはわたすの在所のお方でねすか？

——おらはバスタの生まれでやんす。

——なんつう！ なずかしなア！ わだすも同じバスタの、エッチャーリールの生まれでやんすよ！

もします。

何故と言つて、私達の杉生という里は、深い谷の中に僅か十軒ほどの農家がバラバラと山腹にへばりついているような寂しい土地で、竜騎兵のドン・ホセも居なければ闘牛士のルーカスも居ません。未来はもうゴム判をついたように決っている。山のものを食べて、誰か親類の世話でくそ面白くない人と夫婦になって、働いて働いてそして死ぬだけ。それを思うと、ああ嫌だ、とつくづく思います。しかしその気持はお父さんにはまだ話していません。話せばきつとひどく叱られるからです。

お父さんは私の顔を見ると決つて勉強しているか。

父 勉強しているか。

父 しっかり勉強して府立の北桑田高校へ入れ。

娘 と言います。家から北桑田高校へ通うには、国鉄バスの駅まで何十分も歩いた上で、バスに乗って行かねばなりません。お父さんはそのバスの定期代は出してやると言います。私はめんどくさいので、いつもお父さんの前で勉強しているふりをします。けれどもほんとうは勉強はしていま

それからあとは、カルメンは、他の護衛の兵士たちには全然わからないバスタ語という方言を使って、ドン・ホセひとりに話しかけます。彼女の作戦でした。エッチャーリールなんて、私の持っている世界地図には出ていませんし、どこにあるのか私は知りません。まあ日本でいえば、多分、私の生まれ育ったこの杉生のような辺鄙な田舎でしょう。

私の杉生の里は、灰屋川の谷あいにしてはみつくように十軒ほどの人家が散在している。それだけのところ。私の家は先祖代、ずっと昔からこの杉生に住みついて来たのだそうです。それにしても、私はときどき不思議に思うことがあります。私の御先祖はどうしてこんな山奥の辺鄙なところに住む気になったんだろう。何か悪いことでもして、町なかには居られない理由があったんだろうか？……

お父さんの言うことによれば、うちの御先祖は立派な平家の一党だったんだそうです。私の家だけではなくて、この杉生全体が、平家の落武者の隠れ里だということです。その証拠には、誰それのお家にはちゃんと系図まで残っている。どこそこのお家

せん。関係ないばかり読んでいます。教科書を開いて、その下に本を隠して、上下に読むので、お父さんは学校の勉強をしているものとばかり思っています。でも、私はお父さんをだましているのが時々つらくなる。

問。

娘 カルメンは、黒い大きな瞳をしたジプシーの女で、始めは煙草工場の女工をして居ました。工場のひけどきなどに、女工たちをからかいに、たくさんの若い男の人が工場の外へやってきてふざけあつたりするのですが、カルメンはほんの気紛れから、番兵のドン・ホセのおでこめがけて、口にくわえていたアカシヤの花をボンと指で弾いて投げつけたのです。ドン・ホセはびっくりしましたが、あとでその花をこっそり拾って枯れてしまつて上衣の下に隠してしまいました。思えばこの時から、ドン・ホセの運命が狂い始めたのですが、神ならぬ身のホセには勿論そんなことを知るよしもありませんでした。

そんなことのあつた後でカルメンは、仕事の中に、つまらないことから仲間の女工と

には平家の赤旗があるし、他にも由緒のある品を大事にしまつている家もある、などとよく話します。

けれども私は、ほんとうだろうか、と

もし私の家がほんとうに平家の末裔なんだとしたら、世が世なら私はさしずめ平家の姫君です。この私が平家の姫君！ 髪の毛は、あのお嬢様みたいな長い長いおすべらかしにして、十二単を着て。そして誰かすばらしい公達と結ばれて。

でも、そんなこと、信じられない。だって、日本國中の草深い田舎という田舎は、それこそたいていの所が平家の残党の隠れ里だと言ひ伝えを持っていると聞きますし……私の考えでは、たぶん何かのわけがあつて、こんな山奥にしか住めなかった御先祖の人たちが、つらいつらい暮らした中で、自分たちの心を支えるために、何時とはなく作り出した悲しい伝説のような気がする…… ああ、この私が平家の姫君、か。でも、もしほんとうだったらすばらしいのに。

問。

そんな辺鄙な私達の杉生の里へも、近頃は、デイスカパー杉生だとか秘境めぐりだとか勝手なことを言って、アマゴ釣りの人たちが京都や大阪から通達やってくるのは、コーラやジュースの空き缶を谷じゅうに投げ捨てて帰られるのはほんとうに腹が立つ……

カルメンの話に戻りましょう。カルメンは、ドン・ホセの言葉がバスタ靴であることを見て取って、ドン・ホセを喜ばせるために自分もバスタの方言を使っただけで、エッチャールの生まれだというのも怪しいものです。ドン・ホセが後で考えた通りカルメンは嘘をついていたのです。ドン・ホセに言わせると、カルメンは嘘で固めたような女でした。一生の中にカルメンが一度でもほんとうのことを言ったことがあるかどうかかわからない、とまでドン・ホセは言います。ですから、カルメンがいったいどこで生まれ育ったか、親は誰なのか、そんなことは誰にもわかるものではないのです。そもそもジブシーというものは、ヨーロッパじゅうを流れ歩いているのですから、どここの言葉でも多少はしゃべるわけなのです。こうしてカルメンは、ちゃんと片

目のガルシアという大悪党の亭主がありながら、兵隊のドン・ホセを誘惑したり、密輸や追いつきをやったのけたり、まだその上にルーカスという闘牛士に惚れたりするのです。

カルメンがいちばん好きなのは自由ということです。「明日は明日の風が吹く」というのがカルメンの口癖です。そしてあるときはドン・ホセに首ったけのような甘い言葉を囁くかと思えば、今度はのひらを返したように、わたしは闘牛士のルーカスが好きになったから二度と自分のまわりをうろつかないでくれ、などとホセに言います。とても気紛れで、ちょうど私の杉生の里の天気のようにめまぐるしく気分が変わる女です。

さっきの話のつづき！

それからカルメンは、すごく哀れな細かい声をつくり、必死の面持ちでドン・ホセの耳に囁きました。

——わだすがお前さんを突つついて、お前さんがぶつ転んでさえくれたらば、こんなのもまの新米兵士の二人や三人にとつ捕まるこんじゃねえんでやんす

ましたけれども、わざと槍を横にして道を塞いでしまいました。そのために二人の部下は瞬間走り出すことが出来ず、とうとうカルメンを見失ってしまったのです。

こんな失敗をやってしまったので、ドン・ホセは位を下げられて軍隊の監獄へ入れられてしまいました。それから、後で、逃げたカルメンやカルメンの仲間たちの手引きで監獄を脱走し、泥棒の仲間入りをし、とうとう軍人としての未来を棒にふってしまいました。

私は、カルメンは黒い服を着ていたような気がします。黒いショールに黒い靴下、黒い靴と黒ずくめでなければなりません。それでも私も黒い服が好きです。

娘は制服を脱いで、有り合わせの黒い布を片っ端からひっぱり出して、まき付け始める。頗る奇態な恰好になる。

娘　そして唇も爪も真赤に塗っていたに違いないありません。私の家はお母さんが死んでしまいましたし、兄さんがひとり居ますけれども今は家を出して何処に居るかかわからな

い。それでお姉さんというものがありませんから化粧品が無いの。化粧をすとお父さんが怒る。仕方無いから、よく赤チンを化粧に使おう。(と言いつつ、赤チンを指や唇につける。顔も奇態になる)

カルメンは、自分を逃がしてくれたばかりに軍人としての一生まで駄目にしてしまったかわいそうなドン・ホセの為に、傍にあったお皿を粉微塵に叩き割って即席のカスタネットを作り、器用に鳴らしながら一所懸命に踊ります。大体カルメンは踊るのが好きで、よくひとりでも踊ったそうです。気持のくさくさしたときとか、何か嫌な考えを払いのけようとするときは、すぐにかスタネットを打ち鳴らして(と踊ってみる。まことに自己流で奇態)

踊りに飽きると、黒い布をかなくり捨てて、制服に戻る。

問。

娘　今から五年前。突然私のお母ちゃんが死にました。その日は日曜だったので、お父さんとお母ちゃんと兄ちゃんと私と四人で山へ仕事に行きました。杉生の里は深い山

がよウ……

ドン・ホセの心に魔が差したのでしょうか。ドン・ホセはついっつかりと承知してしまったのです。

——よし。だばお前さん、いっちょやってみれや。

たぶんカルメンが自分の生まれ故郷のバスタ語でしゃべりかけてきたのがよほど嬉しかったのかと思うのです。今の日本であんなに遠いところで故郷の言葉を耳にした時など身内がぞくぞくするといえますから。それから、やっぱり、カルメンがとてもきれいだっただからだとも思います。ああ！きれいな人はとくだ……

カルメンはセビリヤの町の、ある狭い曲がり角へ来た途端、いきなりドン・ホセの胸をげんこつで叩きました。すると、何と大の男のドン・ホセが道のまん中へ仰向けにひっくり返ってしまったのです。カルメンは一躍びでドン・ホセの上を飛び越え、スカートを思い切りまくり上げ、きれいな両脚を見せながら全速力で駆け出したのです！……ほんとうにきれいな脚だったそうです。ドン・ホセはすぐに起き上がりはし

の中ですからこれと言って何も出来ないの、山菜を缶詰や壺詰にして組合から京都や大阪へ出荷している。その山菜を積みに行ったのです。お昼の休みのすぐ後で、お母ちゃんが急にふらふらとまるで泳ぐみたいに倒れ、胸が苦しいと言いました。それでみんな仕事をやめてお母ちゃんを山から連れて下ることにしましたが、担架も何も無くて大変時間がかかり、うちへ着いたらもう夕方でした。お医者は何キヤも離れた美山町まで行かなければ居ませんので、お父さんがお医者呼びに行きましたが、なかなか帰って来ず、お医者 came ときはもうお母ちゃんは衰弱し切って居ました。お医者は心臓が弱り切っているといつて、むずかしい顔をして注射を何本もうちました。けれどもお母ちゃんは昏睡状態で、もう意識は無く、いくら呼んでも答えませんでした。夜の九時十分に、とうとうお母ちゃんは死んでしまいました。私は一晩中泣きまじりました。次の日は粉雪が舞い、美山おろしがびゅうびゅう吹きつける寒い寒い日でした。お母ちゃんの野辺送りを済ませて帰ってきてから、寂しくて、私はまた一日中泣きました。お父さんは黙りこくって何時



まででもお酒を飲んで居ました。

父、酒を飲む。

娘 死んだお母ちゃんの話によると、お父さんは、若いときから、仕事で山仕事の関係で、大そう気が荒くて、毎晩酒を飲み、飲むほどに酔うほどにだんだんと大暴れする。あんまりつらくて、お母ちゃんはいよく裏の山でひとり泣いていたと言います。その頃のお母ちゃんのたったひとつの慰みは、年に二回お盆と正月に鞍馬の実家に泊りにかえることだった……私は、うちはとても貧乏だったんだと思う。

お母ちゃんとお父さんは好き同志でいっしょになったのではありません。親類の人の口ききで、何もわからないままお父さんのところへお嫁に来たのです。雪解けの水が灰屋川にあふれ

効果——川の音。鶯の声。

娘 早春のお日さまがさんさんと降りそそぐ。厳しい時を、杉生名物の鶯の声に聞き惚れながら息を切らして登って来たんです。

父 お前も京都へ出たいのか？  
娘 私はとっさに嘘をつきました。「ううん。行かへん。」  
父 はんまか。  
娘 うん。ビヤノを買ってくれたらいつまでも家に居る。

父 ビヤノ……

お父さんは、呆気にとられたようにポカッと口をあけたまま私の顔を見つめました。私はすぐに「嘘や。ビヤノなんか要らん。」と言おうとしましたが、何故かわかりませんが言葉を出しませんでした。私はその時、何やわけはわからへんけれども、家を飛び出して行った兄ちゃんがかわいそうになっていたの、お父さんに対してすごく意地悪い気持ちになっていたのど思います。お父さんはいまだにビヤノは買ってくれていません。ビヤノは何十万円もするし、とても家では買えません。また買ってもらっても、杉生にはビヤノの先生なんか居ないので私には弾けません。

問——効果音つづく。

娘 けれどもお兄ちゃんが生まれ、私が生まれてからは、お父さんのそんな粗暴もおさまり、お父さんは次第に優しくなってきたそうです。お酒も毎晩ほんの一本か二本飲むだけで、お母ちゃんはいまはまるで虎が猫になったといつも笑っていました。

それが、眠っていた虫が目を覚ましたというのでしょうか。お母ちゃんが亡くなったから、お父さんはだんだんとまたお酒ばかり飲むようになりました。いつでも、怒ったみたいな顔をしてお酒を飲んでい。その間じゅう殆んど何も言いません。私も兄ちゃんもお父さんが鬱陶しくて嫌になりました。

父、酒を飲みつづけている。

娘 ある晩のこと。何だか寝苦しくて、いこうに寝つけないのでうつつらうつつらうと台所の方で何か物の気配がする。私が起き出してのぞいてみると、お父さんと兄ちゃんもものすごい顔をして立って睨みあっているのです。私が台所の襖をあけたのと兄ちゃんが何かを蹴とばしたのと同時に

歌を唱い出す。

娘 カルメンがいちばん好きなのは自由ということです。カルメンは他人から指図されることと縛りつけられることが大の嫌い。誰からも文句を言われなくて、自分の好きなことをしているのが好きなのです。ですからドン・ホセが、もう追い剥ぎや密輸からさっぱりと足を洗って、新世界のアメリカで生活をやり直そうといくら提案しても「あたいはキャベツなんか植えるような人間じゃないのさ。」と鼻で笑ってとり合わくせがむと、いっそお前の替わりにいい男を見つけてやるぞ、とドン・ホセを威すのでした。

再び、歌を唱う。

娘 ……兄ちゃんがグレました。……兄ちゃんはお父さんと喧嘩して家を飛び出してから、一と月経っても半年経っても帰って来ない様子がありません。そのあいだ私とお父さんは鞍馬や京都の親類や知り合いへ、何べんも電話をかけたたり行ったりして絶えず

した。

衝撃的な音。

娘 次の瞬間、兄ちゃんがか大で喚きながら気が狂ったように表へ駆け出してゆく後姿がチラリと見えました。

再び、衝撃音。

娘 もう何分か起き出すのが早かったら、兄ちゃんを引きとめることもできたかもしれないです。お父さんはその後、何も言わないで、ふて腐れたように台所に座りこんで、またひとりお酒を飲み始めました。私は何が何やらわからないままに震えながら立っていると、やがてだいが経ってお父さんは父 何で馬鹿もんが、京都へなど出て行くんじや。

娘 と、ポツリとひとりごとのように言いました。それから前やんか。うちかて行きたいわと私はとっさに言いかけたんですが、お父さんの顔を見て言葉を呑み込んでしまいました。お父さんの顔がまるで硬直したみたいな、怒りとも悲しみともつかないも

聞き合わせたのですが、何処へも立ち寄った気配が無いのです。そのうちに、京都ではなく、遠い四国の松山で、事件を起こして勾留されていることが、写真入りで新聞に載りました。びっくりして、お父さんと二人で汽車に乗って飛んで行ってみると、何と兄ちゃんは或る暴力団へ入ってしまったのです。松山の警察の薄暗い部屋で兄ちゃんと面会しました。私は情け無くなつて「何で暴力団へ入ったんや。兄ちゃんの馬鹿！」と怒鳴りました。けれども兄ちゃんは知らん顔をして横を向いて口笛を吹いていました。

音楽。歌劇『カルメン』中の「密輸入者の音楽」。

娘 後でわかったことですが、兄ちゃんはある女の人を好きになって、その女の人のことで仲間の人と張り合って、とうとう話がつかなくてその仲間の人を刺してしまっただらしかったのです。

お父さんは、そんな兄ちゃんをすごく憎みました。今でも許して居ません。ですから兄ちゃんが今何処でどうしているのか、

ナー。歌手にもなつてみたい。

でも多分、私はいま言ったどれひとつにもなれないでしょう。それももうわかってるのです。家は貧乏だし、それに何よりも私が臆病だからなのです。

お父さんは嫌いですが、たったひとつ、えらいと思うことがあります。それは、仕事に対してとてもがんばり屋さんだということ。お父さんはチェンソーという機械鋸の使い過ぎで白癩病という、手の指が蠟燭のように真っ白になる病気にかかってしまいました。指が不自由で動かなくなるとても恐ろしい病気です。冬の寒いときにはたまらないくらい痛むそうです。私も知っていますがお父さんの仕事はとももしんどうい仕事です。お兄ちゃんに対してお父さんの仕打ちは、私は絶対絶対好きではないのですけれども……お父さんと二人だけになってしまった今……お父さんを見捨てて家を飛び出すことは私にはとても出来ません。私が居なくなったら、誰もお父さんの為に御飯を炊いたりおかずを作ったりする人は居ない。それを思うと私は……(絶句する。)

それに正直に言つて、私は都会が恐ろし

くもあります。此の前、沖繩から出て来て

東京で美容師の見習いをしていて女の人が、お金を使い果たし、何も食べる物が無くなって餓死しました。しかもその人は知り合いが居ないので、死んでから何日ものあいだというも誰も見付けてくれなかったと言います。それにひと頃「金の卵」だとか何とかチャホヤしてもらえた中卒の者たちもここ数年は不況でちっともパツとしません。自分の行きたい企業へはなかなか入れないのです。ことし或る大阪の大企業では中卒男子の募集二十五人に対して何と六十一人が応募したそうです。公立高校へ入るよりずつとむずかしい計算です。そういう色々な理由で、都会へ働きに出るのも大変だなあと思うようになってしまいました。

ですから、普段はえらそうに言つても、私はやっぱりこの杉生の里で働いて死んでゆく……そんな平凡な一生を送りそうな予感がしています。そこで仕方ないから私はまたもう一度『カルメン』を読んで、頭の中だけで自由な暮らしを空想するので。それから、私のかわいい兎のドン・ホセと、ドン・ホセとだけ、心の通い合うお

話をします。

娘は再び庭へ出、畜舎の兎を相手に対話し始める。

幕あきの流れに流れていた山の音が蘇える。

やああって、大そう疲れた足どりで父が帰ってくる。

父 (娘を認めて) 何じゃ。また兎と遊んで。勉強はどうしたんじゃ? 済んだんかあ?

娘 あ、おかえり。勉強もうしたよ。宿題もした。

父 ほんまにしたか?

娘 (それには答えず、立ち上がりながら) お父さん。御飯、いまするし。

娘が家の方へ向かって数歩歩み寄ったとき、娘と父と、同時に動作を停止する。

山の音も消える。

▲幕▼

## 幽 霊 哀 話

芳 地 隆 介

登場人物

桜 英 子

彼女の恋人 大助

彼女の分身あるいは胴体

彼女の友人(女)

彼女の上司(女)

アパートの大家(女)

職員

一、桜英子にとって異変がおきた。

目覚し時計の音が鳴っていた。朝のラジ

赤電話だ。

英子 もしもし……。

職員 もしもし……。

英子 あの、桜英子ですけど……。

職員 桜さん? 呼ぶんですか?

英子 いえ、実は、今朝方一寸下痢をして、

それで……。

職員 どの桜さん?

英子 あの、桜英子ですけど……。

職員 だから、呼ぶんですか、て訊いてんで

しよう?

英子 いえ、わたし……。

職員 あなた誰なの?

英子 だから、桜英子です。  
職員 あなた、からかっているの？ 訴えるわよ。

英子 え？……。

職員 桜さんはちゃんと来て働いてるわよ、何の御用？

英子 あの？……。

職員 呼ぶんですか、呼ばないんですか。

英子 あの……仕事している、て……。

職員 何度云ったら分るの？ いい加減にして頂戴。

英子 働いてるんですわ？

職員 じゃいいの、呼ばなくて？

英子 でも……あの……、どうもすみません。

職員 寝ぼけてるわ……、ハハ……。

電話が切れた。彼女も受話器をおいた。

アパートの部屋に戻った。

ふとんがふたつ敷いてあった。

英子 誰と間違えたのかしら……。あの声、誰だろう……。桜という名前はわたし一人だし、他の会社の電話番号を間違えてまわしたはずもないし、仮りにそうだとしても同姓同名の人が、その会社……に、そんな

はずないわ、いつもよりうんと正確にまわ

したんだから……。夢かしら……。夢だと

もう一度寝なくちゃ醒めないし、そんな本

当の夢ということも……。いやだ、変だ、

変になりそう……。そうだ、誰かいたづら

をして、わたしを試そうとしているのかし

ら、わたしを無断欠勤にして休ませ、翌日

から出勤しにくくさせる、とすれば一体誰

だろう、誰にうらまれてるのかしら。お茶

くみだつて順番を乱したことはないし、課

長にだつて必要以上のおべっかを使ったこ

とはない、人並み、普通。その人並みな処

をねたまれる……。まさか、考え過ぎだわ。

だけど、もしわたしの席に誰か坐つてキ

をたたいていたら、同じ機械の前で、同じ

制服同じ動作、うしろから見ても誰だか区

別がつかない、誰かがそつともぐりこむ……

……。まさか、そんな、どうかしている……

……。でも確かにわたしは出勤していると

相手は云つたんだから……。そのわたしが

此処にこうして……。ふとんに気がついて

……。あら？……。ふとんが……。ふたつ。ど

うしたのかしら……。誰かしら……。こわ

い……。大助……。だけど、わたしが全

く気がつかないで、黙つて、泊つて出て行

ったなんて……。信じられない……。そんな

……。大家さんにもう一度電話をかけても

らおうかしら……。そうだわ……。だけ

ど、もしさつきみたいな返事がかえつてき

たら、かえつてわたしの方が疑われる……

……。偽名を使ってアパートを借りてるんじ

ゃないかって。どうすればいいのかしら……

……。でも電話はちゃんとかけに行つたんだ

し……。相手はわたしが出勤してるとい

のだし……。そのわたしは……。ああ分ら

ない、分らない。兎に角、今日一日は様子

を見なければならぬわ……。とにかく……

……。何だかこわい、ちゃんとしなくち……

……。や負けないようにしなくち……。

彼女は反問し煩悶した。そつとするよ

うな気配も感じていた。

が、時が解決するだろうという手感もし

ていた。じたばたしてもはじまらない。

大助が訪ねて来た。

大助 どうしたんだい、やっぱり休みだった

の？

英子 ……。

大助 どこが悪いの？

英子 いくら親しいからって、黙つて人の部

屋に入つてこないでね。

大助 え？

英子 どころ悪くないわよ……。

大助 びっくりするじゃないか。

英子 驚いてるのはこっちよ。

大助 何だい……。御機嫌ななめなんだね。

英子 ……。

大助 いやあ、急に休みがとれたからさ、夕

方でも会いたいと思つて職場に電話したら

……。

英子 したの？

大助 君は居たけど、話しかけても全然返事

をしないのさ。誰かと間違えたんだらうけ

ど……。おかしいなと思つて、だけどまあ

君は此処にこうして居るんだから……。

英子 あなた、夕べは何処にいたの……？

大助 夕べ……？

英子 しらばっくれなくてね。

大助 夕べは、友達と麻雀つき合つて、その

あと少し飲んで……。そう十一時頃帰つた

のかな。それがどうしたんだい？

英子 何処へ帰つたの？

大助 ハハ……。やいてんのか、馬鹿だな、

ぼくはもうあの女とはつき合つてないよ、

きれいさっぱり別れたよ、あんな女なんか

今ももう君のことしか頭にないよ、だから

君の云う通りにしてるじゃないか。そうだ

らう……。ぼくだって、あれだよ、たまに

は、その、あれしたいっていうか、妙な気

持になるけど、我慢して、夜はなるだけ来

ないようにして……。

英子 本当？

大助 本当、？……。じゃ、もう来てもいい

の？

英子 昨日の夜だけはね……。

大助 昨日、だなんて、そんな過ぎた日のこ

とを云うなんて……。ひどいよ。

英子 わたしの替玉がいるのよ。

大助 ……。

英子 わたしにそっくりな、双子の姉妹みた

いな。

大助 双子？……。

英子 その人がわたしの替りに仕事をしてい

るのよ。

大助 何だい……？

英子 朝寝坊したから電話したのさつき、そ

したら桜英子は出勤して仕事をしてるって

云うの。

大助 ……。

英子 ねえ、どういふこと？

大助 だから誰かと間違えたんだらう。

英子 でも、あなたも電話したんでしよう？

大助 女なんて気まぐれな処があるからさ、

いじわるすることもあるじゃないか。

英子 だとしたらその人をつき止めなくち

ゃ。

大助 まあ、いいじゃないか、そんなのはど

つちだつて。

英子 もし、その人がそのまま居る気だつ

たら、わたしだつて考えなくちゃならない

わ。

大助 ぼくお腹が空いてるんだけどな。

英子 勝手におやりになれば、わたしには生

死にかかわることなんだから……。

大助 大げさだな、今日は折角、二人揃つた

休みになつたんだからさ、何処かに出かけ

ようよ。

英子 電話して来るわ、もう一度、呼びだし

て見る。

大助 執念深いな、女つて……。

彼女はアパートを出た。もう一度ダイヤ

ルをまわした。

英子 もしもし、桜英子さんお願いします。  
職員 もしもし、一寸待って下さい。

電話にてたのは桜英子の胴体である。

英子 もしもし、桜さん？  
胴体 もしもし、桜さん？

英子 そうよ、あなたは誰？

胴体 そうよ、あなたは誰？

英子 桜英子で名をかたってどうするの？

胴体 桜英子で名をかたってどうするの？

英子 同じこと云わないで。

胴体 同じこと云わないで。

英子 電話で云えないんだったら、会いましょう。  
胴体 電話で云えないんだったら、会いましょう。

英子 あなたの目的は何なの？  
胴体 あなたの目的は何なの？

英子 口真似はよしなさいよ。

胴体 口真似はよしなさいよ。

英子 兎に角、訳を訊かせてよ。

胴体 兎に角、訳を訊かせてよ。

英子 わたしの所に来る？

胴体 わたしの所に来る？

英子 いいわね。

胴体 いいわね。

英子 約束するわね。

胴体 約束するわね。

彼女は電話を切った。  
部屋に戻った。

大助 どうだった？

英子 ……。

大助 おこられたんだろう。

英子は大助に抱きついた。

大助 え？

英子 ……分らないわ。

大助 ぼくは、ぼくは、いつだって、君のことを寝ても醒めても、もう決して離しはしない……。

大家（女）が小包を持って来た。

大家 あら？……、あの、悪かったかしら……、小包よ。あら、お帰るなさい……、じ

やないわね、いらっしやい……、フフ……  
ごめんなさいね……、暑いわね、何だか……  
……、あゝ恥しい……。

大助 ……。

英子 すみません。

大家 いいえ……、本当に、もう、どうしようかしら……、なんて年甲斐もなくね。いいわね、桜さんも、こんな男つぶりのいい男性を見つけて、羨しいわ。

大助 そんな……。

英子 あら……。

大家 でも誤解しないで下さいよ、わたしはもう年ですから、こんな若い方とナニしようなんて思っていないですよ、決して……ホ

ホ。

英子 は？……。

大助 ……。

大家 ですから、はれ、若いツバメを踊るとか、あれ、いやらしいじゃないの、胸も腰も落ちくぼんだ女が、若い男の子の腕にぶらさがってるのなんて。

大助 え……。

英子 あの、御用は……何でしょうか？

大家 御用、て、あなた……、だから、これを……。何だかお邪魔のようね。

英子 いえ、そんな意味じゃ……。

大家 直ぐおいとましますよ、でも云つとき

ますけどね、お仲のいいのは結構なことだけど、いえ、決して干渉するつもりじゃありませんけど、アパートというのは色んな人が住んでるから、ほどほどにしていた

かないとね。

英子 え？

大助 ……。

大家 お若いから仕方がないけど、夜遅くは

周りのことも考えて、適当にお願いします

ね。

英子 そんなに遅くは、騒いでいませ

ね。

大家 あら、でも夕べだって、あれ何時かし

ら、お手洗いに起きたら、まだ桜さんの部

屋煙々としていて、まあ、エネルギーのあ

りあまつての方々同志でしょうから、当り

前でしょうけど、独身の方もいますから

ね。

大助 ぼくは夜は来てませんよ。

英子 夕べはわたし早くやりましたけど。

大家 いえ、分つてますよ、そりや。それじ

や、わたしの見間違いかもしれないわね。

いいえ、そうじゃないわ、窓に二人の影が

ちゃんと写っていたもの。

英子 そんな？……。

大助 ……。

大家 いいえ、それはいいんですけどね、唯

わたしの云ってる気持ちえ分つて下されば

ね。

大助 その影……、男……じゃないですね？

大家 え？あゝ……、御心配なく、あれは確

かに女の……。待って下さいよ。わたし

睡眠マナコだったから、もしかしたら……

あなたじゃなかったの？

大助 ……。

英子 嘘よ、そんな。

大家 嘘、て、わたしが出たら目云つてると

云うの？

英子 だって……。

大家 そりや、問いつめられれば、見たわけ

じゃないんだから、男か女か分りませ

んよ。だけどわたしがこれまでにいつ嘘を云

いましたか？

英子 ……すみません。

大助 つい、ぼくが変なこと訊いたもので

から……。

大家 そりや、分つて下さればいいのよ、わ

たしこれでも若い人には理解のある方だと

思つてるのよ。

大助 すみません。

大家 あなた、素直な方ね、あなたの顔見て

るとソーダー水飲んだみたいにさわやか。

あゝ折角の処ごめんなさいね、じゃごゆっ

くりね。

英子 どうも。

大家 あゝ、そうそう。これはまだ先のこと

になりますけど、近いうちに此処、建て替

えようと思つてるのよ、大部方々がたび

ししてきたものですからね。急ぐことはな

いんですけど、建て直す間は、やっぱり出

て行つてもらわないとなりませんから、気

にとめておいて下さいね。それじゃ、ごめ

んなさい。

そくさくと大家は引き上げた。

英子 追い出したいのかしら、いやらしい。

大助 誰だい、夕べ泊つていったのは？

英子 あの、隣の窓かどこかと間違えてい

るのよ。

大助 大家が部屋を間違えるってことないだ

ろ。

英子 だって、夕べは頭が痛かったから、早

く寝たのよ。

大助 まさか、君は……。

英子 疑ってるの？

大助 だって、何ひとつ説明がつかないじゃないか。

英子 そうよ、夕べから今日までにかけて、

他人が云うことが全部事実なら、わたしにだって何ひとつ理解できないわ。

大助 じゃ誰に解けるんだい、君自身で証明しなければ、第三者には信じられないじゃないか。

英子 あなたは第三者なの？

大助 いや、そういう訳じゃないけど……。

英子 さっき電話したらわたしの相手は居たのよ、ちゃんと。

大助 ……。

英子 その相手は山彦みたいに、わたしの云

うことをオウム返し、わたしとそっくり同じ声で。わたしは夕べ確かに一人で早く寝た、だけど今朝起きたら、ふとんがふたつ……。

大助 分ったよ……。分ったよ。

英子 何が？

大助 なあ、何処かに出よう、ドライブにも行くか。

英子 何が分ったの？

大助 人間にはさ、何かこう日常のリズムをこわしてみたいということ、あるだろう。

英子 もしかしたら大家さん、本当にわたしの部屋の窓にふたつの人影を見たのかもしれない……。

大助 おい……。

英子 誰かわたしを落とし入れようとしているのかしら、何の目的で、誰の差し金で……この部屋の鍵を誰から……、まさか、あなた……。

大助 馬鹿なこと云うな。

英子 ……ねえ、一体何がおこったの？

大助 何かがおこった方がいいのさ、でも何

もありやしない。こんな小さなアパートでおこること云ったら、ゴキブリがでて、大騒ぎする位のことじゃないか。

英子 ひよっとしたら、本当にわたしの分身

が生まれたのかもしれない……。

大助 いい加減にしろよ、こんないい天気だ

っていうのに、まったく。

英子 ねえ、ずうっと一語に居て、お願い。

大助 帰るよ、ぼくは、君の世迷い事につき

合っていられる程ひまじゃないからね。

足音が次第に近くなって、彼女の部屋の前で止った。聞き耳をたててるようだった。

英子 誰かしら？

大助 しっ……。

暫くして、その足音は引き返し遠ざかって行った。

大助 あっ……、あれは君の歩く足音と同じ

英子 ……。

英子 ……。

## 二、異変が日常になった。

英英子は、彼女自身の胴体との同居がはじまった。がそれは異変が続いているという風にも云えるだろう。彼女の胴体は彼女自身の意識を越えて、仕事に対する自我に目ざめていた。つまり彼女の胴体は、勤務時間帯と、仕事への対応において、彼女自身を越えていた。彼女の意識は、常に、あるいはときに、

逡巡した。彼女の胴体は常に正確に反応し反射した。従って、それは胴体との共同生活と、いうにふさわしい状態を意味した。その日は休日であった。彼女は寝そべて週刊誌をめくったり、レコードを聴いたりしていた。むろん胴体もそれに従いながら、しかしコーヒールを入れたり、洗濯をしたりしていた。

英子 最初の日は本当に驚いたわ、ひとこと云ってくればいいのに、何にも云わずに出動してしまっただもの。あなたをうらんだり、疑ったり、それよりも気が転倒してしまっただのよ。そりゃそうでしょう、わたしの職場も知れば、仕事もやれるそりゃキイパンチャーなんて誰でもできる仕事だけれど、もう一人のわたしが別に居るなんて、誰だって信じられないじゃないの。この世の中に別のわたし自身が生きるなんて、想像もつかないじゃないの。

胴体 ……。

英子 でも、こうして慣れてくるとありがたいわ。わたしは此処でのうのうとしていても、ちゃんとあなたは出動してくれる、明

たし違って、いつの間にか、誰かこの仕事替ってくれないかな、て、ふと気がつくとそのん風に考えてる時があるのよ。両手の指の節々、肩から背中にかけての重い痛みが毎日毎日、少しづつ体の中に沈んでゆくみたいで……。

大助 関係ないじゃないか、それとこれとは。

英子 キイをたたきながら、他のことばかり

考えて色んなこと空想して、自分が自分で

ないみたいになって……。

大助 誰だって同じだよ、仕事は。いいじゃないか、幽霊でも分身でも、二人で仲良くやれば。ぼくはごめんだね、そんなものの面倒みるのは。

英子 そうね、わたしどうかしてるのかもしれない……。

大助 どうする？

英子 ねえ、何処かに連れてって？

大助 ……。

英子 どうしたの？

大助 誰か来るよ……。

日の仕事の配慮をしなくても、あなたはちゃんと反射してくれる。機械的合理化が幾ら進んでも、わたしは平気でいられる。感謝してるわ、あなたには。出動してさえいれば、ちゃんと給料は貰えるんだし、わたしにとっては降って湧いたような境遇よ。

胴体 ……。

英子 そりゃ、わたしだって、わたしとあなた、こんな風な関係で生きてゆかれるようになった原因というか、つまり科学的な分解分析をしなければ、そうね、どこか大学の先生にでも、と思う時はあるけど、とりあえず仲良くやってゆけば何とかなる、今はそんな風に考えてるの。これからは、あなたのためになることがわたしのためにもなる、わたしのためになることが、あなたのためにもなる、そのためにはどうすればいいか、これから考えてゆけばいい、そう思ってるのよ。

胴体 ……。

英子 だけど、そのためには上手にやって、まず人に感ずかれないようにしないとね、もちろんわたしは信用してるけど。もしも……のことがあって、同一人間でないことが分ったら、戸籍のことだって、選挙権のこと

だって国籍だって問題になってくるかもしれないしね。それに映画観る時だって、電車に乗る時だって……、一人分のお給料で二人分の生活をやってゆかなければならぬんだから……、でもそれは心配しないで、少し位の貯金ならあるし、いざとなったらアルバイトでも何でもやっちゃうから、当分は大丈夫よ。

朋体 ……

英子 本当よ、あなたには感謝してる、いやこの場合、わたし自身にといいことになるのかな、それはどっちでもいいけど、わたしがこうして一日羽をのばしていられるのは、あなたのお陰だものね。あなたは働くことが専門、わたしは将来のこと、未来の夢を思いめぐらして実行にうつす、そうねまず何でもいから技術を身につける、女が一人でも自活できるような社会をつくるそのために勉強もしなければならぬ、そんな計画を練るのを、わたしは専門にするなんて理想的じゃない。そのうち皆んなを出し抜いてあげるわ、田舎の人達をアッと云わしてあげる。何だか、わくわくしてくるじゃない。未来はバラ色、夢物語じゃない、手がとどきそうになってきたじゃない

い。さし当って何からはじめればいいのかしら……。

朋体 ……

英子 タレント、になるにはもっと顔が良くなくちゃならないし、プロポーションだって、それに第一、人目につき過ぎる、参議院の立候補、これも駄目、人目にさらしっぱなしだし、建築技師、弁護士、税理士、計理士……、男独占の仕事がうらばい返す、誰かがやらなくちゃ……、でも今ははじめるには、一寸遅過ぎるって気もするけど……。

上司(女)が訪ねて来た。桜英子は一瞬ひるんだが、かくれることにした。朋体が応待する方が自然だ。しゃべることをのみを、英子は引き受けた(朋体はマイムである)。

上司 折角のお休みの処、突然お邪魔して、悪かったかしら。

朋体 ……(いえ、とんでもありません)

上司 一寸其処まで用事があったものだから寄せてもらったんですけど、それというのも、あなたのことが心配だったものですか

らね。

朋体 ……(は?)

上司 いえ、最近、どうも元気がなさそうに見えるし、何か悩みごとでもあるのかと思ってるね。

朋体 ……(それは、どうも……)

上司 差し出がましかったら、ごめんさいね。職場で話すのも、皆んなの手前、何か気がひけるものだから。

朋体 ……(はい……)

上司 随分きれいに片づけてあるはね、立派だわ。部屋には住んでる人の性格がでるものなのよ。

朋体 ……(いいえ……)

上司 以前はとでも快活だったじゃないの、あなた。ところがこの処急に黙りっこくなくなるし、精衛生上あんまり芳しいことじゃないわ。

朋体 ……(別に、理由はないんです)

上司 ならいいけど、他人には云えないことも、そりや色々あるでしょうけど、わたしは、何と云うのかしら、自分の娘みたいな気がして、あなたのことがとても気になるものだから。

朋体 ……(………)

上司 あら、何だか押しつけがましいわね。

でもね、思い切つてぶちまけた方がいいのよ。意外と何でもないことが、当人にしてみればそうでもなく、よくあるのよ、そういうこと。わたしなんか、これまでに色んな方とお交際合ってきたけど、いえ女の人は大抵、そうね、わたしをあなたの上司だなんて考えないで、そう、クラスメイト、ショップピングメイト、スカイメイト、そうね、ルームメイト、トラベルメイト、レスピアンメイト、あらいやだ、ね。そう思えばいっぺんに楽になるわよ。

朋体 ……(はい……)

上司 うちの部長さん、人と話をするとき、パチパチパチパチ、やたらに目をしばたくの、でしょう。最初の頃、わたしと話すときだけか、て気にしてね。わたしのどきが気に入らないのかと思って、二、三日眠れなかったんだけど、あとで、あれ解らんと分ると、何でもないので。うちの課長だってあれよ、部長に怒られてきたあとは必ずしやっくりがでるのよ、それが水い間とまらないの。最初のうちびっくりしたけど、或る時或ることで耳打ちしたのよ、そしたらびたつと止まったのよ、それにはまたわた

し驚いたけど、でもそれから、しやっくりの度にわたしが課長さんの耳に息を吹きかけてあげるのよ。肩をくねくねさせながら嬉しそうにしてるけど……ホホ……。あ……、つまりあれなのよ、ちよっとした切っ掛けが必要なのね、人間には。

朋体 ……(でも本当に何でもありません)

上司 そう、それならいいんですけど、実を云うと、今日こうしていきなりお邪魔したのは、もうひとつ訳があるの。つまり今度の異動で、あなたを他の係か、他の課にまわしてあげようかと思ってるね。もちろんこれは人事権に関するのですから、あなたの希望を全面的に入れる必要はないんですけど、そこが何と云うのかしら、わたしの気持、分るでしょう?

朋体 ……(はい……)

上司 そりや女の子は、いざれお嫁に行つて家庭をつくるというのが、まあ幸せというのかもしれないけど、それはそれとして、それまでは仕事においても自分を生かすということを考えなくちゃね。他人様はどう云われるかもしれないけれど、わたしがここまでできたのも、それなりに、色々努力してきたからですからね。残念ながら、亭

主は持てなかつたし、だから子供も居ないけど、だれど後悔はしてないわ。まあ今のうちですからね、何事も吸収して自分のものにする、それは自分のためばかりじゃない、ひいては社会のためにもなる。

朋体 ……(だから、いつまでもお若いんですね)

上司 え? あら、いやだ、そんな……ホホ。

朋体 ……(とても美しいし……)

上司 どうもありがとう。で、どうなの?

朋体 ……(それは、もうとても嬉しいですけど……)

上司 それで?

朋体 がしゃべりだそうとした。

朋体 いいえ、今のままで(という訳にはいきませんから……)

上司 ええ。

朋体 やっぱり、わたしは——(例えば、秘書課とか、涉外課か、もっと色々んな人と接触する機会のある所、何と云うか毎日毎日が新鮮に過せる仕事をやってみたいと思えます)

上司 なるほどね。

胴体 いいえ、そんなことは——（望んでも無理かもしれませんが、キイをたたくだけの、誰にでもできる仕事というのじゃなくて……）

上司 分るわ、分る分る。

胴体 だけど——（今の仕事が大変じゃないということでは、決してないんですけど）

上司 そりゃそうね。

胴体 でもやっぱり、わたしは今のままで

——（というのは、燃える青春を陽陰で過してゐるような気がするんです）

上司 分ったわ、とてもよく、で、相談なんですけど、どうでしょうね……

上司は胴体に耳打ちした。

胴体 ——（は？）

上司 ねえ。

胴体 ——（？）

上司 ギブ、アンド、テイク。ビジネス、センス。分るわね。

胴体 はい。——（？……）

上司 そう、やっぱりわたしの目にくるいはなかったわ。ちゃんと見てるのね。

胴体 それほどでも——（？……）

上司 というより、あなたも隅におけない人なのかしら。

胴体 そんな……（？……）

上司 あら、ごめんさい。大丈夫よ、あなたって、とてもチャーミングよ。

胴体 はい……（？……）

上司 今度御一諾にお食事したいわね、サイドホテルかムーンライトホテルのレストランで。とっても豪華な上に、ボーイさんが可愛くてね、ヒラヒラのシースルーにロングパンタロン、ハイヒールシューズにカラーアイ。

……、あら……、今度連れてってあげるわ。

胴体 約束してくれますか？——（本当ですか？）

上司 え？随分お邪魔しちゃったわね。

胴体 いいえ——（……）

上司 じゃ、これで。そうそう、このこと誰にも云っちゃ駄目よ。

胴体 はい——（はい）

上司 ——（どうも、わざわざすみません）

胴体 それじゃ、ごめんさい。

上司は辺りを見はからいながら、帰って行った。

わろん、桜英子には疑惑が湧いた。彼女自身に対する疑惑と云つていいのだが、しかし彼女の胴体は一体何を考えはじめたのか。

英子 あなた、今何を約束したの？

胴体 ……

英子 わたしに分らないことが、どうしてあるの、そうでしょう、わたしはあなたで、あなたはわたしでしょう。それに、わたしはもう今の仕事にうんざりしてるのよ、毎日々々数字を見てキイをたたくだけ、考えてごらんさいよ。あなたそれだけ上司に頼りたいなんて思つてないけど、でも折角の話じゃないの、願つてもないことでしょう、それを何故断ろうとしたの。

胴体 ……

英子 わたしが云つてること分るでしょう。

わたしがあなたで、あなたがわたしなんだから。何とか云つたらどうなの。

胴体 だから、断ろうとしたんです。

英子 ……

胴体 だってあなたがわたしの意識で、わた

しがあなたの胴体だからですよ。

英子 だからどうしたって云うの？

胴体 だって、わたしには頭腦的な仕事はできないじゃないですか。

英子 ……

胴体 きめられた時間に行つて、きめられた仕事だったら、わたしとあなたは一心同体じゃないと駄目じゃないですか。

英子 ……

胴体 今更、そんなことできないし。

英子 うん……

胴体 それに、あなたは、わたしのことをそんなに嬉しそうに感謝されていたじゃないですか。

英子 そりゃそうだけど、何とかならないの

かな。

胴体 でも、わたしとあなたが別れるチャンス、いやわたしとあなたが一緒にいるチャンスはあるかもしれない。

英子 どうして？

胴体 さっきの約束は、今度のストライキには参加しないってことです。

英子 え？

胴体 だって、わたしは毎日きまった時間に出勤してきまった仕事をするのが義務、と

どうか習性だから、そのリズムがこわれたら、わたしは生きていられませんから。

英子 生きています？

胴体 ストライキのピケットをわたしは突破します。そして今の仕事から解放されたいにまわってきます。毎日が生き生きするでしょう？

英子 あなたはどうするの？

胴体 そりゃ、今と逆になるんでしょうね。わたしは此処で羽をのばしてのうのうとしている、あなたは一生懸命で働く、わたしはわたしの夢をふくらます、わたしの未来はバラ色、そうでしょう。

英子 何だって……

胴体 そして、あなたがその仕事で疲れた頃今度はまだ元の仕事でわたしが働く……、交替交替、とても民主的だと思つてます。

英子 お止めなさいよ、生意氣よ。わたしは皆んなから爪はじきにあうのよ。

胴体 だってストライキというのは会社にも他の多勢の人達にも迷惑がかかることですよ。

英子 わたしは皆さんを裏切る訳にはいかないのよ、絶対にできないのよ。

胴体 だって、約束したんですよ。

英子 何故わたしに相談しないの？

胴体 あら、あなたであるわたしが、わたしに相談して御返事します、なんておかし

じゃありませんか。

英子 当り前でしょう、そんなことは。

胴体 どうすればいいんですか。

英子 出しゃばらないで、云つてるのよ。

胴体 わたしは、あなたのため思い、何時だって、今迄だって、ずうっと……

英子 ……

胴体 すみません。何とかしてもとのサヤにおさまるよう、努力しますから、どうぞ許して下さい。

英子 少し黙つてなさいよ。あなたはあなたらしく。

胴体 ……（涙を浮かべる）

英子 あら、あなた涙がでるの……、心配しなくてもいいわよ。どうせ、あの人、わたしのこと、それ程信用してはいないんだから。

胴体 ……

英子 もともとそんなこと約束するような筋

合いのものじゃないんだから、約束破つても、どうってことないわよ。少々風当りが強くなるか、冷たくあしらわれる位のことだから、それは仕方がないわ。

胴体 それは困ります。

英子 何ですって？

胴体 だって、わたしが毎日動めにでるんですもの。

英子 どっちだっていいでしょう！

胴体 無責任です。

英子 余計な口出ししないで。

胴体 ……

英子 わたしの云うことを絶体を守るの、いわね。

胴体 ……

胴体の自我が、自然の法則にしたがって次第にはつきりしだしてきているのを、

桜英子は自覚した。

友人が訪ねて来た。

彼女は胴体をかくした。むろん彼女自身で応待するのが自然だと考えた。

友人は、何やら奇異なものを感じてる風であった。

友人 出掛けたかと思っただけ。

英子 うん、たまには部屋でいたいから…。

友人 誰か居たの？

英子 ……ううん。

友人 男の匂いじゃないわね。

英子 何よ、いきなり。

友人 お化粧品、替えたの？

英子 え？

友人 一人は全く別の、もう一人はあなたの匂いに近い人、合計三人かな…。

英子 冗談じゃないわよ、朝からわたし一人よ…。

友人 かくしたって駄目よ、眼は悪いけど、

鼻は人一倍敏感なの。その辺でもう一人居るんじゃない、あなたの妹さんかな。

英子 止しなさいよ、他人の部屋のアラ探しは。

友人 来た、あの人が？

英子 え？

友人 部長のバチバチと課長のしやっくり、話して行った？

英子 ……

友人 わたし云ってやったわ。あなたの鼻裏照して呑むから置いて行って下さい、て。

そしたら、あの人、部長の爪の垢貰ったら

分けてあげるから、だって。仲々の、狸婆よ。

英子 何の話？

友人 あの方の匂いが残ってるじゃないの、とほけたって。

英子 疑ぐりぶかい人ね。

友人 まあ、いいわ。どうするの？

英子 何が？

友人 今度の課内の旅行よ。

英子 そうね…。

友人 職場では、かなり旅行に反対してたよ

うだけど、わたしにもうなづける処はあるからさ。

英子 でも、皆んな行くようだとね…。

友人 係の親睦をはかるためだ、て云っても結局はお座なりの時間つぶし、係長や課長のそれも最低の隠し芸披露の場になつてない、あとはおつししようとおべっかの競争競演、人間的な交流融和をはかるんだ

つたら、もっと別に方法があるって…。

英子 ……

友人 そうなんだよね、それを誰かが云わなければならなかったのよ、勇気があるわよ。

英子 ……

友人 ……

英子 ……

友人 でも、いきなりというのはね、個人的理由で不参加ということを重ねていった上で、そういうふん開気の中であらともかくやっぱり心情的に反発する人もでてくると

思うの、あれでは。

英子 そりゃそりゃ。

友人 ……

英子 軽はずみよね、その場の空気も考えないで。

友人 やっぱりね、どうもあなたにしてはおかしいと思っただけだからさ、だから。

英子 で、あなたは？

友人 まだきめてないのよ。今度の場合は特にねらいがはつきりしてるでしょう。

英子 何？

友人 何って、近々、社内異動があるでしょう、社内の行事に積極的に参加するかしん

いかは、その社員の評価にかなり影響すると思うの、まあわたしは最初からはみ出し者だから、いいようなものだけだ。

英子 そうね。

友人 それに、組合の闘争も次第に強まってくるし、色々今年はずわつてくるわね。

英子 うん…。

友人 どうする？

英子 え？

友人 だから、旅行よ。

英子 あ、そうね。

友人 あなた、近頃どうかしてるんじゃない？

英子 どうして？

友人 他人に迷惑さかえけなければ、何をやるうと、それはあなたの自由でしょうけど

片方であんな強硬な意見をだしながら、翌日になるとケロリとして、係長の肩もんで

あげながら、にこにこしてさ、あんまり極端過ぎるわよ。

英子 そう…。

友人 そう、て？

英子 ううん、つい、その…。

友人 誰もいまいちあなたの行動を干渉するつもりはないわよ、だけど何も部長が来た

からっていいそと皆んなの前で背広のホコリをとってあげることはないと思うわ。

おまけた部長が十メートルも先に行くまで最敬礼をしてるなんて、そんな見せつける

ことないじゃないの。

英子 そりゃそうね。

友人 そうかと思うとどこ見てるのか焦点の合わない目して黙りこくって、返事もしな

い、誰だかっていい気持ちしないわよ。

英子 よく云っとくわ。

友人 え？

英子 いえ、だから気をつけるわ。

友人 やっぱり、あなたおかしいわね。あなたの彼から、この間電話があったわよ、この処会ってないんだってね。

英子 ……

友人 別れたんだつたら、はつきりそう云ってあげればいいじゃないの。何だか幽霊居るとか居ないとか、その子がとても可愛

いからだとか、他人に話したら頭がおかしくなつたんじゃないか、て思われるような話でたわむれてないでさ、可哀相よ、彼だ

ってそれじゃ。差し出がましくて、あなたは気分を悪くするかもしれないけど、あなた人あなたに向いてないんじゃない。

英子 え？

友人 あの人云ってたわよ。たまに会うと、直ぐに肩が痛とか腕がしびれるとか、こ

っちが一生懸命で話しかけているのに、いつも上の空、何を考えているのか分りゃしない、そりゃ仕事で単調で疲れもあるかもしれないけど、二人で会つてるとき位、もっとロマンがほしい、あれじゃ結婚したらど



こもかしこも直ぐにしながらびてしまおう、て。  
英子 ……。

友人 年をとればしなびるのは当たり前じゃないの、女性をそういう条件におとしめてるのは、今の社会のせいじゃないの、だから愛してる者同士が、力を合わせて、お互いをいたわり合いながら生活していかなくちゃならないし、少しでもわたし連女の社会的条件を良くするために、男性は愛する女性を通して、手をかすのが当然でしょう。それを最初から女は男に奉仕する者、そこにはかまを感ぜないなんて、どうにもならないわよ。

英子 ……。

友人 あれじゃ、大体女性を理解してるとは云えないわね。

英子 分ったわ。

友人 何が？

英子 帰っていいわよ。

友人 え？

英子 集団で仕事をしているんだから、そのルールを乱すような行動に対する批判は甘んじて受けます。でもプライベートなことまで立ち入られたら、不愉快よ。

友人 何ですって？

英子 そうでしょう、わたしが彼と別れようと、あなたには関係ないでしょう。

友人 わたしね……。

英子 わたしの為を思って、て云いたいんでしようけど、ありがた迷惑の場合だってあるのよ。わたしにだってわたしの考えがあるわよ。

友人 そうお、それならいいわよ。

英子 わたしはね、今度のストライキには参加しません、その替り、今の仕事を替えてもらう、ちゃんと約束したのよ。

友人 え？

英子 けい腕症やけんしよう炎で一人一人倒れていってるとじゃない、二度と立ち上れない人だっている、でも誰も救ってあげられないじゃない。そりや今の世の中の仕組みがそうなっているからって云えばそれまでだけど、何故女性だけにこんな合理化のシワ寄せがくるの、次の次にけい腕症で倒れるのはあなたかもしれない、もちろんわたしかもしれない。待ってるわけにはいかないじゃない、病気になるからじゃ遅過ぎるのよ、其処から一日も早く逃れたいって気持ちの間違いだって、云える？

友人 だから何だって云うの？

英子 皆んなでその火の粉がはらえなければ自分一人でもやらなくちゃいけないじゃないの。結果として皆んなを裏切ることになるかもしれないけど、一人一人置かれた条件が違うんだから、仕方がないでしょう。

友人 働く条件は皆んな同じよ。

英子 だまされたと思えかけて、だまし返したっていいでしょう。

友人 それにはね、わたし連の気持がひとつにまとまっていなければ、有名無実じゃないの。

胴体 胴体が飛び出して来た。

友人は飛び上った。

胴体 どうか、お止めになって下さい。

友人 ……。

英子 あなた……。

胴体 わたしが軽はずみだったばかりに、御迷惑をかけてしまって……。

英子 引っ込んで下さい、あなたは。

友人 ……。

胴体 いいえ、云わして下さい。そんなこととは露知らず、あなたの為を思うばかり

に迅速正確、規則に忠実、それに気を取られ過ぎ、返ってわたしの頭は混乱し、反応がちくはく、そればかりか、あなた方の美しい友情にまで傷をつけ、本当に泣いても泣ききれません。

英子 何云ってるの、あなたはわたしじゃないの。

友人 ……。

胴体 というお情に甘えっぱなしで、あ、わたくしとしたことが、恩を仇で返すようなことをしてしまっ、何とお詫びしていいのやら……。

友人 どういうこと、これ？

英子 もういいわ！

友人 ねえ、誰？あなた……どっちなの？

胴体 このつぐないは恥度はたします、何でもおっしゃって下さい。

英子 あなたは、わたしの幽霊でしょう、幽霊は幽霊らしくして頂戴！

胴体 はい。でも、あなただって、わたしの幽霊じゃないですか。

友人 ……。

英子 ……。

大家が上って来て、呼びかけた。

大家 英子さん、電話よ。

英子 ……。

友人 ……。

大家 英子さん……、あら、居ないのかしら、英子さん……。

胴体 あ、留守です。

大家 あ、そう。え？ じゃ居るんじゃないの。

胴体が人格を形成し出した。

### 三、日常には調和が必要だ

暫く振りで、大助が訪ねて来た。

桜英子は胴体に応待をまかせることにした。  
友人が彼に何かしゃべったかもしれない。この間の云い訳もしなければならぬ。それに胴体の反応を確かめる必要もあった。

そして何よりも、日常の調和を保つことにせまられていた。(むろん英子は聞き耳をたてていた)

友人 だから何だって云うの？

英子 皆んなでその火の粉がはらえなければ自分一人でもやらなくちゃいけないじゃないの。結果として皆んなを裏切ることになるかもしれないけど、一人一人置かれた条件が違うんだから、仕方がないでしょう。

友人 働く条件は皆んな同じよ。

英子 だまされたと思えかけて、だまし返したっていいでしょう。

友人 それにはね、わたし連の気持がひとつにまとまっていなければ、有名無実じゃないの。

胴体 胴体が飛び出して来た。

友人は飛び上った。

胴体 どうか、お止めになって下さい。

友人 ……。

英子 あなた……。

胴体 わたしが軽はずみだったばかりに、御迷惑をかけてしまって……。

英子 引っ込んで下さい、あなたは。

友人 ……。

胴体 いいえ、云わして下さい。そんなこととは露知らず、あなたの為を思うばかり

大助 なあ、今度の連休、何処か旅行しないか。お金なら心配しなくてもいいよ、一寸

した余分のお金が入ったからさ。

胴体 あ、わたしですか？

大助 え？

胴体 いえ、いいわ……、行きたいわ。

大助 少し気晴しもしてみたいし、休みとれるだろう？

胴体 え、まあ。困っちゃったわ。

大助 うん、泊りがけというのがいやなら、

それもいいけど、でも泊ってもぼくはちゃんとしてるからさ。

胴体 ちゃんと、何がですか？

大助 うん、そりや、何というか、何となくさ。

胴体 何となくちゃんとしてるって、どうするんですか？

大助 だから、そりや……あれさ……。とにかくどっちなんだい？

胴体 そうですね。

大助 何処がいいかな、海、山、高原、ぼくの田舎、田舎はいつでも行けるから、めっ

たに行けない所がいいな。

胴体 え。

大助 ……。

大助 ……。

大助 ……。

大助 ……。

胴体 ……。

大助 ……。

大助 ……。

大助 ……。

大助 ……。

大助 行き度くないの、それとも疑ってるのかい？

胴体 いえ、とんでもないわ。

大助 それにしては乗気のない返事だな。

胴体 まだ、慣れてないものですから。

大助 え？

胴体 いいえ、その、何というのかしら、どきどき、わくわく、目の前がくらくらするものだから……。

大助 だってまだ先の話よ。

胴体 そうですね、先の話を、こんなにありありと想像するなんて、わたしどうかしてるかしら。

大助 どうかしているよ。

胴体 少し興奮してるのかしら、わたくし。

大助 え？

胴体 いえ、わたし、あなたのこと、ずうつ

と想い続けていたものですから。

大助 何だい、急に。

胴体 やつぱり、あなたは世界一素適な男性です、わたしなんかには勿体ない位、そのあなたの山よりも高く海よりも深い愛に、どのように応えるべきか、あれからずうつと……。

大助 止せよ、そんな歯の浮くような……。

胴体 いいえ、本当なんです。それに引き替

え、わたしは全く平凡なごくありふれた女居るともなく居ないともなく、めだつともなくめだたなくともなく、まづしいたはず……、でもあなたにお会いできたというのは、きつと神様のお引き合わせ……。

大助 調子が良過ぎるよ。

胴体 嘘いつわりではありません。これからあなたの仰せのままに、たとえ火の中水の中、小犬のようになれと云われるなら、あなたの膝元にじゃれつきませ、月の石が欲しいと云われれば、何としても手に入れます。あなたを幸せにするためにはどんなことでもいはいはいたしません。あなたはわたしのもの、わたしはあなたのもの、もう誰の手にもふれさせたくない、わたしは、その悩ましい苦しみで死ぬ想いをしているんです。

大助 分ったよ。

胴体 え？

大助 君は、やつぱりおかしいよ。

胴体 ……。

大助 ぼくだって考えたんだよ。

胴体 そうですか、わたくしの気持、やつぱ

り分ってくれていたんですね。

大助 ぼく達若い働く人間が機械の奴隷のように使われていて、どうしてお互い幸せになれるんだい。段々と片端者が増えていくだけじゃないか。

胴体 それは……。

大助 男が女を小犬のようにあつかったり、女が男のための犠牲に甘んじていて、お互いどうして満足できるんだい。我慢を強ければ怨みつらみが重くなるだけ、いつかゆがんで噴き上るだけさ。男も女もお互い独占できるものでもないし、ぼくは世界一いい男だなんても思っていない……。

胴体 そうですか、そりや良かった。

大助 もう少し、会うの止めとくかな。

胴体 え？

大助 本当はね、君は少し疲れてるんじゃないかと思つたのさ、だから何処かで精神的にも肉体的にも休養する必要があるんじゃないか、て考えたのさ。ぼくが居ると邪魔なら、それでもいい……。

胴体 とても嬉しいです、幸せです。

大助 だけど、本当に駄目なかな。

胴体 は？

大助 もっと根本的な治療が必要だとしたら

……、つらいね。

胴体 そんな悲しいこと云わないで下さい。

大助 ぼくの云ってること、分ってるの？

胴体 だって、わたしは医者に診てもららう程

不健康じゃありません。

大助 誰だって自分は病人じゃないって云う

んだよ、そういう病気に犯されてる場合だ

ってあるんだよ。

胴体 だけど、直ぐに医者や病院を連想するのは、その人の精神がどこか不健康だからだと、わたしは思います。

大助 ……。

胴体 すみません……。あなたの好意を無視

するようなことを云ってしまつて。

大助 ぼくには分らなくなってきたよ、君

て人間。

胴体 そんな悲しい目をしないで下さい、わたし

ただ……。

大助 ずっと考えていたんだけど、やつぱり

あんな風に君が考える、いや妄想かもしれ

ないけれど、あすこまで追い込まれている

らしい君の仕事の状態を思うと、いちがいに

君をせめちやいけない、反省したんだ

よ。もしかしら、幽霊だか幻想だか、そ

れに託している君の気持の方がずつとぼく

よりも健全かもしれない、ぼくみたいに気

にいらなくなつたり、飽きたら次々と働く

所を替えている状態の方が、もしかしら

頹廃してるんじゃないか、てな。

胴体 すみません、わたしにはよく……。

大助 今日、君の目にもきれいだよ。だ

から余計に、ぼくは君のことが分らなくな

つたのかもしれない。そんな澄んだ目を

して、何故あんなマゾミたいなことが云え

るんだい。ぼくのことを本当に好きだつて

いうのなら、ぼくに對する不満や注文がい

くらだつてあるはずだよ。ぼくの全てを包

みこみ、ぼくに全面的に服従するなんて信

じられないじゃないか。一方的な君の想

込みを受け応えできるほどの自信はぼくに

だつてないよ。

胴体 困つたわ……、あの……。

大助 え？

胴体 でも、わたくしの気持は本当なんです。

大助 じゃ、出直して来るかな。

胴体 わたくしも買物を頼まれてるから……

其処まで御一緒します。

大助 いや、いいよ。ぼくは急いでいるから。

胴体 待つて下さい。

胴体は追いかけて、出て行つた。

桜英子の悩みは深くなつた。

今の社会に調和なんてないのかもしれない。

桜英子は、何かしら決意しなければなら

ない、予感がした。

大家が手紙を持って来た。

大家 桜さん、手紙よ。

英子 どうも、すみません。

大家 あれ、どう？

英子 は？

大家 前に云つておいたでしょう、立ち退き

のこと。

英子 そんなに急ぐんですか？

大家 今直ぐつて訳じゃないけど、わたしの

方にも色々都合がありますからね。

英子 え……。

大家 あの……最近、もう一人居られるよう

だけど、お友達の方？

英子 え……、まあ……。

大家 あなたみたいに、きちんとさんとして

下さつて部屋もきれいに使つてくれる方に

こんなこと云うの、なんだけど、この部屋

の契約はあなたお一人ですからね。

英子 え？

大家 お二人が住むんだったら住むで、そのように云ってもらわないと、いえ部屋代を倍いただこうって訳じゃないんですけど、その辺のことはね、分るでしょう。

英子 え……。

大家 それだけ消耗度合いがはげしいんですから、それも色気づいた女が二人でしよう？

英子 すみません。あの人田舎から出て来たばかりで、部屋がみつかり次第、そちらの方に移しますから……。

大家 いえ、それならいいですよ。この間みたいに云われたら、わたしの方だって、やっぱりね。

英子 は？

大家 そりや、人間ですから虫の居所の悪いときもあるでしょうけれど、あれじゃあんまりですよ。

英子 はい……。

大家 だってそうでしょう、二人で住もうと五人で住もうと、あなたがつべこべ云うことないでしょう、この強欲婆、ですって。そうでしょう。旦那に死なれて欲求不満なんです、ハケ口に困ってる男紹介して

あげましようか、そんな男なら右から左、何人でも知ってるから、だって。わたしはもう顔から火がでるほど恥しかったわ。

英子 あの人……。

大家 え？

英子 仕事のこと、一寸気が立ってたものですから……。

大家 あなたたつて人、見損ったのよ本当に。人は見かけによらないと云いますからね、それにあなただつて、満更男を知らないって訳じゃないんでしようからね。

英子 は？

大家 今度、そんなことあったら警察に訴えようかと思つたのよ、だって、怖くて怖くて、夜もろくろく眠れないじゃないの。

英子 本当に、どうも……。

大家 ですから、分つてくればいいのよ。やっぱり一ツ家根の下に住んでるのも、何かの縁かもしれないし、もとは他人であっても、折角の人間の出合いは大事にしてゆきたいと思つますからね。

英子 分りました……。

大家 あの方、最近見えないの？

英子 え？……。

大家 若いつていいわね、わたし、夢見たわ

よ、あなたの彼とデートしている。気をつ

けなさいよ、他の女にとられないように……

ホホ。

英子 え……。

大家 あなたもやがては一家を支える女になる人、苦しみにも悲しみにも耐えてゆかなくちゃならないんだし、名もなく貧しく美しく、であるじゃないの。

英子 ……。

大家 じゃ、よろしくね、お願いね。

英子 すみません……。あの人……。

大家はそそくさと引き返した。  
桜英子は、腹立たしいと同時に、奇妙な感慨が湧いてきた。

英子 ……。

大家を取り直して大助が引き返して来た。少し云い過ぎたかもしれない。興奮気味で、自分の気持が充分に伝わらなかつたかもしれない。

大助 ……。

大助 どうしたの？

大助 ……。

大助 君は……、誰……。

英子 わたしは……、あつけない……。

大助 やっぱり、君は幽霊なのか？

英子 うん、わたしじゃないのよ、わたしじゃない……。

大助 どっちなんだい？……どっち……。

大助は腰を抜かして、へなへたと坐り込んだ。  
英子は暗喩に次の動作が思い浮ばなかった。どうすればいいのだ。

#### 四、今の世の中で調和をもとめるのは無理だ。

桜英子には、現在の社会の中で調和をもとめようとする事と自体の無理が、次第に分つてきた。

調和をもとめるというのは、もしかしたらこの世の中を変えることと同じことかもしれないと考えた。

だとすれば、先ず自分の生き方を変えなければならぬではないか。

或る朝のことである。  
救急車のサイレンが街並みの静けさを破つて走り去つた。

上司が彼女の側に立っていた。  
もちろん、胴体は姿を消していた。

上司 ホホ……、これですっきりしたじゃないの。少し荒療治かもしれないけど、橋根は早いうちに断つた方がいいのよ。少し荒

つぼ過ぎたかもしれないけど、あなたの胸雲つて人を、しばりつけて救急者に放り込んだわ、もう大丈夫よ。あとは病院や医者が処理してくれるわ、あなたも一緒にどうか、て云つてたけど、それはうまく断つてあげたのよ。あいつのためにあなたがおかしくなつてんだもの、見るにしのびなかつたのよ。昔から狐ツキというのがあつて、その人のもつて生まれた怨霊が、ある時機になつて本領を発揮した。特に女にはそれがとりつきやすいのね、昔からよくあるのよ。

英子 え……。

上司 わたしなんか、自分の影におびえたりする時があるのよ。鏡にうつつた自分が他人に見えたり、その後にもう一人別人

が立っていて、わたしの髪を撫でつけようとしてるように見えて、はつとするの。

英子 ……。

上司 男という男が、妙に脂ぎつてセックスの固まりみたいに見えるとか、その男達に突然おそれられるんじゃないかって、おびえてみたり、よくあるんじゃないか。まあそういうのは他愛ないし、むしろ可愛気があつて女には似つかわしいことかもしれないけれど、あなたのように重症になつてしまつともう第三者が手を貸してあげないと、どうにもならないのよ。悪く思わないでね。

英子 はい……。

上司 というよりも、結果として、災い転じて福となす、雨降って地固まるというのかしら、あなたの悩みも、これでさっぱりしたという訳よ。どちらと云えば、わたしはあなたの恩人ということになるかもしれないわね。

英子 あの人、あはれましたか？

上司 え？

英子 怪我はさせなかつたでしょうね。

上司 あら、まるでわたしが悪いことしたみたいなのよ。

英子 そんなつもりじゃありませんけど、わ

たしに一言ぐらい相談してくれてもいいと  
思います。

上司 あなたが精神的情緒的不安定にあるらしいという状態、そのことで困ってるらしいという客観的事実、わたしは全てキャッチしたからよ、状況証拠は、みんな揃ってるよ。

英子 それには原因があるんです、その原因を先ず取り除くべきです。

上司 馬鹿なことおっしゃい。それはわたしの仕事じゃありませんよ、夫々に持ち場持ち場というのがあるんだから。

英子 でも、あ人にだって人格はあるんだし人権蹂躪ですよ。

上司 人権？

英子 いえ、幽霊だから、幽霊かもしれないん。

上司 馬鹿なこと云わないで、あなたはまだ……。

英子 それに、他人の、それも女の子の部屋に無断で入って来て、家宅侵入罪ですよ。

上司 何ですって……。

英子 生活権をおびやかしています。

上司 桜さん、あなた誠になってもいいのね。

英子 誠？

上司 よく考えてごらん下さい。あなたは家

でのうのうとしていて、他人に、いやこの場合あなたの分身というべきかもしれないけど、それにしても、社会的にも常識的にも何ひとつ説得性のない生き物か、幽霊かとにかくあなた自身じゃない人間か、あなたの替りを果たすというのは、法的にも慣習的にも許されないのよ、そのくらい分るでしょう。

英子 ……。

上司 そんな風に大事になっては可哀相だと思ひ、あなたの将来性も考えてのことじゃないの。

英子 あの人だって可哀相です。

上司 あなた、本当にそう思ってるの？

英子 どんな人達にだって、働く権利は保障されてるはずですよ。

上司 桜さん、あなたも一緒に病院に入った方がいいんですよ。

英子 わたし迷だつて、あそこで数字を見て

キイをたたくだけが仕事だと思ひていません。仕事は他にだってあります。仕事場の実態を社会に報告することだって、できます。

上司 ……。

英子 ……。

上司 ホホ……。桜さん、心配いらぬのよ。今朝此処に踏み込んだときには、あなたの相棒の方はすでに居なかつたのよ。

英子 ……？

上司 だから、さっきから云ってるじゃないの、狐ツキ、怨霊、て。あなたの幻想、妄想なのよ。はっきりしてるのはね、あなたが想い込んでいることを、わたし達で取り除いてあげようとした、でもそんなものは現実には見えないんだし、もともとありはしない。あなた自身を説得するために、教急車まで呼んで、あなたの精神を回復させようとしたのよ。つまり演じてあげたの、人間で、何か一生懸命で相手につくす努力が通じれば、目が開かれる、いえ洗われてウロコがとれてゆく、そういうものですよ。

英子 ……。

上司 でも、駄目みたいね。あなた。

英子 お帰りになって下さい。

上司 この実験は失敗だわ。

英子 それはそうでしょう、あなた自身が幽霊になってるんだから、幽霊が見える訳ないと思います。

上司 はっきり云いますけどね、桜英子が一人出勤してくれてればわたし達には支障はないの、今迄通りにね。だけど、デマゴギーやあらぬ風聞を吹りまいて、人心をまどわすことが困るのよ。あなた、本当は正常なのかしら……。

英子 当り前です。

上司 ようく考えておいて頂戴。帰りますから……。

上司は帰って行った。

桜英子には、しかし疑惑が消えなかつたいつの間にか、というよりいつからか、彼女の疑惑の正面に胴体がたたずんでいた。

つまり、胴体は姿をかくしていたのだ。

英子 あなた……。

胴体 帰りましたか。

英子 何処に居たの？

胴体 わたしもしいつの間にか知能が育ってきているのでしうか、今朝はすごく悪い子感を感じました。

英子 良かったわ。わたしは本当に連れていかれたのかと思ったのよ。

胴体 すみません。

英子 さっき分つたんだけど、やっぱりあなたが居なくなつたら、というのか、わたしの中に同化してしまつたら、とても淋しいと思うの。

胴体 涙がこぼれそうだったんです、わたくし。

英子 え？

胴体 わたしのために、あんなに怒ってくれているあなたの言葉を聞いていて、何だかあなたに悪くて、迷惑ばかりかけてきたような気がするんです。

英子 どうしたの……。

胴体 はい……、それで……、お別れしなくちゃならないんじゃないか、て思ってるんです。

英子 え？

胴体 いえ正確には、あなたがわたしで、わたしがあなただから、わたしがあなた自身になることですけれど。

英子 どうするの、今更？

胴体 実は、それで……。

英子 もう手遅れでしょう。

胴体 わたしは、あなたから生れてきたんだから、その逆を辿ってゆけばいいんじゃない

いでしうか。

英子 それで？

胴体 ですから、数字を見て一分間に二万タツチ、キイを打つなどということを忘れる。出勤時間も出勤場所も忘れる、規律や規則も意識の中から消してしまふ。

英子 そんなあなた……。

胴体 いいえ、それをやって下さい。寝過しても、決して電話なんかかけに行かないで不貞寝をするんです。できるだけ、勤めはじめた当時の自分にもどるんです。

英子 そんなことしたら、誠になっちゃうわよ……。

胴体 でも、それをしなくちゃ、いつ迄たつても、同じことが続くんです。

英子 え……。

胴体 あなたの意志に反したことはかり、この処、わたしやっちゃってしまつて、本当に申し訳ないと思ってるんです。

桜英子は選択を迫られた。むろんやれるかやれないかは、やってみなければ分らない。

しかし、自分の主体性は、今はっきりさせるべきだろう。いいチャンスだ、とい

うべきかもしれない。  
しかし……。  
友人が来た。

友人 どうしたの、何かあったの？

英子 うん……。

友人 お別れのエレジー？

英子 違うわ。

友人 そうですよ、一心同体になる話ですよ。

友人 そうね、一心異体じゃ、誰だって信用できないものね。

英子 なあに、用事は、こんなに早く？

友人 あら、あなたから電話があったから来たんじゃないの、大変だ大変だ、ていうから。

英子 え？

胴体 どうもすみません。

英子 あ、そう。

友人 あ、そう、て失礼しちゃいわ。朝早くからたたき起しておいて。

英子 この人、連れていかれそうになったのよ、救急車で。

友人 え？

英子 ううん、本当は連れて行かれる訳ないんだけど、狸婆さん親切ぶって、今朝……

友人 やっぱり……？

英子 失敗だったって、帰って行ったけど。

友人 でも、彼女をあなた達二人でばっちり

出迎えたら、きっと誤抜かすわね。

英子 そうね、彼女には信じられないことなんだもの。

友人 だけど、好奇心と猜疑心のかたまりみたいな処があるから、次の手を考えてくるわね。

英子 だから、今二人で相談していたの。

友人 何？

英子 わたしは、覚悟をきめたのよ、もうこの人を当にしないで、生きてゆこうって。

友人 え？

英子 わずらわしいことや、うっとおしいことが起き過ぎるもの……。

友人 そう……。

英子 虫の良過ぎる話は、そう永続きはしないものね。

友人 反対だな、わたしは。

英子 え？

友人 ねえ、もしかしたら、わたし達が幽霊

英子 ……。

友人 わたしやあなたみたいに、数字を見て

キイをたたくだけ、機械に追いつ追われつ

抜きつ抜かれつ、きめられた時間に、きめ

られた仕事の反復繰り返し、それをやれる

のは機械か幽霊しかできない、じゃないか

しら。

英子 ……。

友人 わたしはわたし自身が幽霊になってしま

ったから、わたしの幽霊が見えないのか

もしれない……。正直云ってあなた達はど

つちななの？

英子 へ理屈よ、そんなの。

友人 逆かもしれないけど、わたしはあな

た程きちんとしてる方でもないし、適当に

サボるし、結構ずぼらな処があるから、わ

たしの分身が生れてこなかったのかもしれない

けど……。あなた達はもっともって仲

良くやってた方がいいと思うけどな。

英子 そうじゃないのよ。本当は毎日々々が

とてもゆううつだったのよ、だから仕事を

してる間中、気持だけは他のことを考え、

色んなことを空想して、なんとかその日を

誤魔化したのね。月曜日になれば、次の

日曜日までだ、日曜日になれば、次のポ

ーナスの月まで、ポナスが過ぎれば、結婚

するまでだ、て。だましました毎日をやり

過ぎていたせいなのよ。この人の現れる前

に、すでにわたしは肉体と意識がバラバラ

になってたのよ。

友人 で、お望み通りになったんでしょう、

折角まわってきたチャンスを葬むる手はな

いじゃないの、それを最大限に生かさなく

ちゃ。

英子 と思ってたけど、ごらんの通り、方々

でポロを出し続けよ。

友人 だけど、それはこの人のせいじゃない

わ。

英子 そりゃそうだけど、自分だけ一人占め

で甘い汁を吸おうと思っても、そうはいか

ないのよ、やっぱり。

友人 あなた達は理想的な関係よ、わたしだ

ってあやかりたいけど、わたしみたいに不

正確不誠実では無理みたいね。

胴体 すみません。いつもお二人のいさかい

の種を蒔いてしまっ

英子 あなたは黙ってなさい。

友人 いいじゃないの。

胴体 わたしにも少し云わせて下さい。本当

はわたし達の関係が、あの人達、つまりわ

たし達を管理している人達には見えないん

ですよ、いや見たくないんです。多分あの

人達にとっては妄想はあくまで妄想でなく

ちやならないんですよ。妄想が現実になっ

たら、今の秩序がこわれてしまうから。

友人 え？

英子 ……。

胴体 同じ名前の人間が二人づつ居ても、二

人の人間が同じ名前を使っても、どっちに

しても、やゝこしくて新しい秩序が必要に

なってくるんでしょう。

友人 ……。

英子 ……。

胴体 わたし達の関係が、あの人達に絶えず

二重写しに見えていたら、それも皆んなが

そうになったら、わたし達の方が先を越せる

かもしれないね。

友人 先を越す？

胴体 管理されてる人間が、それも女性だけ

が二人づつに見えたら、きつと楽しいでし

ようね。女性が二重三重に差別されている

今の象徴みたいで、きつと愉快だろうと思

います。

英子 あなた……。

胴体 すみません……。

友人 それは面白いわ。

英子 あなた、いつの間……。

友人 一人はとても従順で、もう一人はとて

も活発で、入れ替り立ち替りしていたら、

男の人ばかりじゃなくて、職場の中だつて

慌てる人がいっぱいいてくるわね。

胴体 あっ、いけない時間過ぎちゃってる。

友人 ……。

英子 何？

胴体 出勤です、電話してきます。

胴体は馳けて行った。

ダイヤルをまわした。

胴体 もしもし……。

職員 もしもし。

胴体 わたくし、桜英子ですけど……。

職員 お呼びするんですか？

胴体 いえ、実は……。

職員 どつちななの？

胴体 実は今朝、一寸頭が痛くて……。

職員 あなた、誰？

胴体 桜英子ですけど……。

職員 バカね、桜さんはちゃんと来て働いて

るじゃないの。

胴体 ……。

胴体はしよげた。  
引き返して来た。

大家は二人を見比べて、  
気の毒に声もだ  
せずに、くずれ折れた。

友人 どうしたの？

胴体 やっぱり世の中を変えなければ、調和

をもとめるのは無理なんですね。

友人 ?.....

英子 ?.....

胴体 わたしの替りが、働いていました。

友人 え??

英子 え??

大家が駆け上って来た。

大家 桜さん……、英子さん、大助さんから

電話よ。

英子 はあい。

大家 朝早くから、おやすくないわね。

英子 すみません。

大家は引き返そうとして、胴体に気がつ  
いた。

大家 ??……、だ、だ、だ……。

### 上演許可と上演料について

上演には作者の許可が要ること  
は当然ですが、上演料についても  
作者との諒解の上に立つことがの  
ぞましいと思います。

最近、上演料についての問合せ  
が多くなりました。そこでもう一  
度参考までに、昭和四十七年一月  
に定められた、日本演劇協会の規  
定を参考に供しますが一方的にこ  
れに準じて支払えば済むというも  
のではありません。

勿論、著作権を代行している出  
版社や作者によってはこの規定ど  
おりで行われている場合も多くあ  
りますので、この規定には十分有  
効性はあります。しかし何分にも  
制定後六年も経ておりますので金  
額については考慮することが必要  
かも知れません。

#### ◇上演料

昭和四十七年一月一日改訂  
の日本演劇協会規定による

#### 上演一回につき

##### a 無料公演の場合

- 1 上演90分以内 千円以上
- 2 // 90分以上 二千円以上

##### b 有料公演の場合

- 1 入場料三百円以下  
上演90分以内 五千円以上  
// 90分以上 一万円以上
- 2 入場料七百円以下  
上演90分以内 八千円以上  
// 90分以上 一万六千円以上
- 3 入場料千円以下  
上演90分以内 一万円以上  
// 90分以上 二万円以上
- 4 入場料千円を越えるとき  
当事者の談合による

### ■あとがき■

◇本号は思わぬ苦しい編集になりました。基調論文やレポートが準  
備できず、やっと、黒沢、こばやし両氏に急場を救っていただきま  
した。とくに、こばやし氏には公演のさ中で、大へんご迷惑をかけ  
ました。

◇劇評はやや体を成したと思っております。寝言のとき拙文を別  
にすれば、読みごたえのある陣容です。外部からの、嶋田邦雄氏、  
阿部好一氏のご協力にお礼申し上げます。

◇戯曲は、特集号予定の二本を繰り入れました。まさに、炎暑下に  
涼風を送る快作と存じます。

◇自民党の手で日中平和友好条約が調印されました。これの持った  
意味は複雑であります。戦後33回目にあつい夏。小生にとっても、  
苦い戦争の記憶が甦って参りました。最近、浅野良二氏の「ふり  
返れ青春の詩集」を読み、そこに同じ思いを見ました。(もも)

演劇会誌 三九号 一九七八年八月二十五日発行

定価 三五〇円(送料二〇〇円)

編集委員

黒沢参吉・こばやしひろし  
丸子礼二・仲 武司・土屋 清

藤沢 薫・萩坂桃彦

発行所

演劇会誌 発行所  
川崎市川崎区渡田四一・一三

萩坂方

電話 〇四四(33)〇七七五

誌代銀行振込は川崎信用金庫小田支店一三三三二七